

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 検証結果（事業評価及び進捗状況）報告書

（令和元年度事業）

令和 3 年 3 月

上牧町

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略事業一覧

基本目標	基本的方向	基本施策	取組内容
①教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する	①地域による教育・子育て環境の充実	①子どもの学力向上支援	1. 学校支援事業の研究・協議 2. ICTを活用した教育支援 3. 学習支援教室の開催 4. 様々な専門講座の開催 5. スポーツ教室や野外活動教室の開催
		②子どもたちを上牧町みんなで育てようプロジェクト	6. 学校を中心としたコミュニティ網の形成 7. 子育てにおける様々なコミュニティ形成プログラムの企画・運営 8. すべての学習活動を道德教育や人権教育を意識し推進 9. 子どもの読書活動の推進
		③地域ぐるみの子育て支援	10. 情報交換拠点の整備 11. 地域における保育環境の改善事業 12. 乳幼児子ども防災意識向上事業の実施
		④就学前教育の充実	13. 英語教育の充実 14. 体育教育の充実
	②ライフスタイルの多様化に対応した結婚・出産・子育て支援	①結婚・出産・子育ての希望を叶えるための支援	15. 婚活イベントの企画・実施 16. 結婚希望者相談窓口の設置 17. ワンストップ相談窓口の設置 18. マタニティ教室の開催 19. 乳児・幼児健診の実施 20. 新米ママへの訪問カウンセリングの拡充
		②不妊・不育症治療支援	21. 不妊治療助成制度の創設 22. 不育症治療助成制度の創設
		③安心して共働きできる環境の整備	23. 通勤時間のかかる世帯の延長保育料金の支援 24. 病児病後児保育機能の強化と保護者負担の軽減 25. 子育て支援セミナーの開催 26. パパ教室の開催 27. 乳幼児教育の充実 28. ファミリー・サポートセンターの実施 29. 放課後児童クラブの充実 30. 子育てママ就業支援事業
		④特別支援教育の実施	31. 通級指導教室の充実
	③ふるさと教育の充実	①ふるさと教育の充実	32. 県や地域と連携した学習体験・交流活動の実施 33. 県内優良企業や町内企業における職場体験学習

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略事業一覧

基本目標	基本的方向	基本施策	取組内容
②若者世帯を中心とした転入世帯が住みやすい住環境を整備する	①既存ストックを活用した住環境の整備	①空き家活用プロジェクト	34. 空き家バンク登録物件の説明会の開催 35. 登録物件の測量及び活用事例の紹介 36. 貸主と借主との仲介
		②UR 住宅の活用による若者世帯の定住支援	37. UR 住宅の活用協議 38. UR 住宅への入居促進
		③公共交通の利便性向上	39. 上牧町交通政策検討会の開催 40. コミュニティバスの利用促進
		④コンパクトシティ PR 活動	41. 上牧町魅力発信ツアーの実施 42. イベント等における町の PR の実施
	②若年層の帰郷の促進	①同居・近居支援	43. 同居・近居相談窓口の設置
		②帰っておいでプロジェクト	44. 大規模同窓会等の支援 45. 地域イベントへの招待
③広域連携・地域連携による地域力の向上を推進する	①地域資源を活用した広域連携による魅力創出	①北葛 4 町における公共施設の相互利用	46. 公共施設の相互利用 47. 相互利用施設の情報発信
		②地域資源をつないだネットワークの形成	48. 広域連携による観光プログラムの企画・周知・運営 49. 久渡古墳群等の文化財の保存及び整備の推進 50. 滝川整備事業
	②広域連携による地域力の向上	①空き家バンク共同利用	51. 近隣自治体との空き家バンクの共同運営
	③地域活動・NPO 活動の促進及び地域住民の活躍の場の創出	①人材バンクの拡充	52. 町内の優れた技術・能力を有する人材発掘 53. 人材バンクの情報発信
		②地域活動・NPO 活動への参加機会の創出	54. 地域活動支援 55. 地域活動の情報発信 56. 新規 NPO の立ち上げ支援 57. ボランティアの育成・団体立ち上げ支援 58. 自治会設立支援
		③防災活動支援・促進	59. 防災訓練の定期的な実施支援 60. 近隣自治体との合同防災訓練の実施 61. 子供向け防災教室の拡充
		④公募型補助金の活用促進	62. 上牧町協働のまちづくり公募型補助金事業
	①地域資源を活用した雇用支援	①空き家を活用した雇用創出	63. 空き家への事業者入居及び町民雇用の促進 64. 町内事業所勤務者の入居促進
④上牧町で働き続けられる環境をつくる		②就職情報発信及び就職支援	65. 就職情報発信 66. 就職準備セミナーの開催

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	社会教育課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	57ページ
担当係	生涯学習推進係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標	① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する			
	基本的方向	① 地域による教育・子育て環境の充実			
	施策	① 子どもの学力向上支援			
	取組内容	1	① 学校支援事業の研究・協議		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	上牧町学校・地域パートナーシップ事業は、町内の小学校3校、中学校2校及び幼稚園において、学校支援ボランティアが図書支援・学習支援（授業の補助）・環境支援等を行う活動で、各学校園の地域コーディネーターが、ボランティアの配置・調整、学校との連携を図っています。この事業の運営方法等を検討する学校地域パートナーシップ事業運営委員会を設置し、年に2回会議を開き、事業計画の策定、安全管理方策、広報活動方策、ボランティア等の地域の協力者の人材確保等の検討、活動プログラムの企画、事業の検証・評価等を行っています。また、子どもの学力向上も含め、地域で子どもを育てる取組についても意見交換を行います。 ・委員会メンバー・・・各種団体の長、各学校園長、各PTA会長、地域コーディネーター、事務局職員				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	上牧町学校・地域パートナーシップ事業	1,233	1,391	1,423	2,269		
		1,233	1,391	1,423	1,999		
合 計	（R01時点）	1,233	1,391	1,423	2,269	5年間累計	6,316
	（R02時点）	1,233	1,391	1,423	1,999	5年間累計	6,046
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】

1. 学校支援事業の研究・協議

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①		実績（値）	
	独自の指標②		実績（値）	
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 運営委員会は年に2回会議が行われています。会議では自治会長等から活動に対しての提案・質問が多く関心が寄せられました。一例としては、見守りボランティアの活動に対する改善方法の提案や図書支援によって子どもとボランティアとのつながりが増えたことに加え、読書意欲の向上が図れていることに関心が寄せられました。 各地域の問題の解決をよりスムーズに図れるように、自治連合会に協力を依頼し、各小学校区在住の方に委員として加わっていただき委員会に出席していただきました。 各小学校で地域ボランティアが登下校の見守り隊を行っていますが、各地域とも高齢化により人材不足が深刻で今後の課題になっています。			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 「地域と共にある学校づくり」を進め、学校を地域のベースとしてコミュニティ・スクールを構築するための事業となっています。今後、コミュニティ・スクールを実現していくにあたり、子どもの学力向上を含め地域で子どもたちを育てるためには各学校・園の現状に応じた取組が必要となっています。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 上牧町学校・地域パートナーシップ事業からコミュニティ・スクール設置へ高めていくための組織づくりや情報収集等、研修を深める必要があります。県の指導を受けながら、コミュニティ・スクール実現に向けた事業の見直しを行っていききたいと思います。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2015年度（H27）	～	2019年度（R01）
		<input type="checkbox"/> 未実施	→	取組状況			
				見通し			
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える				
		基本的方向	① 地域による教育・子育て環境を整え、プライベートと仕事の両立を支える				
		施策	② 子どもたちを上牧町みんなで育てようプロジェクト				
	KPI	取組内容	② 学校支援事業の運営				
		成果指標名	学校支援ボランティア年間登録者数				
目標値		220人					
2020年度（R02） 実施予定		令和元年度に引き続き、将来的にコミュニティ・スクールの構築に向け、このパートナーシップ事業を進めていきます。ボランティアの方々に、特技や趣味等を生かして学校の教育活動に協力していただけるように、各学校・園の地域コーディネーターが中心になって、ボランティアの配置・調整、学校と連携を図って実施していく予定です。					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		指標 （予定）	KPI	学校支援ボランティア年間登録者数			230人
			—				
			—				

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	教育総務課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	57ページ
担当係	総務係（教育総務）	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		① 地域による教育・子育て環境の充実		
	施策		① 子どもの学力向上支援		
	取組内容	2	② ICTを活用した教育支援		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	ICTの急速な発展とグローバル化が進む社会において、子どもから高齢者まで情報活用能力を身につけることが求められており、また、ICTを授業に活用することで、教育の質の向上も期待できます。そのことに対応して、奈良県立教育研究所が主催するICT研修は増加傾向にあり、また企業等による研修も開催されています。町教育委員会としては、現在各校に設置しているICT機器を活用しながら実践的な授業を実施できるよう、より学校現場のニーズに合った研修を計画していきます。 【研修内容】 ICT機器を活用したプログラミング教育に関する研修				
独自の指標	指標①	ICT機器を活用した授業づくりに関する研修		目標（値）	1回
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28） （決算）	2017年度（H29） （決算）	2018年度（H30） （決算）	2019年度（R01） （決算見込み）		
事業費	使用料及び賃借料	10,067	9,582	6,587	10,214		
		10,067	9,582	6,587	9,095		
	備品購入費	673	5,363	0	0		
		673	5,363	0	0		
合計	（R01時点）	10,740	14,945	6,587	10,214	5年間累計	42,486
	（R02時点）	10,740	14,945	6,587	9,095	5年間累計	41,367
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
勉強が好き・よくわかる子どもの割合	%	【小学6年】 ○国語56.7 （県61.4） ○算数66.3 （県62.8） 【中学3年】 ○国語51.3 （県56.5） ○数学59.0 （県53.2）	【小学6年】 ○国語55.0 （県60.2） ○理科77.6 （県80.3） 【中学3年】 ○数学46.3 （県49.9） ○理科43.3 （県55.5）	県平均以上		【小学6年】 国語62.0 （県63.1） 算数63.6 （県65.8） 【中学3年】 国語52.9 （県59.1） 数学54.6 （県53.6） 英語46.5 （県51.5）

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった			
	独自の指標①	ICT機器を活用した授業づくりに関する研修		実績（値）	1回
	独自の指標②			実績（値）	
	●事業の分析（評価の根拠・理由）				
	上牧町 授業研究プロジェクト「プログラミング教育研修」 ●講師 (株) ジャストシステム 川本氏 ●日時 令和元年7月3日（水） 参加者 教員30名（各学校代表者） ・パソコンを使用したプログラミングの実践的な演習				
●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。					
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある			
	評価の根拠及び理由 この事業の目的は、「勉強が好き・よくわかる子どもを増やす」ことであり、その手立てとして、教員がICT機器を効果的に活用して分かりやすい授業を実施することが挙げられます。そのためには、教員自身のICT機器に関するスキルを向上させることが重要であり、その部分にニーズがあります。教員のICT機器に関するスキルは個人差があり、全体の底上げはこれからの展開が重要です。成果を早急に求めることは難しいですが、令和2年度プログラミング教育必修化に向けては、ICT教育の一層の充実が求められるので、今後引き続き取組が必要であると考えます。				
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 見直す余地がすぐに実施 <input type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない			
	評価の根拠及び理由 ○令和2年度プログラミング教育必修化に向けて、教職員の指導力向上を目指した研修会を引き続き実施していく必要があります。 ○ICT機器の整備、充実に向けては、文部科学省「GIGAスクール構想」の実現に向けた校内通信ネットワーク整備及び児童生徒一人一台端末の整備を踏まえ、内容を精査しながら、今後計画的に予算を計上していく必要があると考えます。 ○ICT機器の効果的な活用により、児童生徒の学習意欲の向上を促し、学力向上につながる授業を実施していきます。				

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み <input type="checkbox"/> 未実施	→	計画期間中の実施年度 2015年度（H27） ～ 2019年度（R01）
			→	取組状況 見通し
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除		
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える	
		基本的方向	① 地域による教育・子育て環境を整え、プライベートと仕事の両立を支える	
		施策	① 子どもの学力向上支援	
		取組内容	① ICTを活用した教育支援	
	KPI	成果指標名	学力・学習状況調査のICTに関する質問の回答	
目標値		肯定的回答値が県平均以上		
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		○令和2年度プログラミング教育必修化に向けて、授業ですぐに使えること、準備が容易であること等、より実践的で教職員のニーズに合った研修会を考慮して、内容・回数を精査しながら実施していきます。 ○ICT機器セットを各小学校に3セットずつ整備する予定で、ICTを活用した授業の推進を目指します。 ○文部科学省「GIGAスクール構想」の実現に向け、校内通信ネットワーク整備を予定しています。また、児童生徒一人一台端末の整備に向けて、小学5年生から中学3年生の児童生徒分の端末整備を予定しています。 ○新型コロナウイルス感染拡大防止対策として学校を臨時休業とした際の学習保障として、インターネットを活用したオンライン授業の可能性について、検討します。		
指標（予定）	KPI	学力・学習状況調査のICTに関する質問の回答		肯定的回答値が県平均以上
	独自	ICT機器を活用した授業づくりに関する研修		1回
	—			
	—			

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	社会教育課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	57ページ
担当係	生涯学習推進係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標	① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する			
	基本的方向	① 地域による教育・子育て環境の充実			
	施策	① 子どもの学力向上支援			
	取組内容	3	③ 学習支援教室の開催		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	学校支援向上事業「まきっ子塾」・・・学習習慣や生活習慣を身につけるとても大切な時期でもある小学1年生から3年生を対象に、児童の基礎学力の向上や家庭学習の定着を目的に、水曜日の放課後1時間程度、在籍学校の空き教室等を利用して、学習アドバイザーが宿題や自習活動の支援を行っています。				
独自の指標	指標①	親が「まきっ子塾」に子どもが参加してとても良かったまたは、良かったと答えた割合		目標（値）	97.0%
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	学校支援向上事業「まきっ子塾」	4,201	4,214	4,976	6,425		
		4,201	4,214	4,976	4,965		
	合 計	（R01時点）4,201	4,214	4,976	6,425	5年間累計	19,816
		（R02時点）4,201	4,214	4,976	4,965	5年間累計	18,356
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
勉強が好き・よくわかる子どもの割合	%	【小学6年】 ○国語56.7% （県61.4%） ○算数66.3% （県62.8%） 【中学3年】 ○国語51.3% （県56.5%） ○数学59.0% （県53.2%）	【小学6年】 算数55 （県60.2） 理科77.6 （県80.3） 【中学3年】 数学46.3 （県49.9） 理科43.3 （県55.5）	県平均以上	【小学6年】 ○国語62.0% （県63.1%） ○算数63.6% （県65.8%） 【中学3年】 ○国語52.9% （県59.1%） ○数学54.6% （県53.6%）	県平均以上

3. 学習支援教室の開催

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった																																																												
	独自の指標①	親が「まきっ子塾」に子どもが参加してとても良かったまたは、良かったと答えた割合		実績（値）	96.2%																																																									
	独自の指標②			実績（値）																																																										
	●事業の分析（評価の根拠・理由）																																																													
	「まきっ子塾」 ・児童参加人数の実績は、上牧小学校43名・上牧第二小学校62名・上牧第三小学校51名 合計156名です。令和元年度はこども支援課と連携して学童保育利用者に直接声をかけていただくことにより、当初の参加人数より10名以上増やすことができ、平成30年度の参加人数を上回ることができました。 ・年度末に保護者と児童に対し、アンケートを実施したところ、156名中79名分の回答があり、令和元年度も保護者から「宿題をするように言わなくて済むようになった」・・・34.5%、「親のゆとり時間が増えた」・・・29.5%等、概ね高評価をいただきました。家庭学習の習慣に効果があったと考えます。児童向けのアンケート結果では、「学校の宿題が最後までできるようになった」・・・60.8%、「学校の勉強とは違うことも教えてくれるので楽しい」・・・51.9%、「勉強が楽しくなった」・・・46.8%等、学習への意欲を高めることができました。 ・児童の習熟度に合った学習プリントを準備する等工夫することで、学習意欲の向上につながったと考えます。支援についてもアドバイザー一同士の意見交換や交流により、単に児童の支援をするということではなく、どうしても勉強中に集中できない児童への対応や指導を工夫したり、積極的な言葉かけをしたりするなど、指導力が高まっています。																																																													
ニーズの方向性	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。																																																													
	（各年度5月1日時点）																																																													
	<table><tr><th rowspan="2"></th><th colspan="2">上小</th><th colspan="2">二小</th><th colspan="2">三小</th><th colspan="2">合計</th><th rowspan="2">うち、学童保育 利用人数</th></tr><tr><th>まきっ子塾 参加人数</th><th>参加割合</th><th>まきっ子塾 参加人数</th><th>参加割合</th><th>まきっ子塾 参加人数</th><th>参加割合</th><th>まきっ子塾 参加人数</th><th>参加割合</th></tr><tr><td>平成28年度</td><td>65</td><td>33.7%</td><td>46</td><td>27.9%</td><td>76</td><td>49.7%</td><td>187</td><td>36.6%</td><td>87</td></tr><tr><td>平成29年度</td><td>53</td><td>31.4%</td><td>52</td><td>33.5%</td><td>61</td><td>43.3%</td><td>166</td><td>35.7%</td><td>76</td></tr><tr><td>平成30年度</td><td>37</td><td>22.8%</td><td>48</td><td>34.8%</td><td>51</td><td>37.0%</td><td>136</td><td>31.1%</td><td>55</td></tr><tr><td>令和元年度</td><td>43</td><td>27.4%</td><td>62</td><td>45.9%</td><td>51</td><td>36.7%</td><td>156</td><td>36.2%</td><td>65</td></tr></table>						上小		二小		三小		合計		うち、学童保育 利用人数	まきっ子塾 参加人数	参加割合	まきっ子塾 参加人数	参加割合	まきっ子塾 参加人数	参加割合	まきっ子塾 参加人数	参加割合	平成28年度	65	33.7%	46	27.9%	76	49.7%	187	36.6%	87	平成29年度	53	31.4%	52	33.5%	61	43.3%	166	35.7%	76	平成30年度	37	22.8%	48	34.8%	51	37.0%	136	31.1%	55	令和元年度	43	27.4%	62	45.9%	51	36.7%	156	36.2%
	上小		二小		三小		合計		うち、学童保育 利用人数																																																					
	まきっ子塾 参加人数	参加割合	まきっ子塾 参加人数	参加割合	まきっ子塾 参加人数	参加割合	まきっ子塾 参加人数	参加割合																																																						
平成28年度	65	33.7%	46	27.9%	76	49.7%	187	36.6%	87																																																					
平成29年度	53	31.4%	52	33.5%	61	43.3%	166	35.7%	76																																																					
平成30年度	37	22.8%	48	34.8%	51	37.0%	136	31.1%	55																																																					
令和元年度	43	27.4%	62	45.9%	51	36.7%	156	36.2%	65																																																					
事業の見直し余地 （改善点）	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある																																																												
	評価の根拠及び理由																																																													
	「まきっ子塾」の保護者向けのアンケート結果の中で、保護者の意見として、「もっと回数を増やしてほしい」、「もっと時間を増やしてほしい」、「4～6年生もしてほしい」、「お迎えなしにしてほしい」等、事業内容に関して、回数や対象学年の拡大等の要望が引き続きありますが、これからも対象学年については、学習習慣や生活習慣を身につけるとても大切な時期でもある小学1年生から3年生までの枠組みで運営していく方向です。																																																													
事業の見直し余地 （改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない																																																												
	評価の根拠及び理由																																																													
	一人でも多くの児童に参加してもらうため、町及び各学校HPでの周知の徹底、学童保育の子ども達への呼びかけ、政策自慢で発表したプレゼンを利用した保護者へのアプローチ、大学連携等、さらなる工夫が必要であると考えます。																																																													

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 2016年度（H28） ～ 2019年度（R01）			
	<input type="checkbox"/> 未実施 → 取組状況 見通し			
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除		
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える	
		基本的方向	① 地域による教育・子育て環境を整え、プライベートと仕事の両立を支える	
		施策	① 子どもの学力向上支援	
	KPI	取組内容	② 学習支援教室（まきっ子塾）の開催	
2020年度（R02） 実施予定	成果指標名	小学1年生から3年生のまきっ子塾に参加している児童の割合		
	目標値	40%		
	学校支援向上事業「まきっ子塾」・・・学習習慣や生活習慣を身につけるとても大切な時期でもある小学1年生から3年生を対象に、児童の基礎学力の向上や家庭学習の定着を目的に、水曜日の放課後1時間程度、在籍学校の空き教室等を利用して、学習アドバイザーが宿題や自習活動の支援を行っています。保護者のお迎えについても、ここ数年の多発する交通事故や不審者問題への対応として、従来どおり保護者にお迎えに来てもらう形で進めていく予定をしています。また、開塾にあたっては、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を見ながら、国のガイドラインに沿って、対策を講じた上で開催できるように進めていきます。			
	その他、一人でも多くの児童に参加してもらうために、広報、ホームページ等掲載、募集チラシの工夫、学童保育利用者への啓発等こども支援課との連携を図ります。			
	指標 （予定）	KPI	小学1年生から3年生のまきっ子塾に参加している児童の割合	40%
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載	独自	親が「まきっ子塾」に子どもが参加してとても良かったまたは、良かったと答えた割合	97%	
	—			
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載				

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	社会教育課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	57ページ
担当係	生涯学習推進係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標	① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向	① 地域による教育・子育て環境の充実		
	施策	① 子どもの学力向上支援		
	取組内容	4	④ 様々な専門講座の開催	
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）	
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）	
	説明 （⑤その他の場合）			
実施内容	青少年の健全な育成を目的に、子ども体験学習事業として、青少年に様々な活動や体験学習を実施します。			
	実施内容 第1回 第2回 第3・4回	身近なものでできる科学実験と工作（小学5・6年生） レゴロボットを組み立ててロボットカーを動かそう（小学5・6年生） 楽しい子ども科学教室（パガサスフェスタ2019にて参加）（小学生・未就学児）※終日開催のため2回分と換算		
独自の指標	指標①			目標（値）
	指標②			目標（値）

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	子ども体験学習事業		50	45	80	176		
			50	45	80	80		
合 計	(R01時点)		50	45	80	176	5年間累計	351
	(R02時点)		50	45	80	80	5年間累計	255
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した						
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）							

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
専門講座の年間開催	回	—	4	4	4	4

4. 様々な専門講座の開催

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①	実績（値）		
	独自の指標②	実績（値）		
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 青少年に体験したことのない内容を学習する機会をつくる目的で、講師に、畿央大学教育学部の教授をお招きし、理科の実験を主に行いました。 また、令和元年度はペガサスフェスタと連携し、より多くの子どもたち・保護者に積極的に参加し体験していただくために、ペガサスフェスタ開催日にブースを設けて「楽しい科学教室」を開催することができ、参加者も大幅に増え、好評を得られたので、目標よりも大きな成果が得ることができたと考えます。 実施内容 第1回 身近なものでできる科学実験と工作（小学5・6年生） 9名 第2回 レゴロボットを組み立ててロボットカーを動かそう（小学5・6年生） 10名 第3・4回 楽しい子ども科学教室（ペガサスフェスタ2019にて参加）（小学生・未就学児）各20分・計5教室実施 ①炭電池を作ってオルゴールを鳴らそう ②偏光板を使ってステンドグラスを作ろう ③電磁石を使ってイライラ棒を作ろう ④液体窒素で低温の世界を体験しよう ⑤CDを使ってよく回るコマを作ろう 各教室終了後プラネタリウムを上映（5回） 延べ59組154名			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 普段、学校の授業では体験できないような個々の能力を伸ばす専門的な体験講座の開催が求められています。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 平成28年度から「子ども体験学習事業」を実施し、内容は、理科の実験・工作教室を行っています。 本町の子どもたちにとって理科は苦手な領域であり、特に理科大好き生徒の育成に努めるため、理科の実験・工作教室を継続し実施する予定です。 また、今後は理科の実験・工作教室以外で子どもたちにどのような体験講座が必要であるかを検討する必要があると考えられます。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2016年度（H28）	～	2019年度（R01）
		<input type="checkbox"/> 未実施	→	取組状況			
				見通し			
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える				
		基本的方向	① 地域による教育・子育て環境を整え、プライベートと仕事の両立を支える				
		施策	⑥ 青少年の健全な育成				
	KPI	取組内容	① 様々な専門講座の開催				
成果指標名		専門講座の年間開催数					
		目標値	6回				
2020年度（R02） 実施予定		本町の子どもたちにとって理科は苦手な領域であり、特に理科大好き生徒の育成に努めるため、令和2年度も引き続き理科の実験・工作教室（3回）を実施する予定です。また、令和2年度は新しい取組として、子どもたちに伝統文化に親しんでいただくため、茶道体験教室（2回）を実施予定です。 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は、青少年健全育成事業で実施しているジュニアリーダー研修が実施できない可能性があるため、この「子ども体験学習」において、追加で新しく体験講座（例：写真講座）を企画し、講座回数を増やしていくことを検討しています。					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載							
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載							
		指標（予定）	KPI	専門講座の年間開催数			5回
		—					
		—					

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	社会教育課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	57ページ
担当係	生涯学習推進係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標	① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する			
	基本的方向	① 地域による教育・子育て環境の充実			
	施策	① 子どもの学力向上支援			
	取組内容	5	⑤ スポーツ教室や野外活動教室の開催		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	「ジュニアリーダー研修」 青少年の健全な育成を目的に、毎年、「ジュニアリーダー研修」を実施しています。元々は、地域の子ども会で高学年の児童にグループを指導する力を身につけてほしいというリーダー養成を目的に、約30年前に、対象は小学5年生以上で始めました。 令和元年度は小学5年生の第32期生が新規に加わります。 事業内容は、夏に宿泊研修を奈良県立野外活動センターで実施し、キャンプファイヤーや野外炊飯等の活動を行っています。その他の研修では体験学習・ハイキングやネイチャーゲームを行う予定です。 「子どもウォーキング」 平成29年度から「子どもウォーキング」を実施しています。上牧町スポーツ推進委員と協力し、自然にふれあいながらウォーキングを行っています。令和元年度は、五條市中央公園で実施する予定です。				
独自の指標	指標①	ジュニアリーダー研修生数（上級）高校生以上		目標（値）	6人
	指標②	ジュニアリーダー研修生数（初級）5・6年・中学生		目標（値）	15人

2. 実施結果「D0（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	ジュニアリーダー研修	391	550	75	658		
		391	550	75	286		
	子どもウォーキング	0	0	3	13		
		0	0	3	3		
	合 計	391	550	78	671	5年間累計	1,690
		391	550	78	289	5年間累計	1,308
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
野外活動教室の開催回数	回	1	2	3	5	3

5. スポーツ教室や野外活動教室の開催

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①	ジュニアリーダー研修生数（上級）高校生以上	実績（値）	6人
	独自の指標②	ジュニアリーダー研修生数（初級）5・6年・中学生	実績（値）	15人
	●事業の分析（評価の根拠・理由）			
	<p>「ジュニアリーダー研修」 年間計画に野外活動を2回（鍾乳洞見学・雪中登山）増やし、平成30年度に実施した様子を募集チラシに盛り込む等、工夫して作成したことが奏功し、若干登録者数が増えました。 初級リーダー（小・中学生）の出席率が平成30年度平均63%でしたが、令和元年度平均79%と上昇しました。 また、体育協会と社会教育課（スポーツ振興係）の事業である雪中登山にも参加しました。雪中登山に参加することにより一般の参加者とジュニアリーダー生が交流する場面もあり、社会性が身につく良い経験ができました。</p> <p>「子どもウォーキング」 五條市中央公園内の施設を使用しながら、子どもたちを中心にウォーキングを行うとともに、今回はスポーツ推進委員の協力のもと、ニュースポーツ（スナップゴルフ、ターゲットポッチャー）も実施することができました。対象者は小学1～6年生（小学1～3年生保護者同伴）で、19名参加しました。参加者からは、屋外で体を動かす機会ができ、充実した日を過ごせたとのことでした。</p>			
●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。				
令和元年度ジュニアリーダー研修（全9回） 登録人数 上級リーダー6名・小学生15名 第1回～3回 オリエンテーションレクリエーション・ゲーム・歌唱指導を実施 第4回 宿泊研修（奈良県立野外活動センター）キャンプファイヤー・野外炊飯等の活動 第5回 自然体験（洞川） 鍾乳洞見学・川魚つかみ取り体験 第6回 自然体験（馬見丘陵公園）ハイキング・ネーチャージョーゲーム 第7回 クリスマス会 第8回 雪中登山（体育事業に参加） 第9回 年間活動反省会				
ニーズの方向性	評価	<input type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由			
	<p>「ジュニアリーダー研修」 小学5年生で新規募集を行います、小学校卒業と同時に辞めてしまう子どもが多数います。 近年は子ども会が縮小され、従来のリーダー養成についての評価が難しいですが、子どもが集団活動を経験することは、社会的意義が高く、社会的役割を担うような人物を養成する働きもあると考えます。</p> <p>「子どもウォーキング」 子どもが自主的に屋外で野外活動することが少ないので、保護者から求められています。</p>			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由			
	<p>「ジュニアリーダー研修」 子ども会が縮小された現在、地域のリーダーの養成という観点からは、今後事業の見直しが必要です。 リーダーの養成ではなく、野外活動を中心とした体験講座に事業を変化させていく方法も一つの選択肢だと考えられます。</p> <p>「子どもウォーキング」 ウォーキングだけでなく屋外で様々な体験ができるよう、スポーツ推進委員の協力を得ながら、創意工夫を図っていく余地があります。</p>			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		■ 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2015年度（H27）	～	2019年度（R01）	
		□ 未実施	→	取組状況				
		見通し						
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除						
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える					
		基本的方向	① 地域による教育・子育て環境を整え、プライベートと仕事の両立を支える					
		施策	⑥ 青少年の健全な育成					
	KPI	取組内容	② スポーツ教室や野外活動教室の開催					
2020年度（R02） 実施予定	成果指標名	野外での活動教室年間開催数						
		目標値	3回					
	指標（予定）	KPI	野外での活動教室年間開催数					
		—						
		—						
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートに記載		<p>「ジュニアリーダー研修」 令和元年度と同規模で実施する予定です。全9回のうち2回程度を一般（小学4年生）募集し、ジュニアリーダー活動を知ってもらう機会を作ることを検討しています。 また、中学生に進級して辞めてしまった現在高校生・大学生に再度上級リーダーとして活動に参加してもらえるよう募集をする予定です。 新型コロナウイルス感染症の影響によりジュニアリーダー研修が実施できない可能性があるため、青少年健全育成事業で実施している「子ども体験学習」において、現在行っている理科の実験・工作教室の体験講座のほか、新たな体験講座（例：写真講座）を企画するなど、講座回数を増やしていくことを検討しています。</p> <p>「子どもウォーキング」 令和元年度の参加者の意見を取り入れながら、継続して取り組んでいきます。</p>						

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	社会教育課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	58ページ
担当係	生涯学習推進係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		① 地域による教育・子育て環境の充実		
	施策		② 子どもたちを上牧町みんなで育てようプロジェクト		
	取組内容	6	① 学校を中心としたコミュニティ網の形成		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	・上牧町学校・地域パートナーシップ事業では、学校を中心として地域コーディネーターと地域住民・保護者でコミュニティ網の形成を図っています。町内の小学校3校、中学校2校及び幼稚園において、学校支援ボランティアが図書支援・学習支援（授業の補助）・環境支援等を週に数回行う予定です。さらに小学校では、登下校の安全確保のための見守り安全指導にも取り組んでいきます。ボランティアの方々に、特技や趣味等を生かして学校の教育活動に協力していただけるように、各学校園の地域コーディネーターが、ボランティアの配置・調整、学校との連携を図ります。令和元年度も、地域の教育力の向上と地域ぐるみでの学校教育の充実を図ることを目的に活動します。 ・事業費については、「取組内容①学校支援事業の研究・協議」に含まれています。				
独自の指標	指標①	コーディネーター会議		目標（値）	3回
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考			
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）				
事業費						事業費については、「取組内容①学校支援事業の研究・協議」に記載			
	合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
			（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した							
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）								

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
学校支援ボランティア数	人	180	214	220	222	200

6. 学校を中心としたコミュニティ網の形成

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった																																																																																													
	独自の指標①	コーディネーター会議		実績（値）	3回																																																																																										
	独自の指標②			実績（値）																																																																																											
	●事業の分析（評価の根拠・理由）																																																																																														
	上牧町学校・地域パートナーシップ事業は、学校支援ボランティアが222名登録され、図書支援・環境支援・登下校見守り支援・授業支援等を行いました。特に登下校見守り支援ボランティアについては主に自治会に協力・支援をしていただいています。また各学校でボランティア交流会が行われたことで、地域交流が図られ、ボランティア同士の親睦を深めることができました。 地域コーディネーターは各小中学校・幼稚園に1名ずつ配置され合計6名おり、全体で年に3回、事務局と問題解決する会議を行い連携を図りました。 会議の内容については（第1回）各学校の事業計画立案に向けて（第2回）進捗状況・課題解決の方法（第3回）総括・次年度に向けて協議しました。 さらに、地域コーディネーターには県主催の研修に参加していただき、他市町村の取組を研究していただきました。																																																																																														
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。																																																																																														
	令和元年度 ボランティア登録者数 ※1名で複数校（園）に登録しているボランティアがいます。																																																																																														
	<table border="1"> <tr> <th>上牧小学校</th> <th>上牧第二小学校</th> <th>上牧第三小学校</th> <th>上牧中学校</th> <th>上牧第二中学校</th> <th>上牧幼稚園</th> </tr> <tr> <td>79名</td> <td>78名</td> <td>58名</td> <td>35名</td> <td>43名</td> <td>26名</td> </tr> </table>					上牧小学校	上牧第二小学校	上牧第三小学校	上牧中学校	上牧第二中学校	上牧幼稚園	79名	78名	58名	35名	43名	26名																																																																														
	上牧小学校	上牧第二小学校	上牧第三小学校	上牧中学校	上牧第二中学校	上牧幼稚園																																																																																									
	79名	78名	58名	35名	43名	26名																																																																																									
令和元年度 地域コーディネーターの活動時間																																																																																															
<table border="1"> <tr> <th>上牧小学校</th> <th>上牧第二小学校</th> <th>上牧第三小学校</th> <th>上牧中学校</th> <th>上牧第二中学校</th> <th>上牧幼稚園</th> </tr> <tr> <td>171時間</td> <td>142時間</td> <td>49時間</td> <td>64時間</td> <td>39時間</td> <td>33時間</td> </tr> </table>					上牧小学校	上牧第二小学校	上牧第三小学校	上牧中学校	上牧第二中学校	上牧幼稚園	171時間	142時間	49時間	64時間	39時間	33時間																																																																															
上牧小学校	上牧第二小学校	上牧第三小学校	上牧中学校	上牧第二中学校	上牧幼稚園																																																																																										
171時間	142時間	49時間	64時間	39時間	33時間																																																																																										
※小学校は、中学校・幼稚園に比べてボランティア活動の内容が多いため地域コーディネーターの活動時間が多くなっています。																																																																																															
令和元年度 ボランティア活動実績（延べ数）																																																																																															
<table border="1"> <tr> <th></th> <th colspan="2">図書支援</th> <th colspan="2">学習支援</th> <th colspan="2">環境支援</th> <th colspan="2">登下校見守り支援</th> <th colspan="2">放課後学習支援</th> <th colspan="2">学校行事の運営支援</th> </tr> <tr> <th>上牧小学校</th> <td>28日</td> <td>62名</td> <td>34日</td> <td>84名</td> <td>8日</td> <td>26名</td> <td>165日</td> <td>2715名</td> <td>4日</td> <td>10名</td> <td>5日</td> <td>50名</td> </tr> <tr> <th>上牧第二小学校</th> <td>11日</td> <td>13名</td> <td>59日</td> <td>278名</td> <td>13日</td> <td>146名</td> <td>146日</td> <td>1274名</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>9日</td> <td>88名</td> </tr> <tr> <th>上牧第三小学校</th> <td>11日</td> <td>36名</td> <td>60日</td> <td>163名</td> <td>6日</td> <td>22名</td> <td>6日</td> <td>22名</td> <td>4日</td> <td>10名</td> <td>12日</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <th>上牧中学校</th> <td>35日</td> <td>70名</td> <td>80日</td> <td>153名</td> <td>2日</td> <td>4名</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>15日</td> <td>27名</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <th>上牧第二中学校</th> <td>12日</td> <td>46名</td> <td>5日</td> <td>30名</td> <td>67日</td> <td>248名</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <th>上牧幼稚園</th> <td>—</td> <td>—</td> <td>11日</td> <td>38名</td> <td>1日</td> <td>9名</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3日</td> <td>8名</td> </tr> </table>						図書支援		学習支援		環境支援		登下校見守り支援		放課後学習支援		学校行事の運営支援		上牧小学校	28日	62名	34日	84名	8日	26名	165日	2715名	4日	10名	5日	50名	上牧第二小学校	11日	13名	59日	278名	13日	146名	146日	1274名	—	—	9日	88名	上牧第三小学校	11日	36名	60日	163名	6日	22名	6日	22名	4日	10名	12日	18名	上牧中学校	35日	70名	80日	153名	2日	4名	—	—	15日	27名	—	—	上牧第二中学校	12日	46名	5日	30名	67日	248名	—	—	—	—	—	—	上牧幼稚園	—	—	11日	38名	1日	9名	—	—	—	—	3日	8名
	図書支援		学習支援		環境支援		登下校見守り支援		放課後学習支援		学校行事の運営支援																																																																																				
上牧小学校	28日	62名	34日	84名	8日	26名	165日	2715名	4日	10名	5日	50名																																																																																			
上牧第二小学校	11日	13名	59日	278名	13日	146名	146日	1274名	—	—	9日	88名																																																																																			
上牧第三小学校	11日	36名	60日	163名	6日	22名	6日	22名	4日	10名	12日	18名																																																																																			
上牧中学校	35日	70名	80日	153名	2日	4名	—	—	15日	27名	—	—																																																																																			
上牧第二中学校	12日	46名	5日	30名	67日	248名	—	—	—	—	—	—																																																																																			
上牧幼稚園	—	—	11日	38名	1日	9名	—	—	—	—	3日	8名																																																																																			
※登下校見守り支援（小学校）についてはほぼ町内全域で行っているが、自治会として活動をしているので学校支援ボランティアとして登録されていない地区もあります。																																																																																															
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある																																																																																													
	評価の根拠及び理由																																																																																														
	上牧町学校・地域パートナーシップ事業は、学校を中心として地域コーディネーターと地域住民・保護者でコミュニティ網が形成されています。 令和元年度も地域のボランティアからより良い学校づくりのために様々な活動を行いたいという意欲的な要望もいただいています。 新規支援としては、学習支援（芋ほり体験・プール授業見守り・マラソンコースの見守り）等がありました。 活動の各種調整のほか、学校やボランティアとの連絡や調整、地域の協力者の確保等を行っています。地域ぐるみで学校教育の充実と活性化を図るためには、地域コーディネーターの存在が必要不可欠と考えます。																																																																																														
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありますすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない																																																																																													
	評価の根拠及び理由																																																																																														
	学校側と地域側のバランス調整や学校ごとの異なる欠員の補充等が課題（登下校見守り支援・授業支援）となっています。パートナーシップ事業の円滑な実施にあたっては、地域コーディネーターの新たな担い手の確保が重要だと考えますが、今後も引き続き、学校・地域コーディネーター・支援ボランティアと密な連携を図り、地域ぐるみで学校教育の充実に取り組む方針です。																																																																																														

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み <input type="checkbox"/> 未実施	→	計画期間中の実施年度	2015年度（H27）	～	2019年度（R01）
			→	取組状況			
			→	見通し			
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える				
		基本的方向	① 地域による教育・子育て環境を整え、プライベートと仕事の両立を支える				
		施策	② 子どもたちを上牧町みんなで育てようプロジェクト				
	KPI	取組内容	① 学校を中心としたコミュニティ網の形成				
		成果指標名	学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）導入に向けた検討会議の年間開催数				
2020年度（R02） 実施予定		指標（予定）	KPI	学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）導入に向けた検討会議の年間開催数	5回		
※「移行状況」「継続（名称変更）」の場合に記載			—				
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載							

令和元年度に引き続き、将来的なコミュニティ・スクールの構築に向け、より充実した地域コーディネーターの会議を行い、連携を図って取り組んでいく予定です。またボランティアの方々に、特技や趣味等を生かして学校の教育活動に協力していただけるように、各学校・園の地域コーディネーターが、ボランティアの配置・調整、学校と連携を図っていきます。地域コーディネーターは、多数の学校・園で複数年地域コーディネーターを担われており、事業に関して熟知されている方が多く、それによって事業が円滑に進んでいますが、今後も引き続きパートナーシップ事業を行っていくにあたっては、地域コーディネーターの新たな担い手の確保が重要だと考えますので、積極的に活動していただいているボランティアの方等から継承していただければという方とつながりを持っておくことが必要だと考えます。

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	社会教育課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	58ページ
担当係	生涯学習推進係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		① 地域による教育・子育て環境の充実		
	施策		② 子どもたちを上牧町みんなで育てようプロジェクト		
	取組内容	7	② 子育てにおける様々なコミュニティ形成プログラムの企画・運営		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	上牧町学校・地域パートナーシップ事業では、町内の小学校3校、中学校2校及び幼稚園において、学校支援ボランティアが図書支援・学習支援・環境支援等を週に数回行う予定です。さらに小学校では、登下校の安全確保のための見守り安全指導も行います。ボランティアの方々に、特技や趣味等を生かして学校の教育活動に協力していただくことにより、地域の教育力の向上と地域ぐるみでの学校教育の充実を図ることを目的としています。 事業費については、「取組内容①学校支援事業の研究・協議」に含まれています。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費						事業費については、「取組内容①学校支援事業の研究・協議」に記載		
合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
		（R02時点）	0	0	0	0	0	5年間累計
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した						
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）							

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
学校支援ボランティア数	人	180	214	220	222	200

7. 子育てにおける様々なコミュニティ形成プログラムの企画・運営

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった												
	独自の指標①											実績（値）		
	独自の指標②											実績（値）		
	●事業の分析（評価の根拠・理由） ボランティア活動実績として、平成30年度以前から行われている図書支援・環境支援・授業支援・登下校見守り支援等のほかに、新規の内容のボランティア活動もあり、概ねの成果が得られました。 また、地域住民からの提案でボランティア活動が行われ、内容の充実が図られています。													
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。													
令和元年度 ボランティア活動実績（のべ数）														
		図書支援		学習支援		環境支援		登下校見守り支援		放課後学習支援		学校行事の運営支援		
上牧小学校	28日	62名	34日	84名	8日	26名	165日	2715名	4日	10名	5日	50名		
上牧第二小学校	11日	13名	59日	278名	13日	146名	146日	1274名	—	—	9日	88名		
上牧第三小学校	11日	36名	60日	163名	6日	22名	6日	22名	4日	10名	12日	18名		
上牧中学校	35日	70名	80日	153名	2日	4名	—	—	15日	27名	—	—		
上牧第二中学校	12日	46名	5日	30名	67日	248名	—	—	—	—	—	—		
上牧幼稚園	—	—	11日	38名	1日	9名	—	—	—	—	3日	8名		
※登下校見守り支援（小学校）についてはほぼ町内全域で行っているが、自治会として活動をしているので学校支援ボランティアとして登録されていない地区もあります。														
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある												
	評価の根拠及び理由 学校支援ボランティアは、地域ぐるみで学校教育の充実と活性化を図るためのものであり、今後も様々なニーズが求められます。令和元年度も地域のボランティアからより良い学校づくりのために様々な活動を行いたいという意欲的な要望がありました。新規支援としては、学習支援（芋ほり体験・プール授業見守り・マラソンコースの見守り）等がありました。													
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない												
	評価の根拠及び理由 授業支援については、どの学校も支援活動が少ないため、小中学校・幼稚園と地域コーディネーターと連携し、支援活動内容を少しずつ増やしていきたいと考えます。 登下校見守り支援については、自治会に協力を得て行っていますが、どの地域も高齢化等で人材が不足している状況であり、今後の課題となっています。													

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		■ 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2015年度（H27）	～	2019年度（R01）
		□ 未実施	→	取組状況			
		見通し					
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える				
		基本的方向	① 地域による教育・子育て環境を整え、プライベートと仕事の両立を支える				
		施策	② 子どもたちを上牧町みんなで育てようプロジェクト				
	KPI	取組内容	② 学校支援事業の運営				
成果指標名		学校支援ボランティア年間登録者数					
		目標値	220人				
2020年度（R02） 実施予定		※「1. 学校支援事業の研究・協議」で記載					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		指標（予定）	KPI	指標名入力			予定（値）入力
			KPI	指標名入力			予定（値）入力
			独自	指標名入力			予定（値）入力

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	社会教育課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	58ページ
担当係	生涯学習推進係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標	① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する			
	基本的方向	① 地域による教育・子育て環境の充実			
	施策	② 子どもたちを上牧町みんなで育てようプロジェクト			
	取組内容	8	③ すべての学習活動を道徳教育や人権教育を意識し推進		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	行政、幼稚園・小中学校・地域が連携し、積極的な人権学習を推進します。そのために、ヒューマンライツセミナーを実施し、人権学習の継続と発展を推進します。また、指導者研修会の実施にあたり、各関係機関の代表を中心に参加を呼びかけ、実践力を高める研修会を実施します。				
独自の指標	指標①	ヒューマンライツセミナーin上牧 参加者数		目標（値）	70人
	指標②	指導者研修会 参加者数		目標（値）	20人

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	人権教育推進事業	1,233	1,209	1,191	1,243		
		1,233	1,209	1,191	1,134		
	合 計	（R01時点）1,233	1,209	1,191	1,243	5年間累計	4,876
		（R02時点）1,233	1,209	1,191	1,134	5年間累計	4,767
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】

8. すべての学習活動を道徳教育や人権教育を意識し推進

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①	ヒューマンライツセミナーin上牧 参加者数	実績（値）	92人
	独自の指標②	指導者研修会 参加者数	実績（値）	68人
	●事業の分析（評価の根拠・理由）			
	①ヒューマンライツセミナーin上牧 第1部「箏と尺八コンサート」第2部「京都のおみやげから」講演会。第1部では、演奏を通して宮城道雄にまつわる「障害者問題」から始まり、第2部では、京都のおみやげから「日本の芸能・文化」へ発展し、「人権の視点を広げよう」をテーマに、講演会を実施しました。1部の箏の演奏と関連する八橋検校の話や、映画「座頭市」の世界へと展開され、建前や難しい話ではない、普段目にしていない映像や昔から経験していること、身近な所の人権を考える視点があるのだということを学びあいました。参加呼びかけのチラシを配布したことや、関係団体ごとに呼びかけをしてもらって、参加者を大幅に増やすことができました。また、手話通訳を実施しました。 ②指導者研修会 2年連続で現地見学とフィールドワークによる研修会で20名ほどの研修でしたが、令和元年度は家庭教育講座と共催し、「人との出会い・体験で不登校からの逆転人生」という内容で、分身ロボット開発の吉藤健太郎さんの父、行二さんの講演を実施しました。関係機関の代表者だけでなく、小中学生の保護者や町の広報等でも呼びかけて、参加者を増やすことができました。 ○研修図書・資料等、各所属において有効活用することができました。 ○各関係団体助成金、負担金により、人権に関する講演会、研修会に各会員が積極的に参加し、人権意識を高めることができました。 ○人権標語 中学1年生170人（県提出6点） 人権ポスター 小学4～6年生357人（県提出4点） 人権ポスターについては、町民集会の裏表紙への掲載等に活用しました。 ○人権作文募集は全児童・生徒対象で、選考作品を人権作文集として各人権教育団体や各学校で作成されました。			
●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。				
①ヒューマンライツセミナーin上牧 アンケート集計満足度98% ②指導者研修会 アンケート集計満足度94%				
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 平成28年度に、人権三法（障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法、部落差別解消推進法）が施行され、また、平成31年3月22日に「奈良県部落差別の解消の推進に関する条例」が公布・施行されたことから、差別をなくすための施策と行動をさらに充実させなければならない責任が増してきたと考えられます。 インターネットによる差別書き込みやSNSによる差別扇動、庁舎の窓口への「同和地区問い合わせ」等、差別の形態が変化してきており、それに対応した取組や組織づくりが求められています。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 現状の①②の事業については、参加者を増やす努力をしながら、さらに内容を充実させていくことが重要であると考えます。また、郡や県の研修会や集会等への参加により、人権意識を高める実践を積み重ねていきたいと考えます。ただ、人権啓発と人権教育の両事業については、郡、県での会議や事業の重複が多いため、役割分担や参加体制の変更等で工夫する必要があると考えます。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		■ 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2015年度（H27）	～	2019年度（R01）
		□ 未実施	→	取組状況			
				見通し			
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える				
		基本的方向	① 地域による教育・子育て環境を整え、プライベートと仕事の両立を支える				
		施策	② 子どもたちを上牧町みんなで育てようプロジェクト				
	KPI	取組内容	③ 人権教育の推進				
		成果指標名	ヒューマンライツセミナー年間参加者数（延べ人数）				
		目標値	100人				
2020年度（R02） 実施予定		令和2年度も、行政、幼稚園・小中学校・地域が連携し、積極的な人権学習を推進します。また、ヒューマンライツセミナー・指導者研修会等を実施し、人権学習の継続と発展を推進します。指導者研修会については、「人権教育の指導者」という枠にとらわれずに参加者を増やす方向で呼びかけたいと考えます。 令和元年度の実績からヒューマンライツセミナーと指導者研修会の参加者のKPIをともに100人とします。					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		指標 （予定）	KPI	ヒューマンライツセミナー年間参加者数（延べ人数）			100人
			独自	指導者研修会 参加者数			100人
			—				

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	教育総務課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	58ページ
担当係	学校教育係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		① 地域による教育・子育て環境の充実		
	施策		② 子どもたちを上牧町みんなで育てようプロジェクト		
	取組内容	9	④ 子どもの読書活動の推進		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	生活環境の変化、さらには、幼児期からの読書習慣の未形成等により、子どもの「読書離れ」を指摘されている中で、読書活動を通じて、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていきます。 ＜小中学校での活動＞ ・朝授業の前に10分間読書をします。・児童生徒が読みたい本を自宅から、また図書室から選んで持ってきます。 ・小学校では、多目的室で図書ボランティアが多種類の沢山の本を選び、児童が手に取りやすいように並べて「絵本の広場」と称して、児童が好きなように読んだり、触れたりする期間を設けます。また、図書ボランティアの方に「お話し会」をしていただき、本を読んでもらいます。 ・図書館司書が図書室の使い方・調べもの等についての話をします。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費								
	合 計	（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
		（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
	2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
		説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】

9. 子どもの読書活動の推進

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①			
	独自の指標②			
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 読書活動を続けていくことで、本に親しみを持つことができ、集中力が身につく、子どもたちは落ち着いて学校生活を過ごしており、読書が子どもたちの興味・関心の幅が広がるきっかけとなっています。図書館司書や図書ボランティアの方の活動を通じて、子ども達が新しい本を知ることで、より一層本に関心を持つようになりました。本を読むことで、多面的に物を見る力がついたり、じっくりと物考える力が養われたという点で概ね目標の成果が得られたと考えています。学校からは、「朝に読書活動を行うと集中力が高まり、1限目の授業に入りやすい」との声を聞きました。 また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴った臨時休業期間中については、学校のホームページや学年通信等で、読書の啓発、登校日には図書館を開放して子どもたちに本の貸し出しをするなど、自宅でも本と接する時間を多く作り出すことができました。			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 読書活動を朝に行うことで、本に親しみや興味をもち、落ち着いた生活習慣が保てています。また、小学校ではボランティアの協力のもと、多目的室を利用し、「絵本の広場」という児童が読書を楽しむ行事を定期的実施し、読書の習慣づけを行っています。子どもたちに良い習慣がついてきているため、保護者や教師もこの習慣を続けていくことが必要であると考えています。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 読書活動を朝に行うことで、子どもたちは落ち着いて学校生活を過ごしています。読書の習慣も身につけてきているので、今後も引き続き実施していきますが、より子どもたちに、読書活動を定着させるために、さらに効果があがる方法を検討しながら継続していきたいと考えます。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		■ 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2016年度（H28）	～	2019年度（R01）
		□ 未実施	→	取組状況			
				見通し			
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える				
		基本的方向	① 地域による教育・子育て環境を整え、プライベートと仕事の両立を支える				
		施策	② 子どもたちを上牧町みんなで育てようプロジェクト				
	KPI	取組内容	④ 子どもの読書活動の推進				
		成果指標名	図書の団体貸出を行う学校数（年間）				
目標値		3校					
2020年度（R02） 実施予定		※図書館で実施					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載							
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載							
指標 （予定）	KPI	指標名入力				予定（値）入力	
	KPI	指標名入力				予定（値）入力	
	独自	指標名入力				予定（値）入力	
	独自	指標名入力				予定（値）入力	

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	こども支援課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	58ページ
担当係	児童福祉係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		① 地域による教育・子育て環境の充実		
	施策		③ 地域ぐるみの子育て支援		
	取組内容	10	① 情報交換拠点の整備		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	乳児又は幼児及びその保護者が相互に交流を行う場所を提供し、子育てについての相談・情報の提供・助言その他の援助を行います。地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安感等を緩和し、子どもの健やかな育ちを推進することを目的として2000年会館やラスパ内ささゆりルームで実施しています。 【子育て親子の交流の場の提供と交流の促進】 ・子育て中の孤立感の軽減や社会参加のきっかけ作りとしての『おひさま広場』 ・親子のくつろぎの空間と時間を提供する『サロンぽけっと』 ・『おひさま広場』での親子遊びの実施 ・より多くの親子が集える『サロンぽけっと』での誕生日会等の企画開催				
独自の指標	指標①				目標（値）
	指標②				目標（値）

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	つどいの広場事業	4,540	4,540	4,540	4,540		
		4,540	4,540	4,540	4,540		
	合 計	(R01時点) 4,540	4,540	4,540	4,540	5年間累計	18,160
		(R02時点) 4,540	4,540	4,540	4,540	5年間累計	18,160
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
つどいの広場・おひさま広場のサロン総利用者数	人	5,800	4,149	5,888	4,014	8,000

10. 情報交換拠点の整備

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった											
	独自の指標①	実績（値）											
	独自の指標②	実績（値）											
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月の終わりから休所としたことにより総利用者数は前年度よりわずかに減少し、目標値にも達しませんでした。毎月300人を超える利用者があり、子育て親子の交流の場を提供して交流を促進することにより、地域住民同士で助け合いながら子育てする環境が整い、概ね目標の成果が得られたと判断します。												
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。												
つどいの広場参加者数 (人)													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R1	395	339	315	395	302	441	381	421	318	366	341	0	4,014
H30	322	257	320	387	425	370	343	359	276	264	400	426	4,149
H29	418	325	434	451	340	461	335	293	327	333	369	300	4,386
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある											
	評価の根拠及び理由 事業の取組については、一定の評価を得ているものと判断しています。社会環境の変化等により子育て支援のニーズは増加する傾向にあると考えます。												
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない											
	評価の根拠及び理由 新型コロナウイルス感染拡大防止のため2月の終わりから休所としていますが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見ながら再開の判断を行い、再開した場合、いかに参加者の安全を担保しつつ交流の場を提供していくのか、考えていきたいと思っています。												

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 2015年度（H27） ～ 2019年度（R01） <input type="checkbox"/> 未実施 → 取組状況 見通し
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除
	位置づけ	基本目標 ① 若い世代の結婚出産子育て・出産・子育て・教育の希望を叶える
		基本的方向 ① 地域による教育・子育て環境を整え、プライベートと仕事の両立を支える
		施策 ③ 地域ぐるみの子育て支援
	KPI	取組内容 ① 情報交換拠点の整備
成果指標名 つどいの広場・おひさま広場の年間利用者数（延べ人数）		
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載	目標値	3,980人
	新型コロナウイルス感染拡大防止のため2月の終わりから休所としていますが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見ながら再開の判断を行い、再開した場合は感染予防に気を配りながら、引き続き、乳幼児を持つ親とその子どもが集い、うち解けた雰囲気の中で語り合い、交流を図ることや、ボランティアを活用して育児相談等を行う場の提供と交流の促進を目指します。具体的な取組として、2000年会館や出張広場としてラスバ2階にあるささゆりルームで、つどいの広場・おひさま広場・出張サロンぽけっとを開催し、子育て親子に交流の場の提供と交流の促進、子育て支援に関する相談、援助、講習等の実施を目指します。	
	指標（予定）	KPI
		つどいの広場・おひさま広場の年間利用者数（延べ人数）

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	こども支援課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	58ページ
担当係	出会い・子育て支援係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		① 地域による教育・子育て環境の充実		
	施策		③ 地域ぐるみの子育て支援		
	取組内容	11	② 地域における保育環境の改善事業		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	保護者の子育てや就労を支援することを目的として、町立の幼稚園での教育時間終了後も引き続き園児をお預かりする「預かり保育」を実施しています。 平成30年度からは夏休み期間も実施しており、特色のある公立幼稚園として魅力をPRし、上牧町の子育て支援の基幹とすることにより、若い子育て世代の移住増加につなげるものです。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	預かり保育事業	585	898	919	972		
		585	898	909	753		
	合 計	585	898	919	972	5年間累計	3,374
		585	898	909	753	5年間累計	3,145
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
公立幼稚園の園児数	人	163	162	170	157	180

11. 地域における保育環境の改善事業

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①		実績（値）	
	独自の指標②		実績（値）	
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 保護者の子育てや就労を支援するために上牧幼稚園で預かり保育を実施しました。新型コロナウイルス感染拡大防止による利用自粛等により、利用回数は昨年度より減少しましたが、国の補助金を活用して感染拡大防止のための消毒薬及び体温計等の物品を購入し、上牧幼稚園の新型コロナウイルス感染拡大防止による休園中においても、午前9時から午後4時まで、手指消毒、定期的な換気等を行い感染拡大防止を図りつつ預かり保育を実施し、保護者の子育てのストレスの緩和が図られたと考えます。（1回：200円） ・ 預かり保育利用回数 平成28年度：888回 平成29年度：1,639回 平成30年度：2,537回 令和元年度：2,240回 ・ 園児数 平成28年度：158人 平成29年度：168人 平成30年度：161人 令和元年度：155人			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 多様な保育需要に対応するため夏期休業中の保育を実施するなど、保護者の育児負担の軽減や就労支援に取り組み、仕事を意欲的にできる体制が図られたと判断します。今後はさらにニーズが増加すると考えます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 平成30年度に開始した夏期休業中の預かり保育を継続しましたが、夏期休業中は希望者が多く、定員（30名）を超過した場合は抽選になりました。できるだけ希望者を受け入れられるよう見直しを考えていきます。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		■ 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2016年度（H28）	～	2019年度（R01）
		□ 未実施	→	取組状況			
				見通し			
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える				
		基本的方向	① 地域による教育・子育て環境を整え、プライベートと仕事の両立を支える				
		施策	③ 地域ぐるみの子育て支援				
	KPI	取組内容	② 地域における保育環境の改善事業				
		成果指標名	預かり保育の年間利用者数（延べ人数）				
目標値		1,840人					
2020年度（R02） 実施予定		引き続き、新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら上牧幼稚園で預かり保育を実施します。 夏期休業中の預かり保育については教育総務課と連携し、希望者全てを受け入れられる体制を整え、保護者の子育てのストレスの緩和等、子育て支援を図ります。 また、定員を規定する規則等の一部改正も考えていきます。					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		指標 （予定）	KPI	預かり保育の年間利用者数（延べ人数）		2,045人	
			—				
			—				

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	総務課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	58ページ
担当係	安全安心係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		① 地域による教育・子育て環境の充実		
	施策		③ 地域ぐるみの子育て支援		
	取組内容	12	③ 乳幼児子ども防災意識向上事業の実施		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	災害時用テント及びトイレの購入の実施。 保育所・幼稚園・小中学校においてシェイクアウト訓練の実施。 ペガサスフェスタにおいて乳幼児救急救室（AED、心臓マッサージ等）の実施。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	需用費	0	0	759	1,161		
		0	0	759	1,106		
合 計	（R01時点）	0	0	759	1,161	5年間累計	1,920
	（R02時点）	0	0	759	1,106	5年間累計	1,865
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
乳幼児子ども用災害備蓄物資の充足率	%	50.0	70.0	90.0	80.0	100.0

12. 乳幼児子ども防災意識向上事業の実施

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった																																									
	独自の指標①	実績（値）																																									
	独自の指標②	実績（値）																																									
	●事業の分析（評価の根拠・理由）																																										
	液体ミルクの備蓄と災害時用テントとトイレを購入しました。 液体ミルクは保管可能な期間を把握し、ローリングによる備蓄を行います。 災害時用テントとトイレは被災時のプライバシーの保護を目的に購入しており、特にテントは授乳室としての利用が見込めます。 これらの備品は上牧町総合防災訓練時に展示し、実際に親子で触れてもらったり、説明することで防災意識向上が期待できます。 また、令和元年11月3日開催のベガスフェスタにて、西和消防署の協力のもと、乳幼児救急救室（AED、心臓マッサージ等）を実施し、多くの子どもたちに非常時の意識向上につながったと考えます。 保育所・幼稚園・小中学校においてシェイクアウト訓練を実施しました。																																										
ニーズの方向性	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>乳幼児ミルク</th> <th>災害備蓄用新生児用紙おむつ</th> <th>哺乳瓶（240ml/本）</th> <th>乳首（シリコン製）</th> <th>ほ乳瓶・乳首消毒液（500ml/本）</th> <th>乳幼児用補助便座</th> <th>おむつ密封廃棄ボックス</th> <th>よだれかけ（ベビーシート用）</th> <th>おしりふき（70枚入り/パック）</th> <th>子供用サージカルマスク</th> <th>子供用冷却シート</th> <th>子供用ヘルメット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>備蓄量</td> <td>408缶</td> <td>7347枚</td> <td>60本</td> <td>20個</td> <td>20本</td> <td>48個</td> <td>10個</td> <td>12個</td> <td>48パック</td> <td>1000枚</td> <td>480枚</td> <td>50個</td> </tr> <tr> <td>内、令和元年度購入分</td> <td>408缶</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					乳幼児ミルク	災害備蓄用新生児用紙おむつ	哺乳瓶（240ml/本）	乳首（シリコン製）	ほ乳瓶・乳首消毒液（500ml/本）	乳幼児用補助便座	おむつ密封廃棄ボックス	よだれかけ（ベビーシート用）	おしりふき（70枚入り/パック）	子供用サージカルマスク	子供用冷却シート	子供用ヘルメット	備蓄量	408缶	7347枚	60本	20個	20本	48個	10個	12個	48パック	1000枚	480枚	50個	内、令和元年度購入分	408缶											
		乳幼児ミルク	災害備蓄用新生児用紙おむつ	哺乳瓶（240ml/本）	乳首（シリコン製）	ほ乳瓶・乳首消毒液（500ml/本）	乳幼児用補助便座	おむつ密封廃棄ボックス	よだれかけ（ベビーシート用）	おしりふき（70枚入り/パック）	子供用サージカルマスク	子供用冷却シート	子供用ヘルメット																														
	備蓄量	408缶	7347枚	60本	20個	20本	48個	10個	12個	48パック	1000枚	480枚	50個																														
	内、令和元年度購入分	408缶																																									
評価 <input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある																																											
評価の根拠及び理由 災害時要配慮者である乳幼児への防災意識向上は、昨今の防災事情からも高まると予測しています。																																											
事業の見直し余地（改善点）	評価 <input checked="" type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない																																										
	評価の根拠及び理由																																										
	備蓄備品の確保については、町全体、各自治会の備蓄備品の状況を踏まえて、計画的に進めていかなければなりません。 また、避難所における生活環境に注意を払い、プライバシーの確保、男女のニーズの違い、乳幼児・子ども等の要配慮者に対して適切な配慮をしていく必要があります。																																										

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み <input type="checkbox"/> 未実施	→	計画期間中の実施年度 2017年度（H29） ～ 2019年度（R01）
		→	取組状況 見通し	
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除		
	位置づけ	基本目標	③ 地域がつながり、魅力ある安全・安心なまちをつくる	
		基本的方向	② 地域住民との協働によるまちづくりの推進	
		施策	② 防災・防犯活動の支援・促進	
	KPI	取組内容	② 子ども防災意識の向上及び防災物資の備蓄	
		成果指標名	子ども防災意識の向上教室の年間開催数	
		目標値	1回	
成果指標名		子ども用災害物資の備蓄品数		
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載	指標（予定）	KPI	子ども防災意識の向上教室の年間開催数	1回
		KPI	子ども用災害物資の備蓄品数	22種類
		—		
		令和2年度は、液体ミルクのローリングの追加購入を行います。 町立保育所及び幼稚園に防災訓練（シェイクアウト訓練等）参加促進の呼びかけを考えています。 ベガスフェスタでの乳幼児救急救室（AED、心臓マッサージ等）を引き続き検討しています。 また、新型コロナウイルス感染症対策として災害用テントや段ボールベッド等の整備を行います。		

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	教育総務課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	58ページ
担当係	学校教育係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		① 地域による教育・子育て環境の充実		
	施策		④ 就業前教育の充実		
	取組内容	13	① 英語教育の充実		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	グローバル化に少しでも幼いうちから慣れ親しめるように、英語を母国語とし、ある程度日本語の会話が可能な日本滞在の外国人講師を定期的に招き、一緒に英語の歌を歌ったり、ダンスをします。そのほかにも英語による簡単な指示（jumpとかturn等）に合わせて体を動かしたりするなど「英語を使って楽しむ」ということに重点を置き、簡単な挨拶や自己紹介を英語でやってみるなど、日常的な英会話に触れることを目的に英語教育を実施します。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	委託料		1,814	1,814	1,814	1,831		
			1,814	1,814	1,814	1,831		
合 計		（R01時点）	1,814	1,814	1,814	1,831	5年間累計	7,273
		（R02時点）	1,814	1,814	1,814	1,831	5年間累計	7,273
2019年度（R01） 実施結果		実施状況	②計画通りに実施できなかった					
		説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による臨時休園のため、年間の実施回数が減少しています。					

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
英会話教室及び体育教室の開催数	回	32	47	47	44	60

13. 英語教育の充実

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①	実績（値）		
	独自の指標②	実績（値）		
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 英語の歌を歌ったり、ダンスをするなどして「英語を使って楽しむ」という当初の目的も達成できています。受動的に英語に触れるだけではなく、簡単な英語で表現したり、挨拶や自己紹介を英語でできるようになってきています。概ね月1～2回 年中・年長40分、年少30分間（10月～）行いました。授業内容は挨拶から始まり、その後、英語で歌を歌ったり、ゲームをすること等で、幼児の興味、関心がさらに高まってきています。（1日1学年実施）また、英語で歌う歌や、ダンスの曲を変えた際にも、子どもたちは戸惑うどころか、いつもより楽しんで取り組んでいる姿が見受けられていることから、英語に対して抵抗感なく興味をもって楽しむことができていると考えます。 年少：41人 火曜日（月に1～2回） 年 8回実施 【年少は10月から実施】 年中：54人 火曜日（月に1～2回） 年11回実施 年長：62人 金曜日（月に1～2回） 年14回実施 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による臨時休園のため、3月に実施予定であった年少及び年中の2回分が中止になりました。			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 対象が幼児ということもあり、大人に比べ英語に耳が慣れるのも早いと思われます。また、毎回、講師が歌っている英語の歌については、一緒に歌える園児もいるほどで、子ども自身が楽しみながら英語を身につけられています。英語教育の重要性については保護者も強く感じているところであり、英語教育のさらなる充実を求める声が聞かれます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 英語の歌やダンスを中心とした、遊びながら自然と身につく英語教育に引き続き取り組んでいき、今後ますます進んでいくグローバル化に少しでも幼少期から慣れ親しめるように、英語を母国語とする日本滞在の外国の方を招いて園でのイベント等を一緒に行うなど、今まで以上に日常的に英語に触れることを目的に進めていきたいと思っています。また地域ボランティアの積極的な参画を大いに期待するとともに、町民に広く呼びかけたいと考えています。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 2016年度（H28） ～ 2019年度（R01） <input type="checkbox"/> 未実施 → 取組状況 見通し												
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除												
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える											
		基本的方向	① 地域による教育・子育て環境を整え、プライベートと仕事の両立を支える											
		施策	④ 就学前児童への教育・保育カリキュラムの充実											
	KPI	取組内容	① 英語教育の充実											
成果指標名		英会話教室の年間開催数												
2020年度（R02） 実施予定		令和2年度においても、引き続き簡単な挨拶や自己紹介を英語でやってみるなど、日常的な英会話に触れることを目的に英語教育を実施する予定です。また、保護者に対してアンケートを実施した結果を踏まえて、英語教育について何を希望されているのか検討していきたいと考えます。												
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		<table border="1"> <tr> <td>指標（予定）</td> <td>KPI</td> <td>英会話教室の年間開催数</td> <td>35回</td> </tr> <tr> <td></td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	指標（予定）	KPI	英会話教室の年間開催数	35回		—				—		
指標（予定）	KPI	英会話教室の年間開催数	35回											
	—													
	—													

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	教育総務課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	58ページ
担当係	学校教育係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		① 地域による教育・子育て環境の充実		
	施策		④ 就業前教育の充実		
	取組内容	14	② 体育教育の充実		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	「走る」「跳ぶ」「投げる」といった、基本的な運動能力を向上させるために専門家に指導してもらいました。専門家の指導のもと、マット運動をするにしても、年少クラスは犬やウサギ、ヘビ等の動物模倣、年中・年長クラスでは横転やサイドステップ・スキップ等、子どもの成長段階に応じた指導をします。また、肥満や骨折防止及び基礎体力の向上をめざします。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	委託料		165	165	180	180		
			165	165	180	180		
合 計		（R01時点）	165	165	180	180	5年間累計	690
		（R02時点）	165	165	180	180	5年間累計	690
2019年度（R01） 実施結果		実施状況	②計画通りに実施できなかった					
		説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による臨時休園のため、実施回数が減少しています。					

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
英会話教室及び体育教室の開催数	回	32	47	47	44	60

14. 体育教育の充実

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①	実績（値）		
	独自の指標②	実績（値）		
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 運動指導について、適切な指導により、怪我をすることなく安全に、マット運動・鉄棒・跳び箱・縄跳び等の練習を繰り返したことで、でんぐり返り・逆上がり・跳び箱・縄跳びをできる子がたくさん出てきています。運動が苦手な子どもでもわかりやすい指導で、苦手克服につながり、子どもたちの自信につながっているように思われます。また、休み時間に、体育教室で習った縄跳びや鉄棒等に自分から取り組む姿も見られ、運動に対する興味や関心がより一層高まったように考えられます。日常生活では子どもの運動不足を感じている保護者の方もあるので、安全な環境で子どもに適切な運動をさせるという体育教室の目標は達成できていると考えます。月1回 年少30分、年中40分、年長50分間で年齢に沿ったカリキュラムを実施しました。（1日に全学年、学年ごとに実施）新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による臨時休園のため、昨年度より実施回数が1回減少しています。 令和元年度実施回数 11回（うち1回年中のみ）（指導を受けた日数＝回数） 年少：41人 年中：54人 年長：62人			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 運動が得意な子どもがよりレベルの高い課題に専門家の指導のもとに挑戦することができるだけでなく、運動が苦手な子どもも幼稚園で安全な環境の中、専門家が設定するスモールステップにより適切に指導されることで運動が好きになり、運動習慣が身についていくと考えられます。園で専門の講師に指導してもらえるので、仕事で忙しい保護者や経済的に困難な理由で民間の体育教室に通うことが難しい家庭等、保護者からの事業実施への期待が高まっています。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 就学前教育の根幹にあるものにとらえて、園児一人ひとりが自らの活動の中で遊びを中心とした生活を通して発達段階や適性に応じて総合的な指導が求められていますので、引き続き、民間のスポーツ講師に指導していただき、園児の基礎体力の向上を目指します。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み <input type="checkbox"/> 未実施	→	計画期間中の実施年度 2016年度（H28） ～ 2019年度（R01）	
			→	取組状況 見通し	
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除			
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える		
		基本的方向	① 地域による教育・子育て環境を整え、プライベートと仕事の両立を支える		
		施策	④ 就学前児童への教育・保育カリキュラムの充実		
	KPI	取組内容	② 体育教育の充実		
		成果指標名	体育教室の年間開催数		
目標値		12回			
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		令和2年度においても、引き続き本事業を継続して実施することを予定しています。また、保護者に対してアンケートを実施した結果を踏まえて、体育教育について何を希望されているか検討していきたいと考えます。			
		指標（予定）	KPI	体育教室の年間開催数	12回
			—		
			—		
			—		

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	こども支援課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	59ページ
担当係	出会い・子育て支援係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		② ライフスタイルの多様化に対応した結婚・出産・子育て支援		
	施策		① 結婚・出産・子育ての希望を叶えるための支援		
	取組内容	15	① 婚活イベントの企画・実施		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	婚活イベントの開催、新規マリッジサポーターの募集・マリッジサポーターの育成を行います。 ①婚活イベント事業：2回の婚活イベントを予定しています。サポーターによる結婚支援として、月1回、奇数月第4木曜日・偶数月第3土曜日に2000年会館で結婚を考える男女やその保護者を対象とした結婚相談窓口を開設し、町内の結婚希望者へのサポーターによる見合い・紹介形式の結婚支援を行います。②かんまき未来創造マリッジサポーター育成事業：新規サポーターの募集・育成事業（個人情報取扱い等サポーターとしての知識の習得及びイベント体験）、サポーターフォローアップ研修（サポーター認定後の能力アップ講座）を実施します。引き続き町内の店舗に結婚応援団として何らかのサービス提供等協力を依頼し、タイアップを図ります。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	出会い・結婚応援事業		1,321	1,821	2,036	1,436		
			1,321	1,821	1,876	994		
合 計		（R01時点）	1,321	1,821	2,036	1,436	5年間累計	6,614
		（R02時点）	1,321	1,821	1,876	994	5年間累計	6,012
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	②計画通りに実施できなかった						
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）	2回予定していた婚活イベントが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、1回になりました。						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
婚活イベント事業・縁結び事業による成婚数	組	—	—	5	3	8

15. 婚活イベントの企画・実施

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった																																																						
	独自の指標①	実績（値）																																																						
	独自の指標②	実績（値）																																																						
	●事業の分析（評価の根拠・理由） ①令和元年度は婚活イベントを1回実施し、15名（男性8名・女性7名）の参加があり、サポーターの後押しとアドバイス、気配りにより3組のカップルが成立しました。また、新型コロナウイルス感染拡大予防のため3月に予定していた婚活イベントは中止しましたが、その間も、サポーターは個々に相談者と連絡をとり、サポート活動を行いました。 ②マリッジサポーター4期生の養成講座を開催し、新たに2名のサポーターが誕生しました。令和2年4月からは14名の方にサポーターの認定証を授与し、活動していただくことになりました。また、上牧町商工会女性部会に対して結婚応援団の依頼を行ったところ、サポーター養成講座に参加していただくことができました。商工会にこの活動を知ってもらえきっかけになったと考えます。 また、サポーターのこれまでの尽力により、平成28年度から始めたこの事業を通じて初めて令和元年度に3組の成婚がありました。以上のことから、概ね目標の成果が得られたと判断します。																																																							
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。																																																							
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <table border="1" style="width: 45%;"> <caption>婚活イベントと参加者等</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>イベント名</th> <th>男性</th> <th>女性</th> <th>カップル数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">H30</td> <td>ハロウィン 調理体験</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>ビ・チボ・ールハ・レー</td> <td>14</td> <td>12</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>Xmas Party</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>イチゴイチ笑</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 45%;"> <caption>マリッジサポーター年度別推移表</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H29.3.31</th> <th>H30.3.31</th> <th>H31.3.31</th> <th>R2.3.31</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4期生</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3期生</td> <td></td> <td></td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>2期生</td> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>1期生</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>5</td> <td>9</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table> </div>						イベント名	男性	女性	カップル数	H30	ハロウィン 調理体験	8	7	3	ビ・チボ・ールハ・レー	14	12	7	Xmas Party	12	12	6	イチゴイチ笑	10	9	3		H29.3.31	H30.3.31	H31.3.31	R2.3.31	4期生				2	3期生			6	5	2期生		5	4	3	1期生	5	4	4	4	合 計	5	9	14	14
	イベント名	男性	女性	カップル数																																																				
H30	ハロウィン 調理体験	8	7	3																																																				
	ビ・チボ・ールハ・レー	14	12	7																																																				
	Xmas Party	12	12	6																																																				
	イチゴイチ笑	10	9	3																																																				
	H29.3.31	H30.3.31	H31.3.31	R2.3.31																																																				
4期生				2																																																				
3期生			6	5																																																				
2期生		5	4	3																																																				
1期生	5	4	4	4																																																				
合 計	5	9	14	14																																																				
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある																																																						
	評価の根拠及び理由 上牧町の婚活イベント後の、サポーターの参加者へのフォローがしっかりと行われていること等が口コミで広がり、信頼も得られ、ニーズが増加すると考えます。																																																							
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない																																																						
	評価の根拠及び理由 マリッジサポーターの募集・育成を引き続き行いますが、将来的（令和4年度まで）には自立したマリッジ支援団体として活動していただく計画なので、育成内容もそれに合わせたものに変えていく必要があります。																																																							

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み	→	計画期間中の実施年度 2016年度（H28） ～ 2019年度（R01）	
		<input type="checkbox"/> 未実施	→	取組状況 見通し	
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除			
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える		
		基本的方向	② 結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目ない支援		
		施策	① 結婚・妊娠・出産の希望を叶えるための支援		
	KPI	取組内容	① 出会い・結婚応援事業の実施		
		成果指標名	出会い・結婚応援事業による年間成婚者数		
		目標値	3組		
成果指標名		結婚相談年間新規登録者数			
2020年度（R02） 実施予定	※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載	目標値	20人		
		指標（予定）	KPI	出会い・結婚応援事業による年間成婚者数	3組
		KPI	結婚相談年間新規登録者数	20人	
		—			

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	こども支援課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	59ページ
担当係	出会い・子育て支援係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		② ライフスタイルの多様化に対応した結婚・出産・子育て支援		
	施策		① 結婚・出産・子育ての希望を叶えるための支援		
	取組内容	16	② 結婚希望者相談窓口の設置		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	地域における結婚相談やアドバイスを行うマリッジサポーター及び協力NPO団体による、結婚を考える男女またはその保護者を対象とした相談窓口を、月1回、奇数月第4木曜日・偶数月第3土曜日に2000年会館で開催し、結婚に対する不安等の解消に努めて婚姻へと導くことを目的として実施します。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	出会い・結婚応援事業		1,466	2,363	1,788	1,405		
			1,466	2,363	1,789	1,171		
合 計		（R01時点）	1,466	2,363	1,788	1,405	5年間累計	7,022
		（R02時点）	1,466	2,363	1,789	1,171	5年間累計	6,789
2019年度（R01） 実施結果		実施状況	②計画通りに実施できなかった					
		説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）	相談会は少人数のためそれほど密ではありませんが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、3月は実施しませんでした。					

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
婚活イベント事業・縁結び事業による成婚数	組	—	—	5	3	8

16. 結婚希望者相談窓口の設置

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった																																																																														
	独自の指標①	実績（値）																																																																														
	独自の指標②	実績（値）																																																																														
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 平成30年度から引き続き、結婚相談窓口を月1回開設し、令和元年度から偶数月には平日は仕事等により日程調整できない方のために土曜日に開催しました。令和元年度は計26件の相談がありました。目標値には達しませんでした。相談会以外でもサポーターが個々で相談に乗っており、相談者との信頼関係を築いています。その積み重ねが、令和元年度に初めて3組の成婚者が出たことにつながったと考えます。 以上から、概ね目標の成果が得られたと考えます。																																																																															
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。																																																																															
結婚相談窓口開設曜日と相談件数																																																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td></td> <td></td> <td>土</td> <td>木</td> <td>土</td> <td>木</td> <td>土</td> <td>祝</td> <td>木</td> <td>土</td> <td>木</td> <td>土</td> <td rowspan="2">26</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>金</td> <td>祝</td> <td>木</td> <td>金</td> <td>金</td> <td>火</td> <td rowspan="2">18</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>														4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	R1			土	木	土	木	土	祝	木	土	木	土	26				4	4	4	1	4	2	2	1	2		H30							金	祝	木	金	金	火	18								5	7	1	2	1	1
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計																																																																			
R1			土	木	土	木	土	祝	木	土	木	土	26																																																																			
			4	4	4	1	4	2	2	1	2																																																																					
H30							金	祝	木	金	金	火	18																																																																			
							5	7	1	2	1	1																																																																				
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある																																																																														
	評価の根拠及び理由 マリッジサポーター及び協力NPO団体による月1回の結婚相談会を実施しているほか、広報へのコラムの掲載、月1回の定例会の開催、サポーター同士による話し合いや研修会の開催、婚活イベントの運営補助等積極的に活動してきたことにより、サポーターの認知度や信頼性が高まってきたと考えます。今後もニーズは増加すると思えます。																																																																															
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない																																																																														
	評価の根拠及び理由 令和元年度は隔月に土曜日の相談日を設け、広報・ホームページ・Facebook等で周知しました。今後も相談しやすい体制を整え、登録制度及び個別紹介の充実を図っていきたいと考えます。																																																																															

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		■ 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2016年度（H28）	～	2019年度（R01）
		□ 未実施	→	取組状況			
				見通し			
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える				
		基本的方向	② 結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目ない支援				
		施策	① 結婚・妊娠・出産の希望を叶えるための支援				
		取組内容	① 出会い・結婚応援事業の実施				
	KPI	成果指標名	出会い・結婚応援事業による年間成婚者数				
		目標値	3組				
		成果指標名	結婚相談年間新規登録者数				
目標値		20人					
2020年度（R02） 実施予定		※「15. 婚活イベントの企画・実施」で記載					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載							
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載							
指標（予定）	KPI	指標名入力				予定（値）入力	
	KPI	指標名入力				予定（値）入力	
	独自	指標名入力				予定（値）入力	

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	こども支援課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	59ページ
担当係	児童福祉係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		② ライフスタイルの多様化に対応した結婚・出産・子育て支援		
	施策		① 結婚・出産・子育ての希望を叶えるための支援		
	取組内容	17	③ ワンストップ相談窓口の設置		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	機構改革により、平成30年度から子育て支援窓口の一元化として福祉課・こども支援課・生き活き対策課が2000年会館に配置されたことにより、どの窓口に来られてもワンストップで対応が可能になりました。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費									
	合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
			（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した							
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）								

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
ワンストップ相談窓口年間相談数	件	—				200

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①			実績（値）
	独自の指標②			実績（値）
	●事業の分析（評価の根拠・理由） どの窓口に来られても、3つの課が連携して対応しています。例えば「出生」で児童手当の申請にこども支援課を訪ねて来られた時、手続きが完了したあと生き活き対策課に声をかけます。生き活き対策課では赤ちゃんやパパ・ママへのサービスの紹介や地区担当の保健師との顔合わせ等を行います。来庁者から求められなくても課をまたいで関連するサービスを提供し、来庁者は同じ窓口で座ったままそのサービスを受けられます。以上のことから概ね目標の成果が得られたと考えます。			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 核家族化・就労形態の多様化に伴いニーズは増加すると考えます。子育て世帯の利便性の向上に努めていきたいと思います。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 住民の利便性の向上や更なる支援のため、必要に応じ見直しを行いながら事業を継続していきたいと考えます。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み <input type="checkbox"/> 未実施	→	計画期間中の実施年度 2018年度（H30） ～ 2019年度（R01）	
			→	取組状況 見通し	
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 削除			
	位置づけ	基本目標			
		基本的方向			
		施策			
	KPI	取組内容			
成果指標名					
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		指標 （予定）	KPI	指標名入力	予定（値）入力
			KPI	指標名入力	予定（値）入力
			独自	指標名入力	予定（値）入力
			独自	指標名入力	予定（値）入力

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	生き活き対策課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	59ページ
担当係	健康増進係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標	① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する			
	基本的方向	② ライフスタイルの多様化に対応した結婚・出産・子育て支援			
	施策	① 結婚・出産・子育ての希望を叶えるための支援			
	取組内容	18	④ マタニティ教室の開催		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	マタニティ教室の開催 ・妊婦 妊娠期の食事、沐浴体験、妊婦体験、保健事業の紹介 ・助産師による妊娠中の過ごし方、安産のコツ、子育ての知識習得、参加者同士の交流会 ・2回×年4セット（A日程：2時間、B日程：1時間30分）A日程のうち2回は夫も参加してもらえるよう日曜開催 ・教室の延べ人数45名を目標に勧奨を実施します。 ・妊娠届出時から助産師が、教室の勧奨及び教室を担当することで、専門性の高い継続的な支援を実施します。				
独自の指標	指標①	マタニティ教室参加者の内、夫の参加延べ人数		目標（値）	13人
	指標②	マタニティ教室参加者延べ人数		目標（値）	45人

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	賃金	24	25	25	25		
		24	25	25	0		
	需用費	7	3	3	13	子育て世代包括支援センター開設準備経費で、備品購入	
		7	3	3	11		
	備品購入費	0	0	77	0		
		0	0	77	0		
合 計	（R01時点）	31	28	105	38	5年間累計	202
	（R02時点）	31	28	105	11	5年間累計	175

2019年度（R01）実施結果	実施状況	③計画の内容に加え、別の取組も実施した			
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）	B日程の教室では同時刻に乳児相談も開催しているため、乳児相談にいられた母子との交流を図る内容を追加しました。そのことで、出産時の話や育児の様子について、生の声を聴くことができました。			

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった																											
	独自の指標①	マタニティ教室参加者のうち、夫の参加の延べ人数		実績（値）	17人																								
	独自の指標②	マタニティ教室参加者延べ人数		実績（値）	47人																								
	●事業の分析（評価の根拠・理由）																												
	「上牧町保健事業予定表」「広報　かんまき」「ホームページ」に教室の開催を掲載することや、妊娠届提出時に全件、教室を担当する助産師や保健師等の専門職員が面接を行うなど、マタニティ教室への参加を促しています。また、妊娠中期から後期にかけて妊婦へ電話をかけ様子を確認し必要な支援を行う中で、教室の勧奨を実施しました。（妊娠届出件数は年間88件で減少傾向で、出生数は平成29年101名、平成30年118名、令和元年102名と増減がみられます。） 令和元年度は参加者延べ人数の目標45名に対し47名（実37名）で目標達成しました。 （参考）参加者延べ人数経年実績：28名（H28）、35名（H29）、50名（H30） また、夫の参加者延べ人数の目標13名に対し17名（実17名）で目標達成しました。																												
	教室後のアンケートでは、満足度は5段階評価で、A日程平均4.64、夫4.6 B日程4.71、夫4.75であり、両日程ともに4.5以上でした。特に沐浴体験では、体験された夫全員が「大変よかった」と評価していました。																												
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。																												
	<令和元年度　妊婦さんあつまれ・パパもあつまれの参加人数>																												
	<table><tr><td></td><td>1セット</td><td>2セット</td><td>3セット</td><td>4セット</td><td></td></tr><tr><td>A日程</td><td>6/2（日） 10名（夫婦5組）</td><td>8/30（金） 7名（夫婦3組、妊婦1名）</td><td>12/1（日） 8名（夫婦4組）</td><td>2/28（金） 4名（夫婦1組、妊婦2名）</td><td>A日程合計 29名</td></tr><tr><td>B日程</td><td>6/4（火） 6名（夫婦1組、妊婦3名、夫1名）</td><td>9/3（火） 5名（夫婦1組、妊婦3名）</td><td>12/3（火） 0名</td><td>3/3（火） 7名（夫婦1組、妊婦5名）</td><td>B日程合計 18名</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>全日程 合計47名</td></tr></table>						1セット	2セット	3セット	4セット		A日程	6/2（日） 10名（夫婦5組）	8/30（金） 7名（夫婦3組、妊婦1名）	12/1（日） 8名（夫婦4組）	2/28（金） 4名（夫婦1組、妊婦2名）	A日程合計 29名	B日程	6/4（火） 6名（夫婦1組、妊婦3名、夫1名）	9/3（火） 5名（夫婦1組、妊婦3名）	12/3（火） 0名	3/3（火） 7名（夫婦1組、妊婦5名）	B日程合計 18名						全日程 合計47名
		1セット	2セット	3セット	4セット																								
A日程	6/2（日） 10名（夫婦5組）	8/30（金） 7名（夫婦3組、妊婦1名）	12/1（日） 8名（夫婦4組）	2/28（金） 4名（夫婦1組、妊婦2名）	A日程合計 29名																								
B日程	6/4（火） 6名（夫婦1組、妊婦3名、夫1名）	9/3（火） 5名（夫婦1組、妊婦3名）	12/3（火） 0名	3/3（火） 7名（夫婦1組、妊婦5名）	B日程合計 18名																								
					全日程 合計47名																								
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある																											
	評価の根拠及び理由 妊娠期の過ごし方・子育てに関する知識の習得や保健福祉サービスの情報を収集する場というだけでなく、地域の中で妊婦の友達が欲しいという住民の方からの要望があり、仲間づくり・情報共有等の場としてのニーズが高いと思われます。 そして近年、夫と一緒に教室に参加したいという要望も増えており、参加者数も増加しています。また、妊娠中から関係性を築くことで育児の孤立化を予防することにつながると考えられます。																												
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない																											
	評価の根拠及び理由 教室の時間帯について「子どものお迎えがあるから、午前中の方が参加しやすい。」との声もあったため、令和2年度は午前中の開催で実施していきたいと思います。教室内容については、胎児モデルや視聴覚教材を活用し、より分かりやすく、楽しく学んでもらえるよう工夫し、参加者同士の交流促進についても検討します。また参加者のニーズを反映した教室開催を検討します。 新型コロナウイルス感染症予防対策として、3密（密集、密接、密閉）にならないように、会場を変更したり、マスクの着用や消毒等を徹底していきます。																												

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 2015年度（H27） ～ 2019年度（R01）		
		<input type="checkbox"/> 未実施 → 取組状況 見通し		
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除		
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える	
		基本的方向	② 結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目ない支援	
		施策	① 結婚・妊娠・出産の希望を叶えるための支援	
		取組内容	② プレパパママ教室の開催	
	KPI	成果指標名	パパの教室参加割合	
目標値		22%		
2020年度（R02） 実施予定		マタニティ教室の開催 ・名称を「プレパパママ教室」に変更 ・繰り返し学べるように沐浴のポイントをまとめたビデオを作成します。 ・妊娠周数に応じた胎児や胎盤・子宮の大きさを胎児人形を活用し、より分かりやすく、楽しく学んでもらえるよう工夫します。 ・教室の日程増加や参加者の同窓会等、参加者同士の交流促進について取り組みます。 ・妊娠届提出時に専任助産師等が全件面接を行う中で、教室の魅力を伝え、参加勧奨を実施します。 ・母子健康手帳アプリの登録を勧奨し、随時配信等で周知を図ります。 ・教室参加者延べ人数については、50名を目標に勧奨を実施します。 ・アンケートの実施により、参加者のニーズを把握し、教室の内容の検討を図ります。 ・新KPIをパパの教室参加割合（パパの教室参加者実数/母子健康手帳発行数×100%）とし、令和6年には30%を目標に取組を推進します。 新型コロナウイルス感染症予防対策として、3密（密集、密接、密閉）にならないように、会場を変更したり、マスクの着用や消毒等を徹底していきます。		
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載				
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載				
		指標（予定）	KPI 独自	
		パパの教室参加割合 20%		

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	生き活き対策課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	59ページ
担当係	健康増進係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標	① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する			
	基本的方向	② ライフスタイルの多様化に対応した結婚・出産・子育て支援			
	施策	① 結婚・出産・子育ての希望を叶えるための支援			
	取組内容	19	⑤ 乳児・幼児健診の実施		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	乳児・幼児健診の実施 ・3か月児健康診査 集団指導（予防接種の勧奨、ふれあい遊び、歯のお話）、問診、身体計測、診察、育児、栄養相談 ・10か月児健康診査 問診、身体測定、診察、歯科指導、育児、栄養相談 ・1歳8か月児健康診査 集団指導（言葉の発達、予防接種の勧奨、歯磨きのポイント）、問診、身体計測、診察、歯科診察、歯科相談、発達相談、育児、栄養相談 ・2歳児歯科検診 集団指導（予防接種の勧奨、歯科医師からのお話）、問診、身体計測、診察、歯科診察、フッ素塗布 ・3歳児健康診査 集団指導（予防接種の勧奨、食事、歯のお話）、問診、身体計測、診察、歯科診察 経過観察が必要な方には後日に連絡を行い、状況を確認 未受診者に対する支援として、電話やハガキで次回実施日への受診勧奨を実施します。 それでも最終的に受診できなかった場合、家庭訪問または所属している保育園等へ訪問し、直接お子さんの健康状態や育児状況を概ね把握します。 健診の利便性の向上に係る対策として、待ち時間の縮小や利活用について工夫して実施します。また、受診者へのアンケートを実施し、ニーズの把握や事業評価を実施することで改善します。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費	賃金	500	490	461	487			
		500	490	461	435			
	報償費	998	903	1,108	1,268			
		998	903	1,108	996			
	役務費	62	66	72	72			
		62	66	72	90			
	需用費	10	112	104	159			
		10	112	104	158			
合 計		（R01時点）	1,570	1,571	1,745	1,986	5年間累計	6,872
		（R02時点）	1,570	1,571	1,745	1,679	5年間累計	6,565
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した						
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）							

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
乳児健診受診率	%	99.0	96.5	98.0	96.8	100
幼児健診受診率	%	93.5	90.0	94.0	94.3	98.1

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①	実績（値）		
	独自の指標②	実績（値）		
	●事業の分析（評価の根拠・理由）			
	<p>令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で3月の健診（3・10か月児、3歳児）を実施していません。受診率については、乳児健診は目標値へ届きませんでしたが、幼児健診は目標値を達成することができました。乳児健診について、前年度と比較して3か月児健診では受診率が低下（97.6%→96.5%）し、10か月児健診では受診率が大きく上昇（93.3%→97.2%）しています。</p> <p>アンケートによる満足度はとても満足・満足と回答された方が約8割おり、「（1歳8か月児健診では）発達相談をできてよかった」、「保護者同士の交流ができた」、「スタッフが親切」等の理由があり、待ち時間についても「ちょうどよい」「思っていたよりスムーズだった」という回答があったことから、取組の成果があったと考えられます。</p> <p>また、幼児健診について、1歳8か月児健診では（90.4%→95.9%）、3歳児健診では（89.0%→94.3%）と共に上昇しました。未受診の方については（健診時外国居住、就園している、保護者の多忙、時間が合わない、医療機関でフォロー中）等の理由が挙げられています。最終的に受診できなかった児については、家庭訪問、来所面接、所属している保育所等で直接健康状態等の確認を全件実施しています。</p> <p>虐待が疑われるケースについては、要保護児童対策地域協議会に報告し、各関係機関と情報連携しながら見守り等の対応を継続しています。</p>			
●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。				
<p>乳幼児健診の満足度調査 （有効回答数32件）</p> <p>資料：令和2年1月～2月乳幼児健診アンケート</p>				
ニーズの方向性	評価	<input type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 少子化が進んでいること、また保護者の就労の増加に伴い地域でのつながりが薄れてきているため、健診は異常の早期発見の場となるだけでなく、情報提供や交流の重要な場になっていると考えられます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 受診率向上に向けて、健診受診の必要性について保護者の方にさらに周知していく必要があると考えます。町内の保育所や幼稚園等と連携を図り、ポスター掲示による健診日等の周知を行うなど、受診を勧めていく体制づくりを行っていきます。また、引き続き満足度についてアンケートを行い、ニーズに応じて実施方法の見直し変更を行っていきます。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を踏まえた健診を実施します。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2015年度（H27）	～	2019年度（R01）
		<input type="checkbox"/> 未実施	→	取組状況	見通し		
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える				
		基本的方向	② 結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目ない支援				
		施策	② 子育ての希望を叶えるための支援				
	KPI	取組内容	① 乳児・幼児健診受診の促進				
		成果指標名	乳児健診受診率				
		目標値	100%				
成果指標名		幼児健診受診率					
2020年度（R02） 実施予定	※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載	現行の取組における乳児・幼児健診の実施 経過観察が必要な方には後日に連絡を行い、状況を確認 未受診者に対する支援として、電話やハガキで次回実施日への受診勧奨を実施します。 それでも最終的に受診できなかった場合、家庭訪問または所属している保育園等へ訪問し、直接お子さんの健康状態や育児状況を概ね把握します。 各健診において満足度調査を継続します。 各健診における新型コロナウイルス感染症対策を行います。 ・健診体制の見直し（必要に応じて2診体制・健診日の増加）やスタッフ数の調整 ・当日の受診者の滞在時間の短縮・3密を避けるために、事前問診や計測の実施、受付時間を細かく区切って少人数ずつの案内、消毒や換気の徹底 ・健診を適切な時期に受けていただくよう周知（厚生労働省作成のリーフレットを利用して、保育所や幼稚園を通じて保護者に配布やポスター掲示）					
		指標（予定）	KPI	乳児健診受診率		100%	
	KPI	幼児健診受診率		98.1%			

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	生き活き対策課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	59ページ
担当係	健康増進係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標	① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する			
	基本的方向	② ライフスタイルの多様化に対応した結婚・出産・子育て支援			
	施策	① 結婚・出産・子育ての希望を叶えるための支援			
	取組内容	20	⑥ 新米ママへの訪問カウンセリングの拡充		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	新米ママへの訪問、カウンセリングの拡充 助産師を雇用し、妊娠届出提出時の全件面接・カウンセリングを行い、妊娠期からの継続した訪問・電話等の支援を行います。 助産師が、出産後の家庭訪問を全件実施し、新生児等の育児について発育、栄養、衣服、生活環境、疾病予防に関すること（保護者に対する問診、新生児の観察等を行い異常または疾病の発見並びに早期治療を受けることの指導、助言含む）等全般に指導、助言を行います。 また、保護者の健康管理について、指導、助言を行います。				
独自の指標	指標①	赤ちゃん訪問実施率		目標（値）	100%
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	需用費	19	7	24	31		
		19	7	24	30		
	備品購入費	37	0	0	0		
		37	0	0	0		
	合 計	(R01時点) 56	7	24	31	5年間累計	118
		(R02時点) 56	7	24	30	5年間累計	117
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】

20. 新米ママへの訪問カウンセリングの拡充

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①	赤ちゃん訪問実施率		実績（値） 97%
	独自の指標②			実績（値）
	●事業の分析（評価の根拠・理由）			
	産後1～2か月に家庭訪問を実施し、母子の健康状態の把握、相談や子育て支援等の情報提供を行いました。訪問を実施することで、母親は育児に関する不安や悩みが表出でき、保健師等は家庭環境を把握することで適切な支援につなげました。			
●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。				
訪問数 96件 訪問拒否 3件→全て来所にて、面接と現認を行い、児の身体計測や、母子保健事業等の情報提供を行いました。				
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 核家族世帯や母子家庭の増加等、様々な家庭が増加し、様々な情報が錯綜している中で、子育てに対し不安を抱えている方が多いことが考えられます。赤ちゃん訪問を全戸訪問として実施することで、家庭環境を把握することができ、より個々に応じた育児支援につながると考えられます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を見ながら、感染防止策を十分に講じ、安全安心な家庭訪問について検討します。赤ちゃん訪問を拒否される理由の中に、「部屋が散らかっているから来てほしくない。」との理由がありました。しかしながら訪問を実施することで、家族の様子や赤ちゃんの養育環境の確認をする必要があります。 令和2年度からは、赤ちゃん訪問記念品（育児カタログギフト）を訪問家庭に贈呈する取組を行うなど、赤ちゃん訪問実施率100%を目指します。その上でも、訪問を拒否する母親に対しては、理由を明らかにするとともに、今後とも来所にて対応したりと個々に応じた支援をしていきたいと思います。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		■ 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2015年度（H27）	～	2019年度（R01）
		□ 未実施	→	取組状況			
				見通し			
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える				
		基本的方向	② 結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目ない支援				
		施策	② 子育ての希望を叶えるための支援				
		取組内容	② 子育て世代への訪問型個別支援の拡充				
	KPI	成果指標名	赤ちゃん訪問実施率				
目標値		100%					
2020年度（R02） 実施予定		新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を見ながら、感染防止策を十分に講じ、安全安心な家庭訪問について検討します。 子育て世代包括支援センターが、妊娠届出提出時の全件面接・カウンセリングを行い、妊娠期からの切れ目ない細やかな支援に向けて、地区担当の保健師と連携して、継続した訪問・電話等の支援を行います。 助産師と地区担当の保健師が、出産後の家庭訪問を全件実施し、新生児等の育児について育児、栄養、衣服、生活環境、疾病予防に関すること（保護者に対する問診、新生児の観察等を行い異常又は疾病の発見並びに早期治療を受けることの指導、助言含む）等全般に指導、助言や子育てに関する情報提供を行います。また、保護者の健康管理について、指導、助言を行います。 赤ちゃん訪問記念品（育児カタログギフト）を訪問家庭に贈呈する取組を行うなど、赤ちゃん訪問実施率100%を目指します。					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載							
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載							
指標（予定）	KPI	赤ちゃん訪問実施率				100%	
	—						
	—						

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	生き活き対策課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	59ページ
担当係	健康増進係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		② ライフスタイルの多様化に対応した結婚・出産・子育て支援		
	施策		② 不妊・不育症治療支援		
	取組内容	21	① 不妊治療助成制度の創設		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	不妊治療助成制度 ・一般不妊治療を受けている夫婦に対して不妊治療に要する費用の一部を助成し、不妊で悩む夫婦の経済的及び精神負担の軽減を図り、少子化対策の推進に寄与することを目的とします。 ・ホームページ、広報、チラシ、ポスター（公的機関以外にも近隣の産婦人科に設置協力を依頼）等で周知します。 ・アンケート調査等で不妊治療助成制度に関する認知度を把握します。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	扶助費	167	510	623	560		
		167	510	623	806		
	合 計	（R01時点）167	510	623	560	5年間累計	1,860
		（R02時点）167	510	623	806	5年間累計	2,106
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
不妊治療助成件数	件	—	10	13	15	15

21. 不妊治療助成制度の創設

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった																			
	独自の指標①	実績（値）																			
	独自の指標②	実績（値）																			
	●事業の分析（評価の根拠・理由）																				
	<p>令和元年度のKPIを13件と想定し実施しましたが、結果15件の利用がありました。</p> <p>令和元年度は保健事業予定表、広報（11月、2月）、ホームページ、子育て支援ガイドブック等で周知啓発を行い、平成31年1月から町内医療機関や町内公共施設、町内保育園、公立幼稚園にポスターを掲示しています。令和元年度に不妊・不育症治療助成事業についてどの程度知っているか乳幼児健診、乳幼児相談（令和2年1月から3月分）にて以下のアンケートを実施した結果、十分知っている、ほぼ知っている人の割合は30.6%（約3割）であり、あまり知らない、まったく知らない人の割合が69.4%（約7割）でした。このため、さらに周知方法を検討し、効果的に周知を図る必要があります。</p> <p>平成28年度に助成を開始してから、5人の出生があり、令和元年度にこの助成を利用した方のうち4名の方が妊娠されました。</p>																				
ニーズの方向性	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。																				
	左）乳幼児健診、乳幼児相談来所者に対する不妊・不育症治療助成事業認知度アンケート（令和2年1月から3月分） 右）平成28年度からの不妊・不育症治療の助成実績																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>十分知っている</th> <th>ほぼ知っている</th> <th>あまり知らない</th> <th>全く知らない</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人 数</td> <td>3</td> <td>19</td> <td>24</td> <td>26</td> <td>72</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>4.2</td> <td>26.4</td> <td>33.3</td> <td>36.1</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: right;"> </div>					十分知っている	ほぼ知っている	あまり知らない	全く知らない	合 計	人 数	3	19	24	26	72	割合	4.2	26.4	33.3	36.1
	十分知っている	ほぼ知っている	あまり知らない	全く知らない	合 計																
人 数	3	19	24	26	72																
割合	4.2	26.4	33.3	36.1	100																
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある																			
	評価の根拠及び理由																				
	不妊治療を受けたいが、経済負担が大きいため何らかの補助制度がないかとの問い合わせが近年増加していることや、平成28年度に助成を開始してから5人の出生があり、4名の方が妊娠中であることから制度のニーズの高まりを実感します。																				

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2016年度（H28）	～	2019年度（R01）
		<input type="checkbox"/> 未実施	→	取組状況			
				見通し			
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える				
		基本的方向	② 結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目ない支援				
		施策	① 結婚・妊娠・出産の希望を叶えるための支援				
		取組内容	③ 不妊・不育症治療助成制度の利用促進				
KPI	成果指標名	事業認知度（よく知っている、名前だけ知っている人の割合）					
	目標値	40%					
2020年度（R02） 実施予定		・事業周知を積極的に実施し、助成制度利用促進に向け、取組内容の名称変更を行い、新たに「事業認知度」をKPIとして設定します。 ・事業の周知に向け、令和2年度も広報、ホームページ、健診の場等で啓発をします。近隣の産婦人科にチラシやパンフレットの設置協力を依頼するなど周知します。 ・不妊治療について助成制度を利用された方、検討されている方へニーズ調査を実施し、補助金の増額や助成期間の延長等、事業内容について検討します。 ・令和元年度のアンケートを令和2年度も継続して実施し、周知状況を確認します。アンケートの回答の選択肢が、（十分知っている、ほぼ知っている、あまり知らない、まったく知らない）と曖昧な聞き方であったため、令和2年度からは（よく知っている、名前だけ知っている、知らない、その他）に変更します。 ・転入者や、保健所へ特定不妊治療の申請に来た方への情報提供について検討します。					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		指標 （予定）	KPI	事業認知度（よく知っている、名前だけ知っている人の割合）			40%
			—				
			—				

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	生き活き対策課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	59ページ
担当係	健康増進係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標	① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する			
	基本的方向	② ライフスタイルの多様化に対応した結婚・出産・子育て支援			
	施策	② 不妊・不育症治療支援			
	取組内容	22	② 不育症治療助成制度の創設		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	不育症治療助成制度 不育症治療を受けている夫婦に対して不育症治療に要する費用の一部を助成し、不育症で悩む夫婦の経済的及び精神負担の軽減を図り、少子化対策の推進に寄与することを目的とします。 ホームページ、広報、チラシ、ポスター（公的機関以外にも近隣の産婦人科に設置協力を依頼）等で周知します。アンケート調査等で不育症治療助成制度に関する認知度を把握します。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	扶助費	36	211	101	700		
		36	211	101	57		
	合 計	(R01時点) 36	211	101	700	5年間累計	1,048
		(R02時点) 36	211	101	57	5年間累計	405
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

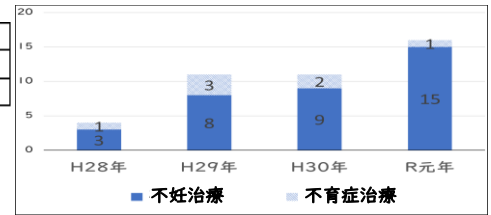
成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
不育症治療助成件数	件	—	2	7	1	9

22. 不育症治療助成制度の創設

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①	実績（値）		
	独自の指標②	実績（値）		
	●事業の分析（評価の根拠・理由）			
	令和元年度のKPIを7件と想定し実施しましたが、結果1件の利用にとどまりました。令和元年度は保健事業予定表、広報（11月、2月）、ホームページ等で周知啓発を行い、平成31年1月から町内医療機関や町内公共施設、町内保育園、公立幼稚園にポスターを掲示し、周知していますが、助成者数は横ばいです。令和元年度に不妊・不育症治療助成事業についてどの程度知っているか乳幼児健診、乳幼児相談にて以下のアンケートを実施した結果、十分知っている、ほぼ知っている人の割合は30.6%（約3割）であり、あまり知らない、まったく知らない人の割合が69.4%（約7割）でした。このため、さらに周知方法を検討し、行っていく必要があります。 平成28年度に助成を開始してから3人の出生がありました。（令和元年度は0名）			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由			
	不育症治療を受けたいが、経済的負担が大きいため何らかの補助制度がないかとの問い合わせや、平成28年度に助成を開始してから3人の出生があることから、この制度のニーズを実感します。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由			
	申請者数は年度により変動がありますが1～3件です。一方、アンケートの結果から助成制度について認知度は約3割程度にとどまっています。一人でも多く不妊・不育症に困っている方に利用してもらえるように、一層の周知に向けて今後も広報、ホームページ、健診の場等で啓発するほか、個別に周知できるように近隣の産婦人科や特定不妊治療助成を実施している保健所にチラシやパンフレットの設置協力を依頼するなど周知の工夫を検討する必要があります。不妊・不育症治療について助成制度を利用された方、検討されている方へニーズ調査を実施し、補助金の増額や助成期間の延長等、事業内容について検討をしていく必要があります。			

	十分知っている	ほぼ知っている	あまり知らない	全く知らない	合 計
人 数	3	19	24	26	72
割合	4.2	26.4	33.3	36.1	100



4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況	■ 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2016年度（H28）	～	2019年度（R01）
	□ 未実施	→	取組状況			
			見通し			
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除				
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える			
		基本的方向	② 結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目ない支援			
		施策	① 結婚・妊娠・出産の希望を叶えるための支援			
	KPI	取組内容	③ 不妊・不育症治療助成制度の利用促進			
2020年度（R02） 実施予定	成果指標名	事業認知度（よく知っている、名前だけ知っている人の割合）				
		目標値	40%			
	指標（予定）	KPI				
		KPI				
		独自				
独自						

※「21. 不妊治療助成制度の創設」で記載

※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載

※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	こども支援課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	60ページ
担当係	出会い・子育て支援係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標	① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する			
	基本的方向	② ライフスタイルの多様化に対応した結婚・出産・子育て支援			
	施策	③ 安心して共働きできる環境の整備			
	取組内容	23	① 通勤時間のかかる世帯の延長保育料金の支援		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	就労形態の多様化に伴い、やむを得ない理由により保育時間を延長して児童を預けられる環境が必要とされており、民間保育所の経営の健全化及び保育内容の充実を図るため、支援を行います。 市町村の認定を受けた児童について、規定の保育時間を超えてしまう場合に、時間を延長して保育所等で引き続き保育を実施する事業 ・標準時間認定・・・11時間の開設時間を超えて保育を実施 ・短時間認定・・・各事業所が設定した短時間認定児の処遇を行う時間を超えて保育を実施				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	延長保育事業	5,735	3,995	3,932	6,071		
		5,735	3,995	3,932	4,731		
合 計	（R01時点）	5,735	3,995	3,932	6,071	5年間累計	19,733
	（R02時点）	5,735	3,995	3,932	4,731	5年間累計	18,393
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
出生数	人	95	118	96	93	97

23. 通勤時間のかかる世帯の延長保育料金の支援

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった														
	独自の指標①													実績（値）		
	独自の指標②													実績（値）		
	●事業の分析（評価の根拠・理由）															
	平成29年度に作成した「かんまき子育て支援ガイドブック」を引き続き住民課及び生き生き対策課窓口を設置し、妊娠届提出時や他市町村から転入時に案内してもらうことにより、担当窓口以外でも周知が図られていると考えます。 令和元年度においては、国の補助金を活用して新型コロナウイルス感染症拡大防止のための消毒薬及び体温計等の物品を購入しました。町内の公立及び私立の各保育所（園）へ配布し、手指消毒、定期的な換気等を行い感染拡大防止を図りつつ、延長保育を実施しました。 延長保育利用人数 平成28年度：161名（短時間保育34名・標準時間保育127名）平成29年度：194名（短時間保育55名・標準時間保育139名）平成30年度：216名（短時間保育49名・標準時間保育167名）令和元年度：204名（短時間保育73名・標準時間保育131名）															
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。															
	令和元年度															
	保育所名	延長保育実施状況														
		公 立						私 立						合 計		
		実施 か所数	短時間 認定	標準時間 認定	年間 実利用 児童数	短時間 認定	標準時間 認定	実施 か所数	短時間 認定	標準時間 認定	年間 実利用 児童数	短時間 認定	標準時間 認定	実施 か所数	年間 実利用 児童数	
上牧第1保育所	1	1	1	27	11	16				0			1	27		
慈光保育園							1	1	1	44	28	16	1	44		
西大和黎明保育園							1	1	1	46	11	35	1	46		
やまびこ保育園							1	1	1	87	23	64	1	87		
合 計	1	1	1	27	11	16	3	3	3	177	62	115	4	204		
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある														
	評価の根拠及び理由															
	共働き夫婦の増加及び勤務形態の多様化に伴い、通常保育以外の時間帯の保育のニーズは今後も増加すると考えます。															
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない														
	評価の根拠及び理由															
	今後、長時間延長保育のニーズも見込まれますが、それにより、事業費も増加すると考えられます。保護者がお迎えに来られる時間等から保護者の就労状況等の把握に努め、ニーズに沿った効果的な事業を検討したいと考えますが、全国的に保育士不足が深刻であり、すぐに実施できる状況にありません。															

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況	■ 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2015年度（H27）	～	2019年度（R01）	
	□ 未実施	→	取組状況				
			見通し				
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	④ 誰もが働きやすい環境をつくる				
		基本的方向	① 子育て世帯を中心としたあらゆる世代への就労支援				
		施策	② 子育てしながら安心して働ける環境の整備				
		取組内容	① 子育てと就労の両立の支援				
	KPI	成果指標名	延長保育年間実利用者数				
		目標値	220人				
		成果指標名	放課後児童クラブ月間受入人数（年平均値）				
目標値		140人					
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載	現状のまま継続します。延長保育については、児童数の減少等の影響により実利用人数は減少すると見込まれますが、延べ利用時間、延べ利用人数は増加すると考えます。保護者ニーズの把握に努め、対応を図っていきます。 また、放課後児童クラブについては、保護者のニーズに応じて、学童指導員を増員し、開設時間を午後7時までに延長して実施します。						
	指標 （予定）	KPI	延長保育年間実利用者数				220人
		KPI	放課後児童クラブ月間受入人数（年平均値）				140人
		—					

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	こども支援課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	60ページ
担当係	児童福祉係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標	① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する			
	基本的方向	② ライフスタイルの多様化に対応した結婚・出産・子育て支援			
	施策	③ 安心して共働きできる環境の整備			
	取組内容	24	② 病児病後児保育機能の強化と保護者負担の軽減		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	病児あるいは回復期にあり、通常保育が困難で児童を家庭で保育できない時に、医師が病児保育での対応が可能だと判断した場合、看護師、保育士と連携してお預かりする保育事業を実施するものです。 ◎継続事業・・・大和高田市で実施（総事業費の1/3を大和高田市及び協定を結んでいる市町村で按分） 協定9市町（上牧町、大和高田市、香芝市、葛城市、広陵町、王寺町、田原本町、御所市、河合町） ◎新規事業・・・広域5町で連携し、病児保育室を建設、共同実施します。 連携協約5町（上牧町、平群町、三郷町、王寺町、斑鳩町）				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	病児・病後児保育事業		265	77	451	3,415		
			265	77	451	3,520		
合 計		(R01時点)	265	77	451	3,415	5年間累計	4,208
		(R02時点)	265	77	451	3,520	5年間累計	4,313
2019年度（R01） 実施結果		実施状況	①計画通りに実施した					
		説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
病児病後児保育施設利用者数	人	5	10	40	12	50

24. 病児病後児保育機能の強化と保護者負担の軽減

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった																				
	独自の指標①	実績（値）																				
	独自の指標②	実績（値）																				
	●事業の分析（評価の根拠・理由）																					
	◎「ぞうさんのおうち」土庫こども診療所病児保育園（9市町村で協定） 平成27年6月から開始。月曜日から金曜日まで（土曜、日曜、祝日、12月30日～1月3日はお休み）利用時間は午前8時から午後6時まで、受け入れ人数は10名で、ニーズに沿った行政サービスの提供ができていると判断しています。 病児保育延べ人数 平成28年度51名（実利用人数6名） 平成29年度15名（実利用人数6名） 平成30年度87名（実利用人数10名） 令和元年度63名（実利用人数11名） ◎「いちごルーム」西和地域病児保育室（5町で連携協約） 令和2年1月から開始。5町で連携協約を結び、病児保育室を共同実施しました。月曜日から金曜日まで（土曜、日曜、祝日、12月29日～1月3日はお休み）午前8時から午後6時まで。1日定員6名。令和元年度 登録者4名 利用者1名 ※2カ所での病児保育室で、利用者の選択肢が広がりました。																					
ニーズの方向性	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>「ぞうさんのおうち」</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上牧町登録者数（人）</td> <td>13</td> <td>16</td> <td>24</td> <td>36</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>上牧町延べ利用者数（人）</td> <td>24</td> <td>51</td> <td>15</td> <td>87</td> <td>63</td> </tr> </tbody> </table>				「ぞうさんのおうち」	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	上牧町登録者数（人）	13	16	24	36	48	上牧町延べ利用者数（人）	24	51	15	87	63
	「ぞうさんのおうち」	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																
	上牧町登録者数（人）	13	16	24	36	48																
	上牧町延べ利用者数（人）	24	51	15	87	63																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>「いちごルーム」令和元年度</th> <th>上牧町</th> <th>平群町</th> <th>三郷町</th> <th>斑鳩町</th> <th>王寺町</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>各町登録者数（人）</td> <td>4</td> <td>14</td> <td>30</td> <td>46</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>各町延べ利用者数（人）</td> <td>1</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>23</td> </tr> </tbody> </table>				「いちごルーム」令和元年度	上牧町	平群町	三郷町	斑鳩町	王寺町	各町登録者数（人）	4	14	30	46	49	各町延べ利用者数（人）	1	8	7	8	23	
「いちごルーム」令和元年度	上牧町	平群町	三郷町	斑鳩町	王寺町																	
各町登録者数（人）	4	14	30	46	49																	
各町延べ利用者数（人）	1	8	7	8	23																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th colspan="2">■ A. 増加する傾向にある</th> <th colspan="2">□ B. 現状と変わらない</th> <th colspan="2">□ C. 減少する傾向にある</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価の根拠及び理由</td> <td colspan="6">就労形態の多様化、核家族化、女性の社会進出による共働き夫婦の増加に伴い、利用ニーズは今後拡大するものと判断しております。「ぞうさんのおうち」と「いちごルーム」2カ所の設置で、保護者の利便性により、選択が可能となり、利用者が増加すると思えます。</td> </tr> </tbody> </table>				評価	■ A. 増加する傾向にある		□ B. 現状と変わらない		□ C. 減少する傾向にある		評価の根拠及び理由	就労形態の多様化、核家族化、女性の社会進出による共働き夫婦の増加に伴い、利用ニーズは今後拡大するものと判断しております。「ぞうさんのおうち」と「いちごルーム」2カ所の設置で、保護者の利便性により、選択が可能となり、利用者が増加すると思えます。										
評価	■ A. 増加する傾向にある		□ B. 現状と変わらない		□ C. 減少する傾向にある																	
評価の根拠及び理由	就労形態の多様化、核家族化、女性の社会進出による共働き夫婦の増加に伴い、利用ニーズは今後拡大するものと判断しております。「ぞうさんのおうち」と「いちごルーム」2カ所の設置で、保護者の利便性により、選択が可能となり、利用者が増加すると思えます。																					
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない																				
	評価の根拠及び理由 ハード面については2カ所目の病児保育室ができたことにより強化されたと考えますが、住民の方が利用しやすいように、改善点を常に模索し、利用されている方にアンケートをとり、利用するにあたって不備な点やご意見をいただき、改善していくことに努めます。																					

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 2017年度（H29） ～ 2019年度（R01） <input type="checkbox"/> 未実施 → 取組状況 見通し	
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除	
	位置づけ	基本目標	④ 誰もが働きやすい環境をつくる
		基本的方向	① 子育て世帯を中心としたあらゆる世代への就労支援
		施策	② 子育てしながら安心して働ける環境の整備
	KPI	取組内容	② 病児病後児保育機能の強化と保護者負担の軽減
成果指標名		病児病後児保育施設登録者数（目標年度終了時点）	
2020年度（R02） 実施予定		引き続き病児病後児保育を実施します。保育所や学童保育所にチラシを配布し、登録者数の増加に努めます。また、病児病後児保育の機能の強化、保護者の負担軽減を図るため、アンケートを実施したいと考えていますが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見ながら実施の方法について検討を行います。	
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載			
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載			
指標（予定）	KPI	病児病後児保育施設登録者数（目標年度終了時点）	100人
	—		
	—		
	—		

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	こども支援課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	60ページ
担当係	出会い・子育て支援係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		② ライフスタイルの多様化に対応した結婚・出産・子育て支援		
	施策		③ 安心して共働きできる環境の整備		
	取組内容	25	③ 子育て支援セミナーの開催		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		④未実施		
	2019年度（R01）実施予定		②実施する（開始）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	保護者の子育てを応援するため、乳幼児の健康や育児等について、専門的知識を持つ講師を招いて話を聞き、子育ての不安の解消や自分なりの子育て観を築いていただくことを目的とした子育てセミナーを開催し、子育て支援の充実を図ります。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費								
合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
		（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した						
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）							

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】

25. 子育て支援セミナーの開催

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①			
	独自の指標②			
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 有志住民主催によるイベント（KANMAKI GARDEN）において、生き活き対策課と連携し、子育て中の保護者を対象とした子育てセミナーを開催しました。 開催日 令和元年11月23日（土）13時20分～14時 開催場所 上牧町文化センター（ペガサスホール） セミナー内容 「ことばのチカラ」 保健師による手遊び、紙芝居、あいま言葉ゲーム。理学療法士によるチカラやバランスのとり方体験			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。 参加者 大人 16名、子ども 21名			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 核家族化の進行や共働き世帯の増加等により、ニーズは増加すると考えます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 より多くの方に気軽に参加してもらえるよう、イベント及びセミナーの周知方法について、広報誌の折込チラシだけでなくホームページやFacebookを活用するなど再検討する必要があると考えます。また、参加者のニーズを把握し、今後のセミナーの開催に反映させていただきます。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2019年度（R01）	～	2019年度（R01）
		<input type="checkbox"/> 未実施	→	取組状況			
				見通し			
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える				
		基本的方向	② 結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目ない支援				
		施策	② 子育ての希望を叶えるための支援				
	KPI	取組内容	③ 子育て支援セミナーの開催				
		成果指標名	セミナー年間参加者数（延べ人数）				
目標値		40人					
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		生き活き対策課等と連携を図り、子育て中の保護者やこれからお父さんお母さんになる人を対象に保健師・助産師による子育て支援セミナーの開催を目指し準備を進めていきますが、新型コロナウイルス感染症の状況を見定めて実施の判断をしたいと思います。					
指標 （予定）	KPI	セミナー年間参加者数（延べ人数）				40人	
	—						
	—						
	—						

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	生き活き対策課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	60ページ
担当係	健康増進係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		② ライフスタイルの多様化に対応した結婚・出産・子育て支		
	施策		③ 安心して共働きできる環境の整備		
	取組内容	26	④ パパ教室の開催		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	マタニティ教室の開催 ・妊婦 妊娠期の食事、沐浴体験、妊婦体験、保健事業の紹介 ・助産師による妊娠中の過ごし方、安産のコツ、子育ての知識習得、参加者同士の交流会 ・2回×年4セット（A日程：2時間、B日程：1時間30分）A日程のうち2回は夫も参加してもらえるよう日曜開催 ・教室の延べ人数45名を目標に勧奨を実施します。 ・妊娠届出時から助産師が、教室の勧奨及び教室を担当することで、専門性の高い継続的な支援を実施します。				
独自の指標	指標①	夫の参加延べ人数		目標（値）	13人
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費								
合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
		（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した						
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）							

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
出生数	人	95	118	120	93	97

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった																											
	独自の指標①	夫の参加延べ人数		実績（値）	17人																								
	独自の指標②			実績（値）																									
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 夫の参加延べ人数、目標の13人に対し17人（実人数）の参加があり、当初の目標を達成しました。 日曜日の教室開催や、魅力ある教室内容（夫による妊婦体験）により参加者数が増加したと考えます。参加者のアンケートで「体験できてよかった」との感想が多数あることから、ニーズに沿った教室が展開できていると考えられます。 教室後のアンケートでは、満足度は5段階評価で、A日程平均4.64、夫4.6 B日程4.71、夫4.75であり、両日程ともに4.5以上でした。特に沐浴体験では、体験された夫全員が「大変よかった」と評価していました。																												
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。																												
<令和元年度 妊婦さんあつまれ・パパもあつまれの参加人数>																													
<table><tr><td></td><td>1セット</td><td>2セット</td><td>3セット</td><td>4セット</td><td></td></tr><tr><td>A日程</td><td>6/2（日） 10名（夫婦5組）</td><td>8/30（金） 7名（夫婦3組、妊婦1名）</td><td>12/1（日） 8名（夫婦4組）</td><td>2/28（金） 4名（夫婦1組、妊婦2名）</td><td>A日程合計 29名</td></tr><tr><td>B日程</td><td>6/4（火） 6名（夫婦1組、妊婦3名、夫1名）</td><td>9/3（火） 5名（夫婦1組、妊婦3名）</td><td>12/3（火） 0名</td><td>3/3（火） 7名（夫婦1組、妊婦5名）</td><td>B日程合計 18名</td></tr><tr><td colspan="5"></td><td>全日程 合計47名</td></tr></table>							1セット	2セット	3セット	4セット		A日程	6/2（日） 10名（夫婦5組）	8/30（金） 7名（夫婦3組、妊婦1名）	12/1（日） 8名（夫婦4組）	2/28（金） 4名（夫婦1組、妊婦2名）	A日程合計 29名	B日程	6/4（火） 6名（夫婦1組、妊婦3名、夫1名）	9/3（火） 5名（夫婦1組、妊婦3名）	12/3（火） 0名	3/3（火） 7名（夫婦1組、妊婦5名）	B日程合計 18名						全日程 合計47名
	1セット	2セット	3セット	4セット																									
A日程	6/2（日） 10名（夫婦5組）	8/30（金） 7名（夫婦3組、妊婦1名）	12/1（日） 8名（夫婦4組）	2/28（金） 4名（夫婦1組、妊婦2名）	A日程合計 29名																								
B日程	6/4（火） 6名（夫婦1組、妊婦3名、夫1名）	9/3（火） 5名（夫婦1組、妊婦3名）	12/3（火） 0名	3/3（火） 7名（夫婦1組、妊婦5名）	B日程合計 18名																								
					全日程 合計47名																								
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある																											
	評価の根拠及び理由 夫として、妊娠期のサポートに関する知識や子育てに関する知識、保健福祉サービスの情報を収集したり、地域の中でこれから子どもが生まれる同じ境遇のパパ友達が欲しいという住民の方からの要望があり、参加者人数も増加していることから、仲間づくり・情報共有等の場としてのニーズが高いと考えます。																												
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない																											
	評価の根拠及び理由 日曜日の教室開催は参加者数も多かったため、令和2年度も継続していききたいと思います。また、教室の時間帯においては、「子どものお迎えがあるから、午前中の方が参加しやすい。」との声もあったため、令和2年度は午前中の開催で実施していきたいと思えます。教室内容については、現行の取組に加え、胎児モデルや視聴覚教材を活用し、より分かりやすく、楽しく学んでもらえるよう工夫します。参加者同士の交流促進についても検討します。 また、今後も毎回アンケートを実施し、参加者のニーズを反映した教室開催を検討します。そして、新型コロナウイルス感染症予防対策として、3密（密集、密接、密閉）にならないように、会場を変更したり、マスクの着用や消毒等を徹底していきます。																												

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 2018年度（H30） ~ 2019年度（R01）		
		<input type="checkbox"/> 未実施 → 取組状況 <table><tr><td>見通し</td><td></td></tr></table>	見通し	
見通し				
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除		
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える	
		基本的方向	② 結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目ない支援	
		施策	① 結婚・妊娠・出産の希望を叶えるための支援	
	取組内容	② プレパパママ教室の開催		
KPI	成果指標名	パパの教室参加割合		
	目標値	22%		
2020年度（R02） 実施予定		※「118. マタニティ教室の開催」で記載		
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載				
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載				
指標（予定）	KPI	指標名入力	予定（値）入力	
	KPI	指標名入力	予定（値）入力	
	独自	指標名入力	予定（値）入力	
	独自	指標名入力	予定（値）入力	

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	こども支援課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	60ページ
担当係	出会い・子育て支援係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		② ライフスタイルの多様化に対応した結婚・出産・子育て支援		
	施策		③ 安心して共働きできる環境の整備		
	取組内容	27	⑤ 乳幼児教育の充実		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	乳幼児教育の取組について、0歳から就学前の時期を乳幼児といい、その成長は著しく、人格形成の基礎を作る重要な時期とされています。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭にバランスよく保育計画を立て、保育を行うものです。また、英語知育教育による言葉、和太鼓ミュージックケアによる音感・表現・健康教育、食育等から学ぶ環境、集団生活の中での人間関係等さまざまな視点から乳幼児教育を行います。上牧町立第1保育所で実施しています。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	第1保育所情操教育事業	369	294	368	368		
		369	294	368	369		
	合 計	369	294	368	368	5年間累計	1,399
		369	294	368	369	5年間累計	1,400
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】

27. 乳幼児教育の充実

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①			実績（値）
	独自の指標②			実績（値）
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 英語知育教育は、外国人英語教師により毎月1回、5歳児クラスを対象に1時間、英語のリズムに合わせて歌やダンス、ゲームに取り組んだ結果、英語やアルファベットに対して興味を示し、もっと覚えたい、知りたいという意欲を持つなど、英語という異文化に触れ楽しんでいる姿が見られました。 和太鼓は年8回、5歳児クラスを対象に90分、音楽に合わせてリズムをとり身体を大きく動かし表現することに取り組んだ結果、体感が鍛えられ、集中力を養い、共同性が生まれたと考えます。 外遊び体育指導者研修を受講した男性保育士が4歳児クラスに配属されており、跳び箱や鉄棒に楽しく取り組みました。 子どもが興味を持ったものに関わりながら学ぶことができたと考えます。			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 年長になれば自分たちもやれるという期待感や憧れを抱き、苦手意識を持つことなく子ども自身がスムーズに対応できるようにしておくことは非常に重要なことだと思われるので今後さらにニーズは拡大するものと考えます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 子どもたちに豊かな経験をさせることによって学力や心情・意欲等が育ち、能力の向上につながるため、今後も継続して実施していく予定です。また、子どもたちの実情に応じ、事業の拡大も検討していきます。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2016年度（H28）	～	2019年度（R01）
		<input type="checkbox"/> 未実施	→	取組状況			
				見通し			
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える				
		基本的方向	① 地域による教育・子育て環境を整え、プライベートと仕事の両立を支える				
		施策	④ 就学前児童への教育・保育カリキュラムの充実				
	KPI	取組内容	③ 乳幼児教室の充実				
		成果指標名	乳幼児教室年間開催数				
目標値		36回					
2020年度（R02） 実施予定		子どもたちに豊かな経験をさせることによって学力や心情・意欲等が育ち、能力の向上につながるため、引き続き英語知育教育・和太鼓指導を行い、子どもたちの様子を見ながら事業内容を見直していきます。 英語知育教育については、令和2年度から3歳児と4歳児にも行い、実施回数も増加する予定です。					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		指標（予定）	KPI	乳幼児教室年間開催数		36回	
			—				
			—				
			—				

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	こども支援課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	60ページ
担当係	児童福祉係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		② ライフスタイルの多様化に対応した結婚・出産・子育て支援		
	施策		③ 安心して共働きできる環境の整備		
	取組内容	28	⑥ ファミリー・サポートセンターの実施		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		④未実施		
	2019年度（R01）実施予定		⑤その他		
	説明 （⑤その他の場合）		他の施策で行う		
実施内容	ファミリー・サポートセンター事業は、乳幼児や小学校等の児童を有する子育て中の労働者や主婦等を会員として、児童の預かりの援助を受けることを希望する者と当該援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、調整を行うもので、今後、子育て支援ワーク・ライフ・バランスを推進していくうえで必要な事業であると考えていますが、提供会員の確保が困難であることから事業の実施が難しいため、社会福祉協議会が支援しているボランティアグループの活動等において援助していただきます。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費								
合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
		（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した						
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）							

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
ファミリーサポートセンター利用者数	人	—			0	20

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①			実績（値）
	独自の指標②			実績（値）
	●事業の分析（評価の根拠・理由） ファミリーサポートセンターの実施には至りませんでしたが、社会福祉協議会が支援し運営を行っているボランティアグループの活動により緊急に託児が必要な子どもについての預かり等により保護者と子どもが安心した環境で過ごすことができました。 【利用件数】令和元年度：22件			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 核家族化、共働き家庭の増加により、より身近な地域での拠点づくりが必要であると考えます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 提供会員の人材確保が困難なため実施には至っておりませんが、ボランティアグループを支援している社会福祉協議会と連携をとっていきたいと考えます。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 ~			
		<input checked="" type="checkbox"/> 未実施 → <table border="1"> <tr> <td>取組状況</td> <td>未実施</td> </tr> <tr> <td>見通し</td> <td>事業実施の目途は立っていない</td> </tr> </table>	取組状況	未実施	見通し
取組状況	未実施				
見通し	事業実施の目途は立っていない				
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 削除			
	位置づけ	基本目標			
		基本的方向			
		施策			
		取組内容			
	KPI	成果指標名			
目標値					
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載					
		指標 （予定）	KPI	指標名入力	予定（値）入力
			KPI	指標名入力	予定（値）入力
			独自	指標名入力	予定（値）入力
			独自	指標名入力	予定（値）入力

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	こども支援課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	60ページ
担当係	児童福祉係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標	① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する			
	基本的方向	② ライフスタイルの多様化に対応した結婚・出産・子育て支援			
	施策	③ 安心して共働きできる環境の整備			
	取組内容	29	⑦ 放課後児童クラブの充実		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	保護者が共働き家庭等により、放課後や長期休業日（夏休み等）に保護者の家庭保育が受けられない児童に適切な遊びや生活の場を提供し健全育成を図ります。 ◎上牧町学童保育事業実施規則 開設時間・・・（1）月曜日から金曜日まで 放課後から午後6時まで（2）土曜日 午前8時30分から午後6時まで（3）学校休業日 午前8時30分から午後6時まで。ただし、夏期休業日、冬期休業日及び春期休業日は午前8時から午後6時まで。 定員・・・上牧小学校学童保育所 70名 上牧第二小学校学童保育所 70名 上牧第三小学校学童保育所 70名				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	放課後児童健全育成事業		23,728	22,894	22,934	24,999		
			23,728	22,894	22,934	18,290		
合 計			(R01時点) 23,728	22,894	22,934	24,999	5年間累計	94,555
			(R02時点) 23,728	22,894	22,934	18,290	5年間累計	87,846
2019年度（R01） 実施結果		実施状況	①計画通りに実施した					
		説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
放課後児童クラブ受入人数	人	125	136	145	133	150

29. 放課後児童クラブの充実

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①			実績（値）
	独自の指標②			実績（値）
	●事業の分析（評価の根拠・理由）			
	就労形態の多様化に伴う保育需要に対応するため、平成29年度から全学年を対象として、通年及び長期休暇のみの受入れを実施し、利便性が図られたと考えます。待機児童もなく、申込者すべての受入れができ、概ね目標の結果が得られたと考えます。 平成28年度：135名 平成29年度：135名 平成30年度136名 令和元年度 133名 今年度3学期に新型コロナウイルス感染症が国内で広がり、上牧町内小学校においても3月は休校になりました。そのため、3月は午前8時から午後6時までの一日保育となり、新型コロナウイルス感染症に対しての様々な対応をしながらの開所になりました。児童のマスク着用、手洗い、うがいの励行、物品の消毒、また机を追加し、密にならないような児童の配置を行いました。遊ぶ時にも密にならないように指導するとともに、検温票を配布し、登所時には必ず検温と体調の確認を行い、体調の悪い児童に留意し学童運営を行いました。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 女性の社会進出による共働きの増加に伴い、ニーズは今後さらに拡大するものと考えます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 引き続き、本事業を実施していきますが、保護者の多様なニーズに応えるためには、学童指導員の増員、勤務体制の見直し等が必要であると考えます。なお、重要課題は保育時間の延長です。老朽化している備品等の補充や保育内容の充実等、学童保育所の拡充が必要です。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		■ 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2015年度（H27）	～	2019年度（R01）	
		□ 未実施	→	取組状況				
				見通し				
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除						
	位置づけ	基本目標	④ 誰もが働きやすい環境をつくる					
		基本的方向	① 子育て世帯を中心としたあらゆる世代への就労支援					
		施策	② 子育てしながら安心して働ける環境の整備					
		取組内容	① 子育てと就労の両立の支援					
	KPI	成果指標名	延長保育年間実利用者数					
		目標値	220人					
成果指標名		放課後児童クラブ月間受入人数（年平均値）						
目標値		140人						
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		※「23. 通勤時間のかかる世帯の延長保育料金の支援」で記載						
		指標 （予定）	KPI	指標名入力			予定（値）入力	
			KPI	指標名入力			予定（値）入力	
			独自	指標名入力			予定（値）入力	

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	政策調整課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	60ページ
担当係	政策調整係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		② ライフスタイルの多様化に対応した結婚・出産・子育て支援		
	施策		③ 安心して共働きできる環境の整備		
	取組内容	30	⑧ 子育てママ就業支援事業		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	平成29年度から、「上牧町子育てママ就業支援事業」として、育児の都合に合わせた柔軟な働き方を実現できるようにするため、ラスパ西大和1F（上牧町ささゆりルーム）において、託児スペースとワーキングスペースを併設した就業支援スペース（事業拠点）を設置し、民間事業者との連携により運営を行っています。 令和元年度においては、事業拠点の運営継続とあわせて、子育て期間中の母親に対する社会復帰やキャリアアップの支援を効果的に行うための事業モデル（女性のキャリアアップ・社会復帰モデル）の構築に向けて、平成30年度に作成したプログラムに基づく実証実験を行います。				
独自の指標	指標①	テレワーク拠点雇用者数		目標（値）	50人
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	子育てママ就業支援事業	0	30,082	500	2,000		
		0	30,082	500	2,000		
	合 計	（R01時点）0	30,082	500	2,000	5年間累計	32,582
		（R02時点）0	30,082	500	2,000	5年間累計	32,582
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
出生数	人	95	118	96	93	97

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった														
	独自の指標①	テレワーク拠点雇用者数		実績（値）												
	独自の指標②			実績（値）												
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 事業拠点の雇用者数は令和元年度終了時点で15名と昨年度（18名）より減少し、独自指標の目標値（50名）には届きませんでした。原因のひとつとして、利用者のスキルや経験不足から都市部の仕事の受注に制限がかかっていることが挙げられます。女性のキャリアアップ・社会復帰モデルとして行う人材育成プログラムについては、延べ26名の方が参加しました。プログラム実施後のアンケートでは、参加者の多くが研修内容についての満足度が高いという回答でした。スキルの向上による受注増、社会復帰という効果が確認できるのはこれからということになりますが、プログラムに参加することで、就労意欲や学習意欲が向上するという結果となり、女性のキャリアアップ・社会復帰モデルの有用性についてはある程度実証することはできたと考えます。ただし、研修については継続的に実施していくことや内容をステップアップさせていくことで、社会復帰・キャリアアップを目指す女性のスキルアップにつながっていくと考えられます。															
	【人材育成プログラム】 ・ママの働き方セミナー（定員30名/参加者10名） ・子連れで通える講座（英語）（定員10名/参加者8名） ・子連れで通える講座（IT）（定員10名/参加者8名）															
●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。																
【テレワーク拠点雇用者数の推移】 <p>※就業支援施設は平成29年12月から開設しています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>雇用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>R01</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>					年度	雇用者数	H27	15	H28	15	H29	15	H30	18	R01	15
年度	雇用者数															
H27	15															
H28	15															
H29	15															
H30	18															
R01	15															
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある														
	評価の根拠及び理由 ライフスタイルが多様化しているなかで、共働きしやすいまちづくり等、自己実現できる環境を求めるニーズはさらに増すと考えます。															
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない														
	評価の根拠及び理由 子育てママ就業支援事業については、人材育成や仕事の受注等、継続的かつ安定的な事業展開を目指す上において解決すべき課題はありますが、全国的にも実施事例等も少ないため、調査・研究等の時間を要すると考えます。															

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2017年度（H29）	～	2019年度（R01）
		<input type="checkbox"/> 未実施	→	取組状況			
				見通し			
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	④ 誰もが働きやすい環境をつくる				
		基本的方向	① 子育て世帯を中心としたあらゆる世代への就労支援				
		施策	② 子育てしながら安心して働ける環境の整備				
	KPI	取組内容	③ 子育てママ就業支援事業				
2020年度（R02） 実施予定	成果指標名	子育てママ就業支援施設稼働率					
		目標値	60%				
	指標 （予定）	KPI	子育てママ就業支援施設稼働率				
		—					
		—					

事業拠点（上牧町さきゆりルーム1F）において、引き続き民間事業者との連携により託児スペースとワーキングスペースを併設した就業支援スペースにおけるテレワーク事業の運営を行っていきます。
令和2年度については、令和元年度において上牧町子育てママ就業支援事業推進会議を設置しましたので、地域関係者等と連携を図りながら子育てママ就業支援事業を継続展開していくための検討を行っていく予定です。

※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載

※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	教育総務課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	60ページ
担当係	学校教育係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		② ライフスタイルの多様化に対応した結婚・出産・子育て支援		
	施策		④ 特別支援教育の実施		
	取組内容	31	① 通級指導教室の充実		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	学校において、特別な支援を必要とする児童生徒が増加傾向にあり、また、障がいの種類や程度によっては、特別支援学級に入級しなくても、通級指導で個々の教育ニーズに合った教育を受けることで、成果を上げてきています。児童や家庭の要望に応じて、児童が通級指導教室に来て指導を受ける形態や、教員が各校を訪問して指導する訪問通級指導の形態をとり、実施していきます。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	賃金	1,931	978	1,810	2,015		
		1,931	978	1,810	79		
	需用費	344	301	187	334		
		344	301	187	328		
	役務費	130	160	194	194		
		130	160	194	182		
	備品購入費	234	359	136	200		
		234	359	136	196		
合 計	（R01時点）	2,639	1,798	2,327	2,743	5年間累計	9,507
	（R02時点）	2,639	1,798	2,327	785	5年間累計	7,549
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
通級指導教員数	人	1	2	2	2	2

31. 通級指導教室の充実

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった																																												
	独自の指標①	実績（値）																																												
	独自の指標②	実績（値）																																												
	●事業の分析（評価の根拠・理由） コミュニケーションや学習につまずきを感じている児童に寄り添いながら個々の児童の能力を伸長させていく形で小学校通級指導教室の運営を行うことができました。指導方法の創意工夫や保護者からの教育相談に丁寧に対応し、また、他の教職員に対する指導助言等が総合的に効果を上げ、コミュニケーションや学習に課題を抱える児童の成長が見られました。 さらに、教員が上牧町や河合町・王寺町の児童在籍校に赴いて指導する訪問通級指導も定着し、北葛城郡における通級指導教育のセンター的役割を果たすことができました。そのことが、個別の教育的ニーズのある児童生徒への対応等、インクルーシブ教育システム構築につながるものだと考えます。 小学校の通級指導教室の取組の成果が子どもたちの成長となって表れていることから、中学校でも通級指導教室を開設してほしいという保護者の声があります。そのことについて、上牧中学校及び上牧第二中学校と協議を重ね、指導開始までの流れや指導場所、指導方法、指導の回数、指導教員、小学校との連携等について話し合いを持ちました。																																													
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">通級指導教室 利用人数 (人)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上牧町</td> <td>22</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>31</td> <td>31</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>王寺町</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>9</td> <td>13</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>河合町</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>広陵町</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>15</td> <td>25</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					通級指導教室 利用人数 (人)								H26	H27	H28	H29	H30	R1	上牧町	22	25	35	31	31	36	王寺町	3	6	5	9	13	17	河合町	1	3	3	5	8	9	広陵町	4	11	12	15	25	
通級指導教室 利用人数 (人)																																														
	H26	H27	H28	H29	H30	R1																																								
上牧町	22	25	35	31	31	36																																								
王寺町	3	6	5	9	13	17																																								
河合町	1	3	3	5	8	9																																								
広陵町	4	11	12	15	25																																									
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある																																												
	評価の根拠及び理由 質の高い指導が保護者から好評で、指導時間や回数を増やしてほしいとの要望や、中学校でも通級指導を実施してほしいとの声が上がっています。																																													
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない																																												
	評価の根拠及び理由 指導時間や回数等の要望がありますので、ニーズに合った指導ができるように検討していきたいと考えます。県と市町村との地域連携のひとつでもある本事業は、保護者や教職員の理解も深まっており、訪問通級指導の実施による北葛城郡内のセンター的役割も担い、総合的に効果を上げていると考えます。令和2年度からは中学校通級指導教室が開設予定ですので、専門的な見地からの児童生徒への指導に加え、組織的な人材育成（教員養成）や環境整備等、準備や研修もあわせて実施していきたいと考えます。担当以外の教職員についても、通級指導教室に対する知見を深めることを目的として、奈良県立教育研究所が開催している研修会に参加したり、外部講師を招聘して校内研修を実施したりしていきたいと考えます。																																													

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み →	計画期間中の実施年度 2016年度（H28） ～ 2019年度（R01）
		<input type="checkbox"/> 未実施 →	取組状況 見通し
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除	
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える
		基本的方向	① 地域による教育・子育て環境を整え、プライベートと仕事の両立を支える
		施策	⑤ 青少年の健全な育成
	KPI	取組内容	① 通級指導教室（ベガサス教室）の充実
成果指標名		通級指導教員数	
2020年度（R02） 実施予定		令和2年度も、引き続き王寺町・河合町と本町で小学校通級指導教室を実施し、訪問通級指導についても実施していく予定ですが、令和2年3月から新型コロナウイルス感染拡大防止対策として学校は臨時休業となっているので、4月以降も臨時休業が続く場合や、学校再開後もその時の状況によっては、制限のある実施や場合によっては休業する可能性もあります。 かねてより小学校通級指導教室に通う児童の保護者や学校教員から要望の大きかった中学校通級指導教室が、令和2年度から開設する予定ですので、小中学校で継続したよりきめ細やかな指導を実施していきたいと考えます。ただし、小学校通級指導教室と同様に、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、制限のある実施や場合によっては休業する可能性もあります。 小学校・中学校のいずれも休業措置となった場合は、児童生徒の教育活動への影響を最小限に抑えるためにも、感染拡大防止策を講じながら可能な限り早期に再開できるように検討します。	
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載			
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載			
指標（予定）		KPI	通級指導教員数
		—	4人
		—	

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	教育総務課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	61ページ
担当係	学校教育係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する		
	基本的方向		③ ふるさと教育の充実		
	施策		① ふるさと教育の充実		
	取組内容	32	① 県や地域と連携した学習体験・交流活動の実施		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	キャリア教育の一環として生徒の職業観を育み、また、本事業実施後に予定されている職場体験学習への意欲的な参加につなげていくための取組です。上牧中学校・上牧第二中学校の二年生を対象として、各業種で活躍している職業人をゲストティーチャーとして招聘し、自身の職業に関する講話をいただいたり、生徒の前で実演していただきます。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費									
	合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
			（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した							
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）								

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
県内企業や地域との交流活動回数	回	1	2	2	2	3

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①			実績（値）
	独自の指標②			実績（値）
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 「職場のフロアに学ぶ」と銘打ち、各分野の職業現場で実際に用いられている用語や知識、技術・技能を肌で感じることができる貴重な機会を得ることができました。学習の前後にそれぞれアンケートを実施し、職業観についてより具体的に鮮明なイメージを持つことができました。また、学習後に感想文やゲストティーチャーへの御礼文を作成することによって、自身が学習した内容を振り返る機会となり、得られた知識や経験を整理することによって、将来に向けた職業観を形成する一助となりました。			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 キャリア教育の一環である本事業を通して、職業には多様な分野があることが理解できます。それぞれの職業に特色があることや、そこで働く人々の生の声を聴くことによって、その職業の素晴らしさや大変さ、やりがい等を知ることができました。また、それまで漠然としていた職業観が、キャリア教育を通してより鮮明なものとなることが推察されるので、生徒たちに数年後訪れる職業選択の時に、判断基準の一つとして本体験学習の経験が生かされると思われます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 生徒それぞれが興味・関心のある分野と、ゲストティーチャーとして実際に招聘する方の職種のマッチングについて、生徒が希望する分野のゲストティーチャーを全て招聘することは困難なので、生徒が希望する分野のゲストティーチャーではない場合でも、職業人としての経験談を聴くことの意義や、目の前で実演していただけることが貴重な体験であるということを事前に理解させ、意欲を持って学習活動に取り組むことができるようにしていきます。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み <input type="checkbox"/> 未実施	→	計画期間中の実施年度 2019年度（H27） ～ 2019年度（R01）
			→	取組状況 見通し
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除		
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える	
		基本的方向	① 地域による教育・子育て環境を整え、プライベートと仕事の両立を支える	
		施策	⑥ 青少年の健全な育成	
	KPI	取組内容	③ キャリア教育の実施	
成果指標名		県内企業や地域との年間交流活動回数		
目標値		3回		
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		【上牧中学校】 令和元年度に実施した内容を踏襲します。職業人を招いた講演会を生徒が受講し、その後自ら新商品を企画したり顧客を増やしたりするための企画について立案・プレゼンテーションを行い、その内容について講師に講評していただくという内容を予定しています。プレゼンテーションの方法については、令和元年度は模造紙による発表が多かったですが、生徒の実態に応じて他の方法も検討できる余地はあると考えます。また、新たな講師については、今後も探していきたいと考えます。 【上牧第二中学校】 職業体験をすることにより、就労に関しての幅広い知識や興味を獲得すると同時に、将来に向けた職業観の形成と意識改革を図ることを予定しています。また、職業体験実施前には職業人を講師として招いて仕事に関する講演会を開催したり、ビジネスマナーを学ぶ講習会を開催することも予定しております。また、新たな講師や職業体験先については、今後も探していきたいと考えます。		
		KPI	県内企業や地域との交流活動回数	
		指標（予定）	—	3回
			—	
			—	

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	教育総務課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	61ページ
担当係	学校教育係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標	① 教育・子育て環境を整えプライベートと仕事の両立を支援する			
	基本的方向	③ ふるさと教育の充実			
	施策	① ふるさと教育の充実			
	取組内容	33	② 県内優良企業や町内企業における職場体験学習		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	中学校でのキャリア教育における中核事業として、本事業を位置付けています。第二学期に町内外の事業所にご協力いただき、上牧中学校は2日間、上牧第二中学校は3日間の日程で実施します。事前打ち合わせは生徒自らが各受け入れ先事業所に連絡を取った上で出向き、また、事前学習として、「マナー講習会」を受講したり、「仕事のプロに学ぶ」講演会を実施したりして、礼儀やマナーとともに働くことの意義を考え、当日の体験を成功させるための学習活動を展開していきます。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費								
合 計		(R01時点)	0	0	0	0	5年間累計	0
		(R02時点)	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	④計画を変更して実施した						
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）	上牧第二中学校は計画通り実施しました。 上牧中学校は今までとは違った角度から仕事・職業について学習することとし、各分野の職業人を講師として招いて講演をしていただき、それをもとに生徒それぞれが顧客増加の方法や新商品の企画といったプレゼンテーションを立案・実施し、講師の方に講評をしていただきました。						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
県内企業や地域との交流活動回数	回	1	2	2	2	3

33. 県内優良企業や町内企業における職場体験学習

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①	実績（値）		
	独自の指標②	実績（値）		
	●事業の分析（評価の根拠・理由）			
	<p>【上牧中学校】</p> <p>令和元年度から、職場体験に代わって職業人を講師とした講演会を開催し、120名の生徒が参加しました。生徒は、講演会を受講した後、自ら新商品を企画したり顧客を増やしたりするための企画について立案・プレゼンテーションを行い、その内容について講師に講評していただくという内容に変更しました。この変更により、「主体的探究心と問題解決能力」「価値あるものを創造する力」「プレゼンテーション能力の向上」を生徒に身につけさせることによってキャリア形成を図ろうと考えました。講演会の名称は、「仕事のプロに学ぶ講演会」としました。プロの視点からの講評は具体的かつ的確であり、社会で働くことに係る課題や問題は、生徒が想定したものはるかに超えるものであることを理解し、同時にやりがいや意義、奥深さ等も理解することができ、就労に関する理解と意欲の向上につながりました。</p> <p>【上牧第二中学校】</p> <p>職場体験において、42名の生徒が参加し、多種多様な業種（町立図書館・町立幼稚園・私立幼稚園・私立保育園・郵便局・洋菓子店・食品メーカー・奈良交通・楽器店・スポーツ用品店・美容室・食料品店・障害者支援施設・介護老人保健施設）への体験をしました。この3日間の職業体験により、各分野の職業現場で実際に用いられている用語や知識、技術・技能を肌で感じることができる貴重な機会を得ることができました。職場体験学習を実施した学習の前後にそれぞれアンケートを実施したところ、「達成感があって気持ちよかった」「貴重な体験をすることができた」「最初は不安だったが楽しく終えることができた」「働くことの大変さがわかった」等、職業観について学習前より具体的なイメージを持つことができたという回答が多数ありました。学習後に感想文やお世話になった商店等への御礼文を作成することによって、自身が学習した内容を振り返る機会となり、将来に向けた職業観を形成する一助となりました。また、職業体験の実施前には外部講師を招聘してマナー講習会を開催し、お辞儀や簡単な挨拶の仕方等について実践的な講習をすることによって、生徒に正しいマナーを身につけさせ、自信をもって職場体験に臨めるようにしました。</p>			
●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。				
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 キャリア教育の一環である本事業を通して、職業には多様な分野があることが理解できます。あわせて、それぞれの職業に特色があることや、そこで働く人々の生の声を聴くことによって、その職業の素晴らしさや大変さ、やりがい等を知ることができます。特色には地域性も大きく関係していることから、キャリア教育と同時に地元・上牧（奈良）に対する愛着や誇りを持つきっかけとしても期待できると考えます。また、それまで漠然としていた職業観が、キャリア教育を通してより鮮明なものとなることが推察されますので、数年後、生徒たちに訪れる職業選択の時に、判断基準の一つとして本体験学習の経験が生かされることを期待しています。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 事業は現状を維持しながら進めていくことが基本となりますが、学習内容をより充実・発展させるための見直しとして、新たに職場体験を受け入れていただける事業所を探すことが挙げられます。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2015年度（H27）	～	2019年度（R01）
		<input type="checkbox"/> 未実施	→	取組状況			
				見通し			
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	① 若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える				
		基本的方向	① 地域による教育・子育て環境を整え、プライベートと仕事の両立を支える				
		施策	⑥ 青少年の健全な育成				
	KPI	取組内容	③ キャリア教育の実施				
		成果指標名	県内企業や地域との年間交流活動回数				
目標値		3回					
2020年度（R02） 実施予定		※「32. 県や地域と連携した学習体験・交流活動の実施」で記載					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載							
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載							
指標 （予定）	KPI	指標名入力				予定（値）入力	
	KPI	指標名入力				予定（値）入力	
	独自	指標名入力				予定（値）入力	

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	まちづくり創生課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	62ページ
担当係	まちづくり推進係	関連部局	政策調整課		

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		② 若者世帯を中心とした転入世帯が住みやすい住環境を整備する		
	基本的方向		① 既存ストックを活用した住環境の整備		
	施策		① 空き家活用プロジェクト		
	取組内容	34	① 空き家バンク登録物件の説明会の開催		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		④未実施		
	2019年度（R01）実施予定		⑤その他		
	説明 （⑤その他の場合）		事業実施に向けた取組の推進		
実施内容	上牧町空き家・空き地バンクを全国版空き家・空き地バンクのプラットフォームを用いて開設します。 特定非営利活動法人 空き家コンシェルジュと共同で「空き家セミナー・相談会」を開催します。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費									
	合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
			（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した							
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）								

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
仲介による空き家賃貸利用数	件	—	—	—	—	6

34. 空き家バンク登録物件の説明会の開催

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①	実績（値）		
	独自の指標②	実績（値）		
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 上牧町空き家・空き地バンク設置要綱（平成31年3月29日施行）の制定とともに、全国版空き家・空き地バンクを開設し、4件の物件登録を行いました。 特定非営利活動法人 空き家コンシェルジュと共同で「空き家セミナー・相談会」の開催や「上牧町空き家等及び空き地の適切な管理に関する条例」（平成30年12月20日 条例第31号）第8条に基づき、上牧町空き家等対策協議会を開催しました。令和元年度に開催した空き家等対策協議会の協議内容は、直接空き家バンク登録物件の説明会につながるものではありませんでしたが、今後は空き家問題全般について協議していく予定です。			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 少子高齢化の進展に伴い、今後も空き家件数は増加していくことが見込まれるため、空き家の管理・利活用に関する情報発信やマッチングを含め、幅広い支援を求めるニーズは増加してくる考えられます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 空き家バンクの登録件数の増加のための取組は必要ですが、空き家バンク運営のみにとらわれず、多方面に渡る空き家問題に対し、包括的に取り組む必要があります。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 _____ ~ _____ <input checked="" type="checkbox"/> 未実施 → 取組状況 事業の実施に向けた調整・協議を行った 見通し 2020年度（R02）において事業実施予定										
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除										
	位置づけ	基本目標 ② 上牧町への新しい人の流れをつくる										
		基本的方向 ① 既存ストックの利活用促進										
		施策 ① 空き家活用プロジェクト										
	KPI	取組内容 ① 空き家利活用の推進										
成果指標名 空き家・空き地バンク登録件数（累計）												
2020年度（R02） 実施予定		特定非営利活動法人 空き家コンシェルジュに協力していただき、空き家相談会の開催を目指します。空き家バンクや空き家相談会の情報を空き家所有者へ訴求できる方法を税務課に協力を仰ぎながら検討していきます。また、空き家実態調査時に行ったアンケートにより判明した利活用に興味を示されている空き家所有者に対しても案内状の送付を考えていきます。不動産流通に乗らないような空き家についても、先進的な取組を行っている空き家コンシェルジュと連携することで解決できるよう検討していきます。										
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">指標 （予定）</td> <td>独自</td> <td>空き家・空き地バンク登録件数（累計）</td> <td>10件</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	指標 （予定）	独自	空き家・空き地バンク登録件数（累計）	10件	—			—		
指標 （予定）	独自	空き家・空き地バンク登録件数（累計）		10件								
	—											
	—											

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	まちづくり創生課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	62ページ
担当係	まちづくり推進係	関連部局	政策調整課		

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		② 若者世帯を中心とした転入世帯が住みやすい住環境を整備する		
	基本的方向		① 既存ストックを活用した住環境の整備		
	施策		① 空き家活用プロジェクト		
	取組内容	35	② 登録物件の測量及び活用事例の紹介		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		④未実施		
	2019年度（R01）実施予定		⑤その他		
	説明 （⑤その他の場合）		事業実施に向けた取組の推進		
実施内容	上牧町空き家・空き地バンクを全国版空き家・空き地バンクのプラットフォームを用いて開設します。 特定非営利活動法人 空き家コンシェルジュと共同で「空き家セミナー・相談会」を開催します。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費									
	合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
			（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した							
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）								

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
仲介による空き家賃貸利用数	件	—	—	—	—	6

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①		実績（値）	
	独自の指標②		実績（値）	
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 上牧町空き家・空き地バンク設置要綱（平成31年3月29日施行）の制定とともに、全国版空き家・空き地バンクを開設し、4件の物件登録を行いました。 特定非営利活動法人 空き家コンシェルジュと共同で「空き家セミナー・相談会」の開催や「上牧町空き家等及び空き地の適切な管理に関する条例」（平成30年12月20日 条例第31号）第8条に基づき、上牧町空き家等対策協議会を開催しました。令和元年度に開催した空き家等対策協議会の協議内容は、直接登録物件の活用事例の紹介につながるものではありませんでしたが、今後は空き家問題全般について協議していく予定です。			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 少子高齢化の進展に伴い、今後も空き家件数は増加していくことが見込まれるため、空き家の活用事例等の紹介を含め、幅広い支援を求めるニーズは増加してくる考えられます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 空き家利活用のため、空き家バンク登録物件の活用事例の紹介も必要ですが、空き家バンク運営のみにとらわれず、多方面に渡る空き家問題に対し、包括的に取り組む必要があります。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 ~		
		<input checked="" type="checkbox"/> 未実施 → 取組状況 事業の実施に向けた調整・協議を行った 見通し 2020年度（R02）において事業実施予定		
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除		
	位置づけ	基本目標	② 上牧町への新しい人の流れをつくる	
		基本的方向	① 既存ストックの利活用促進	
		施策	① 空き家活用プロジェクト	
		取組内容	① 空き家利活用の推進	
KPI	成果指標名	空き家・空き地バンク登録件数（累計）		
	目標値	15件		
2020年度（R02） 実施予定		※「34. 空き家バンク登録物件の説明会の開催」で記載		
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載				
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載				
指標 （予定）	KPI	指標名入力	予定（値）入力	
	KPI	指標名入力	予定（値）入力	
	独自	指標名入力	予定（値）入力	
	独自	指標名入力	予定（値）入力	

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	まちづくり創生課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	62ページ
担当係	まちづくり推進係	関連部局	政策調整課		

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		② 若者世帯を中心とした転入世帯が住みやすい住環境を整備する	
	基本的方向		① 既存ストックを活用した住環境の整備	
	施策		① 空き家活用プロジェクト	
	取組内容	36	③ 貸主と借主との仲介	
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		④未実施	
	2019年度（R01）実施予定		⑤その他	
	説明 （⑤その他の場合）		事業実施に向けた取組の推進	
実施内容	上牧町空き家・空き地バンクを全国版空き家・空き地バンクのプラットフォームを用いて開設します。 特定非営利活動法人 空き家コンシェルジュと共同で「空き家セミナー・相談会」を開催します。			
独自の指標	指標①		目標（値）	
	指標②		目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費									
	合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
			（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した							
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）								

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
仲介による空き家賃貸利用数	件	—	—	—	—	6

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①		実績（値）	
	独自の指標②		実績（値）	
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 上牧町空き家・空き地バンク設置要綱（平成31年3月29日施行）の制定とともに、全国版空き家・空き地バンクを開設し、4件の物件登録を行いました。 特定非営利活動法人 空き家コンシェルジュと共同で「空き家セミナー・相談会」の開催や「上牧町空き家等及び空き地の適切な管理に関する条例」（平成30年12月20日 条例第31号）第8条に基づき、上牧町空き家等対策協議会を開催しました。令和元年度に開催した空き家等対策協議会の協議内容は、直接貸主と借主との仲介につながるものではありませんでしたが、今後は空き家問題全般について協議していく予定です。			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 少子高齢化の進展に伴い、今後も空き家件数は増加していくことが見込まれるため、空き家の売買だけでなく賃貸に対する需要も増加すると考えられます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 空き家バンクの登録件数の増加のための取組は必要ですが、空き家バンク運営のみにとらわれず、多方面に渡る空き家問題に対し、包括的に取り組む必要があります。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input type="checkbox"/> 実施済み	→	計画期間中の実施年度	～
		<input checked="" type="checkbox"/> 未実施	→	取組状況 見通し	事業の実施に向けた調整・協議を行った 2020年度（R02）において事業実施予定
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除			
	位置づけ	基本目標	② 上牧町への新しい人の流れをつくる		
		基本的方向	① 既存ストックの利活用促進		
		施策	① 空き家活用プロジェクト		
	KPI	取組内容	① 空き家利活用の推進		
成果指標名		空き家・空き地バンク登録件数（累計）			
2020年度（R02） 実施予定		※「34. 空き家バンク登録物件の説明会の開催」で記載			
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		指標（予定）	KPI	指標名入力	予定（値）入力
			KPI	指標名入力	予定（値）入力
			独自	指標名入力	予定（値）入力
			独自	指標名入力	予定（値）入力

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	政策調整課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	62ページ
担当係	政策調整係	関連部局	まちづくり推進課		

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		② 若者世帯を中心とした転入世帯が住みやすい住環境を整備する		
	基本的方向		① 既存ストックを活用した住環境の整備		
	施策		② UR住宅の活用による若者世帯の定住支援		
	取組内容	37	① UR住宅の活用協議		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	少子高齢化に伴う入居者の減少が進行している「UR西大和片岡台」について、地域のニーズに沿った都市構造の再構築にあたり、若者世帯の転入促進に向けて、UR都市機構と上牧町による協議の場を設け、上牧町の目指す将来像の実現を目指します。 令和元年度については、西大和片岡台団地における少子高齢化の進行に伴う地域課題に対応するにあたり、UR都市機構が取り組んでいる地域医療福祉拠点化の推進について連携を図るための協議を行います。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費								
合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
		（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した						
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）							

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
UR住宅における転入者数	人	96	79	100	103	125

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった																										
	独自の指標①	実績（値）																										
	独自の指標②	実績（値）																										
	●事業の分析（評価の根拠・理由） UR都市機構が進める「地域医療福祉拠点化の推進」について、確認書を取り交わし、連携を行うことができましたので、概ね成果が得られたと考えます。連携の内容としては、今後西大和片岡台団地における生活支援アドバイザーの新規配置に向けた取組が進められます。 【生活支援アドバイザー】 高齢者の見守り・生活相談・交流促進を行うとともに、日頃から高齢者と地域関係者をつなぐ役割を担います。 【UR都市機構との勉強会】 平成29年度 … 1回（UR都市機構の計画・方針の確認、UR西大和片岡台の課題の共有等） 平成30年度 … 5回（連携内容についての協議等） 令和元年度 … 3回（「地域医療福祉拠点化の推進」に係る調整、施設改修（リノベーション、外壁塗装等）方針の確認等）																											
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。																											
【UR住宅における転入者数の推移】 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R01</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>UR住宅における転入者数</td> <td>91</td> <td>74</td> <td>94</td> <td>79</td> <td>103</td> </tr> <tr> <td>【参考】 UR住宅における転出者数</td> <td>154</td> <td>119</td> <td>86</td> <td>112</td> <td>122</td> </tr> <tr> <td>【参考】 入居者増減</td> <td>△ 63</td> <td>△ 45</td> <td>8</td> <td>△ 33</td> <td>△ 19</td> </tr> </tbody> </table>						H27	H28	H29	H30	R01	UR住宅における転入者数	91	74	94	79	103	【参考】 UR住宅における転出者数	154	119	86	112	122	【参考】 入居者増減	△ 63	△ 45	8	△ 33	△ 19
	H27	H28	H29	H30	R01																							
UR住宅における転入者数	91	74	94	79	103																							
【参考】 UR住宅における転出者数	154	119	86	112	122																							
【参考】 入居者増減	△ 63	△ 45	8	△ 33	△ 19																							
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある																										
	評価の根拠及び理由 UR西大和片岡台については、今後も人口減少が深刻化していくことが予想されており、自治会やタウンミーティング等においても、UR西大和片岡台の現状を案じる声が挙がるなど、今後の活用に向けて、UR都市機構と行政間での具体的な協議を望む住民が増えています。																											
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない																										
	評価の根拠及び理由 令和元年度においては、「地域医療福祉拠点化の推進」について連携することができ、UR住宅の活用に向けた取組を進めることができましたが、その他の活用事例についても調査・研究を行い、地域の実情に応じて活用の幅を広げていくことが必要であると考えます。																											

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2016年度（H28）	～	2019年度（R01）
		<input type="checkbox"/> 未実施	→	取組状況			
				見通し			
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	② 上牧町への新しい人の流れをつくる				
		基本的方向	① 既存ストックの利活用促進				
		施策	② UR住宅の活用による移住・定住促進				
	KPI	取組内容	① UR住宅の活用及び入居促進				
成果指標名		UR住宅における年間転入者数					
2020年度（R02） 実施予定		引き続きUR都市機構と連携し、「地域医療福祉拠点化の推進」以外の事業についても連携の可能性について協議を行うとともに、入居促進の取組として、UR西大和片岡台の整備方針を踏まえて、UR都市機構と相談しながら啓発活動やリノベーションに関する要望等を行う予定です。					
		指標（予定）	KPI	UR住宅における年間転入者数			110人
			—				
			—				

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	政策調整課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	62ページ
担当係	政策調整係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		② 若者世帯を中心とした転入世帯が住みやすい住環境を整備する		
	基本的方向		① 既存ストックを活用した住環境の整備		
	施策		② UR住宅の活用による若者世帯の定住支援		
	取組内容	38	② UR住宅への入居促進		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	UR西大和片岡台の整備方針を踏まえて、UR都市機構と相談しながら啓発活動やリノベーションに関する要望等を行います。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費								
合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
		（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した						
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）							

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
UR住宅における転入者数	人	96	79	100	103	125

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった																										
	独自の指標①			実績（値）																								
	独自の指標②			実績（値）																								
	●事業の分析（評価の根拠・理由） UR都市機構との協議で、入居促進に向けた整備として、外壁改修やリノベーションについての要望を行いました。現段階では各部屋ごとの状況に応じてリノベーションを進めていくといった考え方であり、改修に向けた具体的な調整まで至りませんでした。																											
	【UR都市機構との勉強会】 平成29年度 … 1回（UR都市機構の計画・方針の確認、UR西大和片岡台の課題の共有等） 平成30年度 … 5回（連携内容についての協議等） 令和元年度 … 3回（「地域医療福祉拠点化の推進」に係る調整、施設改修（リノベーション、外壁塗装等）方針の確認等）																											
●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。																												
【UR住宅における転入者数の推移】 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R01</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>UR住宅における転入者数</td> <td>91</td> <td>74</td> <td>94</td> <td>79</td> <td>103</td> </tr> <tr> <td>【参考】 UR住宅における転出者数</td> <td>154</td> <td>119</td> <td>86</td> <td>112</td> <td>122</td> </tr> <tr> <td>【参考】 入居者増減</td> <td>△ 63</td> <td>△ 45</td> <td>8</td> <td>△ 33</td> <td>△ 19</td> </tr> </tbody> </table>						H27	H28	H29	H30	R01	UR住宅における転入者数	91	74	94	79	103	【参考】 UR住宅における転出者数	154	119	86	112	122	【参考】 入居者増減	△ 63	△ 45	8	△ 33	△ 19
	H27	H28	H29	H30	R01																							
UR住宅における転入者数	91	74	94	79	103																							
【参考】 UR住宅における転出者数	154	119	86	112	122																							
【参考】 入居者増減	△ 63	△ 45	8	△ 33	△ 19																							
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある																										
	評価の根拠及び理由 今後もUR西大和片岡台の人口減少が深刻化していくことが予想される中で、自治会やタウンミーティング等においても、UR西大和片岡台の現状を案じる声が挙がるなど、町の活気や住民サービスを維持するため、入居促進に向けての積極的な取組に対するニーズが増えています。																											
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない																										
	評価の根拠及び理由 UR住宅への入居促進については人口が急速に減少していることから、ある程度町として関与していく必要があると考えます。施設については築年数が経過しており、リノベーション等の改修を行うことで入居促進につながると考えますので、他団体の取組事例等も参考にしながら引き続きUR都市機構に働きかけを行います。																											

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み →	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">計画期間中の実施年度</div>	2016年度（H28） ~ 2019年度（R01）	
		<input type="checkbox"/> 未実施 →	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">取組状況</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">見通し</div>	
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除			
	位置づけ	基本目標	② 上牧町への新しい人の流れをつくる		
		基本的方向	① 既存ストックの利活用促進		
		施策	② UR住宅の活用による移住・定住促進		
	KPI	取組内容	① UR住宅の活用及び入居促進		
成果指標名		UR住宅における年間転入者数			
		目標値	110人		
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートに記載		※「37. UR住宅の活用協議」で記載			
		指標（予定）	KPI	指標名入力	予定（値）入力
			KPI	指標名入力	予定（値）入力
			独自	指標名入力	予定（値）入力

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	まちづくり創生課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	63ページ
担当係	まちづくり推進係	関連部局	総務課		

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		② 若者世帯を中心とした転入世帯が住みやすい住環境を整備する	
	基本的方向		① 既存ストックを活用した住環境の整備	
	施策		③ 公共交通の利便性向上	
	取組内容	39	① 上牧町交通政策検討会の開催	
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		④未実施	
	2019年度（R01）実施予定		②実施する（開始）	
	説明 （⑤その他の場合）			
実施内容	上牧町交通網対策検討会開催に向けて公共交通の課題を洗い出すための内部検討会を開催します。			
独自の指標	指標①		目標（値）	
	指標②		目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費								
合 計		(R01時点)	0	0	0	0	5年間累計	0
		(R02時点)	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	②計画通りに実施できなかった						
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）	内部検討会で検討するための十分な議題を準備できなかったため、実施できませんでしたが、先行してコミュニティバスの運行改善のための庁内検討会議を開催しました。						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
上牧町交通政策検討会の開催	回	—	—	—	—	1

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①		実績（値）	
	独自の指標②		実績（値）	
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 全体的な町内交通網を検討する会議は、十分な議題を準備できなかったため、実施できませんでしたが、先行して町内を巡回するコミュニティバスの運行改善を検討する庁内検討会議を開催しました。			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 高齢化の進展に伴い、公共交通に対する依存度は高まっていくと考えられます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 上牧町交通網対策検討会の開催に向けて、公共交通への課題やニーズを整理し、検討会で諮問する施策について調整していく必要があります。 鉄道駅がない本町において、民間バスの運行は不可欠であります。その中で、公共交通の利便性の向上に向けた取組の一環としてバス停における環境整備をいかに形成していくかが重要な課題となってきます。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 ~			
		<input checked="" type="checkbox"/> 未実施 → 取組状況 事例等の調査・研究を実施した 見通し 2020年度（R02）において事業実施予定			
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除			
	位置づけ	基本目標	② 上牧町への新しい人の流れをつくる		
		基本的方向	② 若年層のUIターン促進と関心・認知度の向上		
		施策	① 公共交通の利便性向上		
		取組内容	① 上牧町交通網対策検討会の開催		
KPI	成果指標名	上牧町交通網対策検討会の年間開催数			
	目標値	2回			
2020年度（R02） 実施予定		公共交通の利便性の向上や町民の移動手段に関するニーズに応えるためにどのような対策を講じるべきかについての課題や上牧町のコンパクトなまちの特性を生かして、現在整備を行っている町の中心部を流れる滝川遊歩道を活用して、住民の健康増進につながるようウォーキングや自転車で町内を周遊してもらえる政策を検討していきます。 令和2年度は、自転車道整備の一環として、町道における自転車誘導帯の設置について、関係各課及び関係機関と協議していきます。 公共交通（民間バス）において、バス停の利便性向上に向けた取組として、ベンチ及び屋根等の設置における指針の取りまとめを行い、その指針に従いベンチ等の設置を行います。			
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		指標（予定）	KPI	上牧町交通網対策検討会の年間開催数	2回
			—		
			—		

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	総務課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	63ページ
担当係	財政係	関連部局	まちづくり創生課		

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		② 若者世帯を中心とした転入世帯が住みやすい住環境を整備する		
	基本的方向		① 既存ストックを活用した住環境の整備		
	施策		③ 公共交通の利便性向上		
	取組内容	40	② コミュニティバスの利用促進		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	現在巡回バスについては、2台で運行しています。町民の方々から巡回バス運行に関する要望・ご意見をいただいております、コミュニティバスアンケートの実施結果を基に庁内検討会議を実施し、運行計画の見直しを進めます。 令和元年度において、コミュニティバスの時刻表及びバス停の更新を行い、2ルートから3ルートへ車両1台の増加を行います。また、広告付きの時刻表を作成することで費用をかけずに、時刻表の全戸配布を実施します。バス停の看板についても、見やすさを重視したデザインに変更し、看板の時刻表についてもバス停ごとに作成する予定です。				
独自の指標	指標①	コミュニティバス利用者数		目標（値）	51,000人
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	コミュニティバス運行費		9,822	9,217	9,233	12,545	補正により車両1台、バス停更新費用等を追加。	
			9,822	9,217	9,233	17,836		
合 計		(R01時点)	9,822	9,217	9,233	12,545	5年間累計	40,817
		(R02時点)	9,822	9,217	9,233	17,836	5年間累計	46,108
2019年度（R01） 実施結果		実施状況	①計画通りに実施した					
		説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①	コミュニティバス利用者数		実績（値） 49,600
	独自の指標②			実績（値）
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 令和元年度において、コミュニティバスの時刻表及びバス停の更新を行い、2ルートから3ルートへ車両1台の増加を行いました。また、広告付きの時刻表を作成することで費用をかけずに、時刻表の全戸配布を実施しました。バス停の看板についても、見やすさを重視したデザインに変更しました。また看板の時刻表についてもバス停ごとに作成しました。 なお、令和2年4月1日から新ルートでの運行を開始します。運行実績については、今後の動向を踏まえ注視していく予定です。2ルート2台運行のバス停33カ所から3ルート3台のバス停42カ所に増設しました。			
ニーズの方向性	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
	【利用者数】 H29 48,700人 H30 50,541人 R01 49,697人 ※令和元年度は、コロナ感染症の影響により減少			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 高齢者の増加に伴い、町内を移動できる手段の確保は急務です。路線バスとコミュニティバスの共存を進め、交通弱者の一助になるよう、より良い環境整備を進める必要があります。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 コミュニティバスの運行改訂後、実際の運行の中で様々な課題が想定され、今後の状況を次回の改訂に向けて情報収集する必要があります。と考えます。また、今後シルバー人材センターでの運用マニュアルの作成や運転手の名札着用の実施も検討する必要があります。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		■ 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2015年度（H27）	～	2019年度（R01）
		□ 未実施	→	取組状況			
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	② 上牧町への新しい人の流れをつくる				
		基本的方向	② 若年層のUIターン促進と関心・認知度の向上				
		施策	① 公共交通の利便性向上				
		取組内容	② コミュニティバスの利用促進				
	KPI	成果指標名	コミュニティバスの年間利用者数（延べ人数）				
目標値		52,000人					
2020年度（R02） 実施予定		補助金の活用を行い、新ルート（導入時期の都合により、現在予備車。）のバスの導入を行います。 令和2年度において、シルバー人材センターでの運用マニュアルの検討や運転手の名札着用の実施を行います。 新型コロナウイルス対策の一環として、車内のパーティション設置及び日々の消毒を実施します。					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		指標（予定）	KPI	コミュニティバスの年間利用者数（延べ人数）			51,500人
			—				
			—				

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	まちづくり創生課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	63ページ
担当係	地域活性係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		② 若者世帯を中心とした転入世帯が住みやすい住環境を整備する		
	基本的方向		① 既存ストックを活用した住環境の整備		
	施策		④ コンパクトシティPR活動		
	取組内容	41	① 上牧町魅力発信ツアーの実施		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		④未実施		
	2019年度（R01）実施予定		④実施しない		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	※滝川遊歩道の歩道整備が令和2年度中に完了予定なので、これらが完了する令和3年度以降にまちあるきツアーを実施いたします。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費									
	合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
			（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況								
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）								

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
まちあるきツアー開催数	件	—	—	1	—	1

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①			実績（値）
	独自の指標②			実績（値）
	●事業の分析（評価の根拠・理由）			
ニーズの方向性	評価	<input type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由			
事業の見直し余地 （改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 ~	
		<input checked="" type="checkbox"/> 未実施 → 取組状況 未実施	
		見通し 事業実施の目途は立っていない	
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除	
	位置づけ	基本目標	② 上牧町への新しい人の流れをつくる
		基本的方向	② 若年層のUIターン促進と関心・認知度の向上
		施策	② 関係人口・交流人口の創出
		取組内容	① 観光プログラムの企画・周知・運営
KPI	成果指標名	まちあるきツアー年間開催数	
	目標値	1回	
2020年度（R02） 実施予定		滝川遊歩道の歩道整備が令和2年度中に完了予定なので、これらが完了する令和3年度以降にまちあるきツアーを実施いたします。	
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載			
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載			
		指標（予定）	-
			-
			-

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	政策調整課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	63ページ
担当係	政策調整係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		② 若者世帯を中心とした転入世帯が住みやすい住環境を整備する		
	基本的方向		① 既存ストックを活用した住環境の整備		
	施策		④ コンパクトシティPR活動		
	取組内容	42	② イベント等における町のPRの実施		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	上牧町の魅力をPRするイベントとして、ペガサスフェスタを開催します。また、すむ・奈良・ほっかつ！事業では、北葛城のPRに関する情報を充実させるため、子育てしている方を対象としたママ座談会を実施し、その内容を北葛城ホームページに掲載します。その他、子育て情報誌「リトル・ママ」への北葛城PR内容の掲載や子育てファミリー向けイベント（リトル・ママフェスタ）への出展によるPR活動（チラシ配布等）を実施します。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費	ペガサスフェスタ		2,924	3,338	3,365	3,933			
			2,924	3,338	3,365	3,384			
	すむ・奈良・ほっかつ！事業		17,984	2,000	2,000	2,000			
			17,984	2,000	2,000	2,000			
	北葛城地域プロモーションツアー事業		0	1,454	0	0			
			0	1,454	0	0			
合 計			(R01時点)	20,908	6,792	5,365	5,933	5年間累計	38,998
			(R02時点)	20,908	6,792	5,365	5,384	5年間累計	38,449
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	④計画を変更して実施した							
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）	新型コロナウイルス感染症の影響で、2月27日開催予定のリトル・ママフェスタが延期となり、出展を見送ることになりましたが、代わりに北葛城PR内容について、子育て情報誌「リトル・ママ」に追加掲載することになりました。							

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
町HPのアクセス数	件	110,000	145,276	150,000	167,832	150,000

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった														
	独自の指標①	実績（値）														
	独自の指標②	実績（値）														
	●事業の分析（評価の根拠・理由）															
	ペガサスフェスタについては、新企画としてスイーツエリアの展開やスタンプラリーを実施したことで、およそ3,500人（対前年度比+1,000人）の方が来場され、まちの魅力や賑わいを感じていただけたと考えます。 また、すむ・奈良・ほっかつ！事業では、2月にママ座談会の内容についてホームページへ公開したことや北葛城PRの内容を子育て情報誌「リトル・ママ」へ掲載したことで、北葛城ホームページへのアクセス数が増加しています。1日の平均アクセス数が約50回であったのに対し、3月以降は1日のアクセス数が150回を超える日もあり、概ね成果は得られたと考えます。															
●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。																
【町HPのアクセス数（件）の推移】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>アクセス数（件）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>110,000</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>120,385</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>141,226</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>145,726</td> </tr> <tr> <td>R01</td> <td>167,832</td> </tr> </tbody> </table>					年度	アクセス数（件）	H27	110,000	H28	120,385	H29	141,226	H30	145,726	R01	167,832
年度	アクセス数（件）															
H27	110,000															
H28	120,385															
H29	141,226															
H30	145,726															
R01	167,832															
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある														
	評価の根拠及び理由 大阪府周辺のベッドタウンとなる自治体との比較の中で、知名度の面を考慮すると、暮らしやすい住環境を町外へPRしていくことが必要であり、イベント等を実施することで、関係人口・交流人口の増加、地域の活性化につなげてほしいというニーズは今後も増えてくると考えます。															
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない														
	評価の根拠及び理由 イベントやPRの継続展開にあたっては、効果検証を重ね、より効果の高い方法を探していく必要があります。また、すむ・奈良・ほっかつ！事業については、事業開始から4年が経過していることもあり、総括的な効果検証も踏まえ、今後の取組の方向性について検討していく必要があります。															

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み <input type="checkbox"/> 未実施	→	計画期間中の実施年度	2015年度（H27）	～	2019年度（R01）
			→	取組状況			
				見通し			
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	② 上牧町への新しい人の流れをつくる				
		基本的方向	② 若年層のUIターン促進と関心・認知度の向上				
		施策	② 関係人口・交流人口の創出				
	KPI	取組内容	② イベント等におけるふるさと帰帰・移住促進PR活動の実施				
成果指標名		プロモーション活動の認知度					
		目標値	50%				
2020年度（R02） 実施予定		引き続き、すむ・奈良・ほっかつ！事業によるプロモーション活動を予定しています。 すむ・奈良・ほっかつ！事業については、北葛城ホームページについて、魅力発信強化を目的として、各町のイベント情報を掲載できる新規ページの作成を予定しており、北葛城の情報発信の場を拡充することで、北葛城に関心を持ってもらうきっかけが増え、関係人口の創出や担い手の確保につなげていくことができるものと考えます。また、総括的な効果検証を行い、今後の取組の方向性についての検討を開始する予定です。 また、ペガサスフェスタについては、令和2年度も引き続き開催を予定していますが、開催にあたっては新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見ながらイベント実施の判断を行います。また、実施できなかった場合は、新型コロナウイルス感染防止対策を含めたイベント運営方法の見直しやコンテンツの検討を行うなど、令和3年度の開催に向けた準備を進める予定です。					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載							
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載							
		KPI	プロモーション活動の認知度				48%
		指標（予定）					

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	政策調整課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	64ページ
担当係	政策調整係	関連部局	まちづくり創生課		

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		② 若者世帯を中心とした転入世帯が住みやすい住環境を整備する	
	基本的方向		② 若年層の回帰の促進	
	施策		① 同居・近居支援	
	取組内容	43	① 同居・近居相談窓口の設置	
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）	
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）	
	説明 （⑤その他の場合）			
実施内容	同居・近居の支援については、空き家利活用に関する不動産事業者等との連携体制の構築とあわせて実施していくことを想定しており、令和元年度においては、不動産事業者等との連携協定の締結に向けた取組を進めます。また、近居、同居の問い合わせに対し、空き家利活用の相談窓口へ案内できるよう、内部で連携を図りながら課題解決に取り組んでいきます。			
独自の指標	指標①		目標（値）	
	指標②		目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費									
	合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
			（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した							
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）								

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
Uターン相談件数	件	—	—	—	—	5件

43. 同居・近居相談窓口の設置

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①			
	独自の指標②			
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 令和元年度において、不動産事業者等（住友不動産株式会社、住友不動産販売株式会社、南都銀行）と「上牧町における地域の活力再生に係る空き家対策等に関する協定」を締結し、同居・近居支援を含めた利活用体制の下地ができたので、概ね成果が得られたと考えます。今後、空き家・空き地バンク登録物件の事前調査やマッチング支援等、民間事業者が持ち得る資源やサービスを有効に活用しながら、空き家・空き地バンクの充実を図り、同居・近居支援の相談に対応できるように取組を進めていきます。			
	【協定の内容】 ①専門事業者による登録物件の登録前調査 ②専門事業者によるマッチング支援及び仲介手数料10%割引 ③バンク登録物件のリフォーム料金3%割引 ④連携事業者とのローン契約時の独自商品の適用			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 高齢化が進行するに伴い、親世代との同居や近居の支援に関するニーズは増えてくると考えます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
評価の根拠及び理由 不動産事業者等と協定を締結することができたので、今後は空き家・空き地バンク登録物件を充実させるための取組を進め、同居・近居に関する相談に対し、様々な選択肢を提案できるよう内容の拡充や体制の確立が必要であると考えます。				

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2018年度（H30）	～	2019年度（R01）
		<input type="checkbox"/> 未実施	→	取組状況			
				見通し			
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	② 上牧町への新しい人の流れをつくる				
		基本的方向	① 既存ストックの利活用促進				
		施策	① 空き家活用プロジェクト				
	KPI	取組内容	① 空き家利活用の推進				
成果指標名		空き家・空き地バンク登録件数（累計）					
		目標値	15件				
2020年度（R02） 実施予定		※まちづくり創生課で実施					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		指標（予定）	KPI	指標名入力			予定（値）入力
			KPI	指標名入力			予定（値）入力
			独自	指標名入力			予定（値）入力
			独自	指標名入力			予定（値）入力

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	政策調整課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	64ページ
担当係	政策調整係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		② 若者世帯を中心とした転入世帯が住みやすい住環境を整備する	
	基本的方向		② 若年層の回帰の促進	
	施策		② 帰っておいでプロジェクト	
	取組内容	44	① 大規模同窓会等の支援	
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		④未実施	
	2019年度（R01）実施予定		②実施する（開始）	
	説明 （⑤その他の場合）			
実施内容	大規模同窓会の支援として、同窓会の運営支援などの制度を構築し、周知を行います。			
独自の指標	指標①		目標（値）	
	指標②		目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費								
	合 計	（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
		（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
	2019年度（R01） 実施結果	実施状況	②計画通りに実施できなかった					
		説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）	同窓会運営支援の実施方法について、具体的な検討ができておらず、制度の構築まで至りませんでした。					

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
地域イベントの開催数	回	—	—	—	—	1

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①		実績（値）	
	独自の指標②		実績（値）	
	●事業の分析（評価の根拠・理由）			
	同窓会運営支援の実施方法について、具体的な検討ができておらず、制度の構築まで至りませんでした。			
●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。				
ニーズの方向性	評価	<input type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 大規模同窓会等の支援については、ふるさとに帰省する機会の1つとなり、ふるさとに対する愛着を持ってもらうことで若年層の回帰の促進につながると考えます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 大規模同窓会等の支援については、他の自治体の取組を参考にしながら、ニーズに合った取組の検討が必要であると考えます。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 ~				
		<input checked="" type="checkbox"/> 未実施 → <table border="1"> <tr> <td>取組状況</td> <td>実施方法等について検討した</td> </tr> <tr> <td>見通し</td> <td>事業実施の目途は立っていない</td> </tr> </table>	取組状況	実施方法等について検討した	見通し	事業実施の目途は立っていない
取組状況	実施方法等について検討した					
見通し	事業実施の目途は立っていない					
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除				
	位置づけ	基本目標	② 上牧町への新しい人の流れをつくる			
		基本的方向	② 若年層のUIターン促進と関心・認知度の向上			
		施策	② 関係人口・交流人口の創出			
	KPI	取組内容	② イベント等におけるふるさと回帰・移住促進PR活動の実施			
成果指標名		プロモーション活動の認知度				
目標値		50%				
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		※「42. イベント等における町のPRの実施」で記載				
指標 （予定）	KPI	指標名入力	予定（値）入力			
	KPI	指標名入力	予定（値）入力			
	独自	指標名入力	予定（値）入力			
	独自	指標名入力	予定（値）入力			

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	政策調整課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	64ページ
担当係	政策調整係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		② 若者世帯を中心とした転入世帯が住みやすい住環境を整備する		
	基本的方向		② 若年層の回帰の促進		
	施策		② 帰っておいでプロジェクト		
	取組内容	45	② 地域イベントへの招待		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	町出身者をイベントに招待し、ペガサスフェスタにおいて、ステージの出演、またはブースの出展を依頼します。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費								
合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
		（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した						
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）							

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
地域イベントの開催数	回	—	—	—	—	1

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった																				
	独自の指標①			実績（値）																		
	独自の指標②			実績（値）																		
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 町出身者を招待し、ペガサスフェスタのステージに出演していただくことができました。ペガサスフェスタについては、新企画としてスイーツエリアの展開やスタンプラリーを実施したことで来場者はおよそ3,500人（対前年度比+1,000人）となり、若者を中心とした町出身者のUターンのきっかけとなるような内容の拡充ができ、概ね目標とする成果が得られたと考えます。																					
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。 【ペガサスフェスタ出展ブース数及びステージ参加団体数の推移】 <table><tr><td></td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R01</td></tr><tr><td>出展ブース数</td><td>20</td><td>21</td><td>21</td><td>23</td><td>30</td></tr><tr><td>ステージ参加団体数</td><td>9</td><td>7</td><td>11</td><td>11</td><td>11</td></tr></table>						H27	H28	H29	H30	R01	出展ブース数	20	21	21	23	30	ステージ参加団体数	9	7	11	11
	H27	H28	H29	H30	R01																	
出展ブース数	20	21	21	23	30																	
ステージ参加団体数	9	7	11	11	11																	
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある																				
	評価の根拠及び理由 少子高齢化に伴い、地域の担い手も減少してきておりますので、若者を中心とした町出身者のUターンのきっかけづくりに対するニーズは増えてくると考えます。																					
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない																				
	評価の根拠及び理由 町主催のイベントを通じて、Uターンのきっかけづくりにつなげられるよう、イベントの内容については随時見直しを行う必要があると考えます。令和元年度のペガサスフェスタにおいてアンケートを実施しており、その内容も参考にしながら、イベント内容の見直しや新コンテンツの追加の検討を行っていきます。																					

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み →	計画期間中の実施年度	2017年度（H29）	～	2019年度（R01）	
		<input type="checkbox"/> 未実施 →	取組状況				
			見通し				
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	② 上牧町への新しい人の流れをつくる				
		基本的方向	② 若年層のUターン促進と関心・認知度の向上				
		施策	② 関係人口・交流人口の創出				
		取組内容	② イベント等におけるふるさと回帰・移住促進PR活動の実施				
	KPI	成果指標名	プロモーション活動の認知度				
目標値		50%					
2020年度（R02） 実施予定		※「42. イベント等における町のPRの実施」で記載					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		指標 （予定）	KPI	指標名入力	予定（値）入力		
			KPI	指標名入力	予定（値）入力		
			独自	指標名入力	予定（値）入力		

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	政策調整課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	65ページ
担当係	政策調整係	関連部局	総務課		

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		③ 広域連携・地域連携による地域力の向上を推進する		
	基本的方向		① 地域資源を活用した広域連携による魅力創出		
	施策		① 北葛4町における公共施設の相互利用		
	取組内容	46	① 公共施設の相互利用		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		④未実施		
	2019年度（R01）実施予定		⑤その他		
	説明 （⑤その他の場合）		取組を実施するための検討・協議		
実施内容	広域連携が可能な文化施設（ホール）や体育館について、近隣自治体との相互利用についての具体的な検討を行っていくために、公共施設広域連携検討会（仮称）の設置に向けた取組を進めます。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費								
合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
		（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した						
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）							

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
町内の広域利用可能施設数	施設	1	—	—	—	3

46. 公共施設の相互利用

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①			実績（値）
	独自の指標②			実績（値）
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 令和元年度において、北葛城4町に加え、大和高田市、香芝市、葛城市の近隣7市町で構成する「公共施設に関する中和・西和広域連携検討会」を設置することができました。 今後、相互利用の実現に向けた課題解決のため、対象施設の現状把握や施設情報の収集、施設利用者に対するアンケート調査の実施等、公共施設の相互利用に向けた具体的な検討を進めていくことができます。			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 施設の老朽化及び人口減少問題等を踏まえ、今後予想される厳しい財政状況の中、多様性を増す住民ニーズに対応していくためには、公共施設の相互利用について検討を進めていくことが必要であると考えます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input checked="" type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 公共施設の相互利用について具体的に検討を進めるための体制を構築することができましたので、現時点では公共施設の相互利用に向けた取組の内容について、見直しの余地はないと考えます。 今後、相互利用の実現に向けた課題解決のため、対象施設の現状把握や施設情報の収集、施設利用者に対するアンケート調査等を実施し、公共施設の相互利用に向けた具体的な検討を進めていきます。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input type="checkbox"/> 実施済み <input checked="" type="checkbox"/> 未実施	→	計画期間中の実施年度 <input type="text"/> ~		
			→	<table border="1"> <tr> <td>取組状況</td> <td>事業の実施に向けた調整・協議を行った</td> </tr> <tr> <td>見通し</td> <td>2020年度（R02）において事業実施予定</td> </tr> </table>	取組状況	事業の実施に向けた調整・協議を行った
取組状況	事業の実施に向けた調整・協議を行った					
見通し	2020年度（R02）において事業実施予定					
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除				
	位置づけ	基本目標	③ 地域がつながり、魅力ある安全・安心なまちをつくる			
		基本的方向	① 地域資源を活用した魅力創出			
		施策	① 公共施設の相互利用			
	KPI	取組内容	① 公共施設広域連携検討会の開催			
		成果指標名	公共施設広域連携検討会の年間開催数			
目標値		3回				
2020年度（R02） 実施予定		※総務課で実施				
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		指標（予定）	KPI	指標名入力	予定（値）入力	
			KPI	指標名入力	予定（値）入力	
			独自	指標名入力	予定（値）入力	
			独自	指標名入力	予定（値）入力	

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	政策調整課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	65ページ
担当係	政策調整係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		③ 広域連携・地域連携による地域力の向上を推進する		
	基本的方向		① 地域資源を活用した広域連携による魅力創出		
	施策		① 北葛4町における公共施設の相互利用		
	取組内容	47	② 相互利用施設の情報発信		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		④未実施		
	2019年度（R01）実施予定		④実施しない		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	令和元年度において、実施の予定はありません。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費								
	合 計	（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
		（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
	2019年度（R01） 実施結果	実施状況						
		説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
町内の広域利用可能施設数	施設	1	—	—	—	3

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①		実績（値）	
	独自の指標②		実績（値）	
	●事業の分析（評価の根拠・理由）			
ニーズの方向性	評価	<input type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由			
事業の見直し余地 （改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 <input type="text"/> ~ <input type="text"/>													
		<input checked="" type="checkbox"/> 未実施 → <table border="1"> <tr> <td>取組状況</td> <td>未実施</td> </tr> <tr> <td>見通し</td> <td>事業実施の目途は立っていない</td> </tr> </table>	取組状況	未実施	見通し	事業実施の目途は立っていない									
取組状況	未実施														
見通し	事業実施の目途は立っていない														
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除													
	位置づけ	基本目標	③ 地域がつながり、魅力ある安全・安心なまちをつくる												
		基本的方向	① 地域資源を活用した魅力創出												
		施策	① 公共施設の相互利用												
	KPI	取組内容	① 公共施設広域連携検討会の開催												
		成果指標名	公共施設広域連携検討会の年間開催数												
目標値		3回													
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		※総務課で実施 <table border="1"> <tr> <td rowspan="4">指標 （予定）</td> <td>KPI</td> <td>指標名入力</td> <td>予定（値）入力</td> </tr> <tr> <td>KPI</td> <td>指標名入力</td> <td>予定（値）入力</td> </tr> <tr> <td>独自</td> <td>指標名入力</td> <td>予定（値）入力</td> </tr> <tr> <td>独自</td> <td>指標名入力</td> <td>予定（値）入力</td> </tr> </table>	指標 （予定）	KPI	指標名入力	予定（値）入力	KPI	指標名入力	予定（値）入力	独自	指標名入力	予定（値）入力	独自	指標名入力	予定（値）入力
指標 （予定）	KPI	指標名入力		予定（値）入力											
	KPI	指標名入力		予定（値）入力											
	独自	指標名入力		予定（値）入力											
	独自	指標名入力	予定（値）入力												

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	まちづくり創生課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	65ページ
担当係	地域活性係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		③ 広域連携・地域連携による地域力の向上を推進する	
	基本的方向		① 地域資源を活用した広域連携による魅力創出	
	施策		② 地域資源をつないだネットワークの形成	
	取組内容	48	① 広域連携による観光プログラムの企画・周知・運営	
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		④未実施	
	2019年度（R01）実施予定		④実施しない	
	説明 （⑤その他の場合）			
実施内容	※滝川整備事業の完了に合わせた事業開始を検討していたことから、事業実施はしておりません。			
独自の指標	指標①		目標（値）	
	指標②		目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費								
合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
		（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況							
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）							

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
パンフレット発行冊数	冊	20,000	48,000	48,000	48,000	30,000

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①			実績（値）
	独自の指標②			実績（値）
	●事業の分析（評価の根拠・理由）			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 _____ ~ _____ <input checked="" type="checkbox"/> 未実施 → <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr> <td>取組状況</td> <td>未実施</td> </tr> <tr> <td>見通し</td> <td>事業実施の目途は立っていない</td> </tr> </table>	取組状況	未実施	見通し	事業実施の目途は立っていない											
取組状況	未実施																
見通し	事業実施の目途は立っていない																
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除															
	位置づけ	基本目標	② 上牧町への新しい人の流れをつくる														
		基本的方向	② 若年層のUIターン促進と関心・認知度の向上														
		施策	② 関係人口・交流人口の創出														
	KPI	取組内容	① 観光プログラムの企画・周知・運営														
		成果指標名	まちあるきツアー年間開催数														
目標値	1回																
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		※「41. 上牧町魅力発信ツアーの実施」で記載 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td rowspan="4">指標 （予定）</td> <td>KPI</td> <td>指標名入力</td> <td>予定（値）入力</td> </tr> <tr> <td>KPI</td> <td>指標名入力</td> <td>予定（値）入力</td> </tr> <tr> <td>独自</td> <td>指標名入力</td> <td>予定（値）入力</td> </tr> <tr> <td>独自</td> <td>指標名入力</td> <td>予定（値）入力</td> </tr> </table>			指標 （予定）	KPI	指標名入力	予定（値）入力	KPI	指標名入力	予定（値）入力	独自	指標名入力	予定（値）入力	独自	指標名入力	予定（値）入力
指標 （予定）	KPI	指標名入力	予定（値）入力														
	KPI	指標名入力	予定（値）入力														
	独自	指標名入力	予定（値）入力														
	独自	指標名入力	予定（値）入力														

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	社会教育課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	65ページ
担当係	生涯学習推進係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標	③ 広域連携・地域連携による地域力の向上を推進する		
	基本的方向	① 地域資源を活用した広域連携による魅力創出		
	施策	② 地域資源をつないだネットワークの形成		
	取組内容	49	② 久渡古墳群等の文化財の保存及び整備の推進	
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）	
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）	
	説明 （⑤その他の場合）			
実施内容	○史跡上牧久渡古墳群整備事業 令和元年度は、上牧町まちづくり基本条例に基づき、学識経験者の他に住民を加えて「史跡上牧久渡古墳群整備基本計画・基本設計」を策定し、町と住民が協働し整備を行っていく予定です。 年次計画（予定） 2018（H30）年度 保存活用計画策定 2019（R01）年度 整備基本計画策定・基本設計 2020（R02）年度 実施設計・整備工事 2021（R03）年度 整備工事 2022（R04）年度 整備工事完了・整備事業報告書作成 ○片岡城跡においては、維持管理のため年に2回草刈業務を実施予定です。 ○「上牧笹ゆり回廊」内にある片岡城跡の環境整備や町内文化財の案内板設置に取り組んでいく予定です。 ○松里園古墳群の採集遺物等の資料調査報告書を刊行予定です。			
独自の指標	指標①			目標（値）
	指標②			目標（値）

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	文化財保護事業	22,936	13,688	11,848	16,282		
		22,936	13,688	11,848	15,266		
	消費・周遊・移住促進事業	0	0	0	0	片岡城跡桜植栽整備工事 案内板設置工事	
		0	0	0	6,853		
合 計		(R01時点) 22,936	13,688	11,848	16,282	5年間累計	64,754
		(R02時点) 22,936	13,688	11,848	22,119	5年間累計	70,591
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
パンフレット発行冊数	冊	20,000	48,000	48,000	48,000	30,000

49. 久渡古墳群等の文化財の保存及び整備の推進

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①	実績（値）		
	独自の指標②	実績（値）		
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 史跡上牧久渡古墳群整備基本計画策定委員会は、学識経験者の他に住民を加えた15名で構成されており、計8回開催しました。委員会では、様々な立場から有意義な意見を伺うことができ、町と住民が協働し整備を進めていくことができたと考えられます。片岡城跡の環境整備としては、景観眺望の再生を目的に樹木等の伐採を行い、主郭部分に桜植樹を実施しました。また、片岡城跡について普及啓発を図るため、秋に文化センターギャラリー内で企画展示を行いました。その他、町内の文化財の普及啓発のため、「上牧笹ゆり回廊」内にある町内文化財の案内板設置3箇所（上牧銅鐸・下牧瓦窯・大谷瓦散布地）道標2箇所（米山台1丁目化石出土地アケボノゾウの臼歯・桜ヶ丘2丁目化石出土地シカマシフゾウのツノ）を設置しました。			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 平成28年度から実施している「歴史を学ぶ講座」の参加者も増加しており、平成24年度からの上牧久渡古墳群発掘調査・整備事業の実施にあわせて、国史跡上牧久渡古墳群を中心に上牧町の文化財についての注目度も高まっています。令和2年度からは上牧町主体で「歴史ガイドボランティア」の養成も行っていく予定です。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 史跡上牧久渡古墳群整備事業については、現状の計画通り、町と住民が協働し整備を行っていきたいと考えております。整備工事に向けて、周辺の自治会・住民と連携を密にとっていくために、整備工事住民説明会を実施していく予定です。「歴史ガイドボランティア養成講座」は、平成29年度に町長部局において史跡上牧久渡古墳群の概略について3回講座が実施されましたが、令和2年度からは史跡上牧久渡古墳群を中心に町全体の文化財についてのガイドを養成するため、主に文化財専門員による講習と現地研修を行います。今後は、児童や生徒向けに町内の郷土学習のための教材作り（絵本等）が必要になってくると考えています。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		■ 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2015年度（H27）	～	2019年度（R01）
		□ 未実施	→	取組状況			
		見通し					
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	③ 地域がつながり、魅力ある安全・安心なまちをつくる				
		基本的方向	① 地域資源を活用した魅力創出				
		施策	② 地域資源の整備				
		取組内容	① 史跡上牧久渡古墳群を中心とした文化財の保存及び整備の推進				
	KPI	成果指標名	歴史ボランティアガイドの養成人数（目標年度終了時点）				
目標値		30人					
2020年度（R02） 実施予定		令和2年度は、史跡上牧久渡古墳群整備事業については、実施設計・整備工事を実施予定です。「歴史ガイドボランティア」の養成や国史跡上牧久渡古墳群を中心に町内の文化財に関しては、引き続き「歴史を学ぶ講座」を中心に普及・啓発を進めていく予定です。新たな取組として、「ふるさと上牧の歴史遺産」と題して、SNSを利用して文化財を紹介する10分程度の番組を作成し、YouTube配信を行う予定です。また、郷土学習として画文帯環状乳神獣鏡や上牧銅鐸のレプリカ等を学校に貸出を行い、活用していく予定です。					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載							
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載							
指標（予定）	KPI	歴史ボランティアガイドの養成人数				20人	
	—						
	—						

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	まちづくり創生課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	65ページ
担当係	まちづくり推進係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		③ 広域連携・地域連携による地域力の向上を推進する		
	基本的方向		① 地域資源を活用した広域連携による魅力創出		
	施策		② 地域資源をつないだネットワークの形成		
	取組内容	50	③ 滝川整備事業		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	滝川遊歩道整備工事L＝708mを実施します。 県が「奈良の河川彩づくり事業」として、虹の湯下の町有地において滝川の親水護岸整備工事を実施します。				
独自の指標	指標①	滝川遊歩道整備事業進捗率		目標（値）	22.6%
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	滝川遊歩道自転車道公園整備に伴う実施設計委託料		0	0	36,185	0	
			0	0	33,496	0	
	滝川遊歩道整備工事		0	0	0	44,000	
			0	0	0	36,943	
	合 計		(R01時点) 0	0	36,185	44,000	5年間累計 80,185
			(R02時点) 0	0	33,496	36,943	5年間累計 70,439
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】

50. 滝川整備事業

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①	滝川遊歩道整備事業進捗率		実績（値） 22.6%
	独自の指標②			実績（値）
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 大学と地元NP0と協働による「滝川における清らかな水辺の創造計画」を実現するため、平成29年度で立案した滝川水辺周辺地区整備計画（5ヶ年計画）について、令和元年度では、まきのは郵便局から文化センターまでの区間における滝川遊歩道整備工事を実施しました。県において親水護岸整備工事の準備工を開始していただきました。また、滝川河床の堆積土砂撤去工事として、工事延長186m、堆積土砂の撤去260㎡、除草工1971㎡、塵芥処理1971㎡を実施していただきました。			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 滝川周辺は野鳥や季節ごとの草木が観察でき、町民にとって身近な散歩道となっています。また、高齢化の進展に伴い住民の健康志向の高まりもあり遊歩道整備についての要望は高くなっていると考えられます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 上牧町第5次総合計画において、将来都市構想における都市の骨格となる軸と位置付けている「かんまき笹ゆり回廊」を中心としたにぎわいあるまちづくりを目指して、県と連携して滝川の水辺景観整備を進めて行く必要があります。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2018年度（H30）	～	2019年度（R01）
		<input type="checkbox"/> 未実施	→	取組状況			
		見通し					
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	③ 地域がつながり、魅力ある安全・安心なまちをつくる				
		基本的方向	① 地域資源を活用した魅力創出				
		施策	② 地域資源の整備				
	KPI	取組内容	② 滝川を活用したにぎわい創出事業				
成果指標名		整備状況進捗率					
2020年度（R02） 実施予定		大学と地元NP0と協働による「滝川における清らかな水辺の創造計画」を実現するため、平成29年度で立案した滝川水辺周辺地区整備計画について、令和2年度以降以下の通り実施予定です。					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載		令和2年度 遊歩道・自転車道整備 令和3年度 自転車道整備 令和4年度 自転車道整備・公園整備 「かんまき笹ゆり回廊」を中心としたにぎわいあるまちづくりを目指して、県と連携して滝川の水辺景観整備を進めることを検討していきます。					
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		指標（予定）	KPI	整備状況進捗率			46.7%
		指標（予定）	—				
		指標（予定）	—				

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	まちづくり創生課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	66ページ
担当係	まちづくり推進係	関連部局	政策調整課		

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		③ 広域連携・地域連携による地域力の向上を推進する		
	基本的方向		② 広域連携による地域力の向上		
	施策		① 空き家バンク共同利用		
	取組内容	51	① 近隣自治体との空き家バンクの共同運営		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		④未実施		
	2019年度（R01）実施予定		⑤その他		
	説明 （⑤その他の場合）		事業実施に向けた取組の推進		
実施内容	上牧町空き家・空き地バンクを全国版空き家・空き地バンクのプラットフォームを用いて開設します。 特定非営利活動法人 空き家コンシェルジュと共同で「空き家セミナー・相談会」を開催します。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費									
	合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
			（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した							
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）								

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
空き家バンク登録件数	件	—	—	—	4	50

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①			実績（値）
	独自の指標②			実績（値）
	●事業の分析（評価の根拠・理由）			
	<p>上牧町空き家・空き地バンク設置要綱（平成31年3月29日施行）を制定しました。 物件情報の掲載項目を標準化するとともに全国の物件情報をワンストップで検索可能となることを目指し、国土交通省が設置を支援した事業者が運営する「全国版空き家・空き地バンク」を活用して、「上牧町空き家・空き地バンク」を開設し、4件の物件登録を行いました。</p> <p>近隣市町村である広陵町と特定非営利活動法人「空き家コンシェルジュ」と協議し、隔年で持ち回り「空き家セミナー・相談会」を実施する取り決めを行いました。令和元年度については、本町で「空き家セミナー・相談会」を開催しました。</p> <p>「上牧町空き家等及び空き地の適切な管理に関する条例」（平成30年12月20日 条例第31号）第8条に基づき、上牧町空き家等対策協議会を開催しました。令和元年度に開催した空き家等対策協議会の協議内容は、直接近隣自治体との空き家バンクの共同運営につながるものではありませんでしたが、今後は空き家問題全般について協議していく予定です。</p>			
●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。				
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 少子高齢化の進展に伴い、今後も空き家件数は増加していくことが見込まれるため、空き家に関する問題についても増加すると考えられます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 空き家バンクの登録件数の増加のための取組は必要ですが、空き家バンク運営のみにとらわれず、多方面に渡る空き家問題に対し、包括的に取り組む必要があります。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input type="checkbox"/> 実施済み	→	計画期間中の実施年度	～
		<input checked="" type="checkbox"/> 未実施	→	取組状況	事業の実施に向けた調整・協議を行った
				見通し	2020年度（R02）において事業実施予定
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除			
	位置づけ	基本目標	② 上牧町への新しい人の流れをつくる		
		基本的方向	① 既存ストックの利活用促進		
		施策	① 空き家活用プロジェクト		
		取組内容	① 空き家利活用の推進		
	KPI	成果指標名	空き家・空き地バンク登録件数（累計）		
目標値		15件			
2020年度（R02） 実施予定		※「34. 空き家バンク登録物件の説明会の開催」で記載			
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		指標 （予定）	KPI	指標名入力	予定（値）入力
			KPI	指標名入力	予定（値）入力
			独自	指標名入力	予定（値）入力
			独自	指標名入力	予定（値）入力

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	政策調整課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	67ページ
担当係	政策調整係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		③ 広域連携・地域連携による地域力の向上を推進する		
	基本的方向		③ 地域活動・NPO活動の促進及び地域住民の活躍の場の創出		
	施策		① 人材バンクの拡充		
	取組内容	52	① 町内の優れた技術・能力を有する人材発掘		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	①高齢者を中心とした地域の担い手の活躍の場、居場所づくり等を目的とした空き家の改修を実施します。 ②教職OBや大学生等、多世代コミュニティにおいて子どもの学習支援を行うまきっ子塾を引き続き実施します。 ③優れた技術・能力を有する人材を発掘するため、他の事業が行われている現場で上牧町の人材バンク制度である「上牧町まちづくり人材バンク」の紹介を積極的に実施していきます。				
独自の指標	指標①	人材バンク登録者の活用人数		目標（値）	5人
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	多世代交流を核とした生涯活躍のまち構想（まきっ子塾含む）	4,164	5,122	6,684	6,425		
		4,164	5,122	6,684	4,965		
	まち・ひと・しごと再生モデル事業（下牧空き家整備事業）	0	0	0	26,411		
		0	0	0	26,382		
	合 計	(R01時点) 4,164	5,122	6,684	32,836	5年間累計	48,806
		(R02時点) 4,164	5,122	6,684	31,347	5年間累計	47,317
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
人材バンク登録者数	人	10	29	50	30	20

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった																					
	独自の指標①	人材バンク登録者の活用人数		実績（値）	9人																		
	独自の指標②			実績（値）																			
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 教職OBや大学生等、多世代コミュニティにおいて子どもの学習支援を行うまきっ子塾を引き続き実施しました。また、空き家の改修を実施し、「ほほ笑みサロン片岡」を設置したことで高齢者を中心とした地域の担い手の活躍の場、居場所づくり等の機会を創出できたと考えます。 人材バンクの登録者数については、KPI目標値の50名に達せず30名でしたが、活用人数については、目標値を上回る9名であり、まきっ子塾のアドバイザーの方に登録していただいたことに加え、人材バンク登録者名簿を庁内で共有したことで増加しています。																						
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。																						
人材バンク登録人数・活用人数推移																							
<table><tr><th></th><th>平成27年度</th><th>平成28年度</th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr><tr><td>登録人数（累計）</td><td>10人</td><td>15人</td><td>20人</td><td>29人</td><td>30人</td></tr><tr><td>活用人数</td><td>1人</td><td>0人</td><td>0人</td><td>0人</td><td>9人</td></tr></table>							平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	登録人数（累計）	10人	15人	20人	29人	30人	活用人数	1人	0人	0人	0人	9人
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																		
登録人数（累計）	10人	15人	20人	29人	30人																		
活用人数	1人	0人	0人	0人	9人																		
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある																					
	評価の根拠及び理由 高齢化の進行に伴い、独居の高齢者も増えてきていることから、高齢になっても、居場所や役割があり、地域とつながりながら、希望や生きがいを持って暮らしたいというニーズも増えてくると考えます。																						
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない																					
	評価の根拠及び理由 現状として、登録者は徐々に増えている一方で、人材バンクに登録された知的財産の活用が十分にできているとは言えない状況です。また、分野によっては登録者数に差がありますので、自治会や各種団体等から人材を紹介してもらうことも検討し、多方面にアプローチすることで人材バンクの充実につなげます。当該制度は登録者、利用者の両者にとって有益なものであり、行政の負担軽減や地域課題の解決、地域の活性化に資するものでありますので、人材バンクが活発に活用されるように引き続き、内部での情報共有を続けるとともに、他自治体の事例を調査しながら社会情勢にあったニーズを把握することで、町民にも利用していただけるように工夫していく必要があると思います。																						

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 2016年度（H28） ~ 2019年度（R01）	
		<input type="checkbox"/> 未実施 → 取組状況 見通し	
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除	
	位置づけ	基本目標	③ 地域がつながり、魅力ある安全・安心なまちをつくる
		基本的方向	② 地域住民との協働によるまちづくりの推進
		施策	① 地域活動の支援・促進
		取組内容	① 町内の優れた技術・能力を有する人材の発掘及び活用の促進
	KPI	成果指標名	人材バンク登録者数（目標年度終了時点）
目標値		40人	
成果指標名		人材バンク登録者年間活用件数	
目標値		20件	
2020年度（R02） 実施予定		社会教育課によるまきっ子塾の継続実施を予定しています。その他、優れた技術・能力を有する人材を発掘するため、広報かんまき及びホームページにおいて人材バンクへの登録、利活用に関する記事の掲載は継続するとともに、SNSにおいても、あわせて掲載することで情報発信の強化に努めます。また、人材バンクは登録者、利用者双方にとって有益なものであるため、町民のさらなるまちづくり参画機会の創出につなげられるよう、関係課との情報共有を引き続き行います。	
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載			
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載			
指標（予定）	KPI	人材バンク登録者数（目標年度終了時点）	35人
	KPI	人材バンク登録者年間活用件数	20件
	—		

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	政策調整課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	67ページ
担当係	政策調整係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		③ 広域連携・地域連携による地域力の向上を推進する		
	基本的方向		③ 地域活動・NPO活動の促進及び地域住民の活躍の場の創出		
	施策		① 人材バンクの拡充		
	取組内容	53	② 人材バンクの情報発信		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	制度の周知とあわせて、町民のさらなるまちづくり参画機会の創出につなげられるよう、関係課と連携を図っていきます。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費									
	合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
			（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した							
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）								

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
人材バンク登録者数	人	10	29	50	30	20

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった				
	独自の指標①			実績（値）		
	独自の指標②			実績（値）		
	●事業の分析（評価の根拠・理由）					
	当初の予定通り、内部で登録者の情報共有を行った結果、9件の活用実績がありました。 また、例年は広報かんまきに登録者の募集記事を年1回のみの掲載でしたが、令和元年度においては、9月に登録者の募集記事を掲載したことに加え、3月には新たに人材バンクの活用を促すことを目的として、登録者の登録分野紹介記事も掲載したことで、計2回の情報発信を実施しました。					
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。					
ニーズの方向性	人材バンク登録人数・活用人数推移					
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	登録人数（累計）	10人	15人	20人	29人	30人
	活用人数	1人	0人	0人	0人	9人
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない				
	評価の根拠及び理由					
	高齢化の進行に伴い、今後、これまで培ってきた経験や技能を生かした高齢者の生きがいづくりや居場所づくりに関する情報を求める声は増えてくると考えます。					

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 2015年度（H27） ~ 2019年度（R01）	
		<input type="checkbox"/> 未実施 → 取組状況 見通し	
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除	
	位置づけ	基本目標	③ 地域がつながり、魅力ある安全・安心なまちをつくる
		基本的方向	② 地域住民との協働によるまちづくりの推進
		施策	① 地域活動の支援・促進
		取組内容	① 町内の優れた技術・能力を有する人材の発掘及び活用の促進
	KPI	成果指標名	人材バンク登録者数（目標年度終了時点）
		目標値	40人
成果指標名		人材バンク登録者年間活用件数	
		目標値	20件
2020年度（R02） 実施予定		※「52. 町内の優れた技術・能力を有する人材発掘」で記載	
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載			
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載			
指標（予定）	KPI	指標名入力	予定（値）入力
	KPI	指標名入力	予定（値）入力
	独自	指標名入力	予定（値）入力

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	政策調整課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	67ページ
担当係	政策調整係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		③ 広域連携・地域連携による地域力の向上を推進する	
	基本的方向		③ 地域活動・NPO活動の促進及び地域住民の活躍の場の創出	
	施策		② 地域活動・NPO活動への参加機会の創出	
	取組内容	54	① 地域活動支援	
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）	
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）	
	説明 （⑤その他の場合）			
実施内容	令和元年度も引き続き、自治会振興費助成金を交付し地域活動を支援します。また、まちづくり協議会の設立に向けた具体的な支援策等について検討を行う予定です。その他、北葛城郡幹部職員研修では、上牧町まちづくり基本条例検証委員会の委員長をお務めいただいた同志社大学新川教授を講師に招き、上牧町まちづくり基本条例に関する講義を行っていただきます。			
独自の指標	指標①		目標（値）	
	指標②		目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	町民提案型バリアフリー基本構想策定支援補助金	700	0	0	0		
		700	0	0	0		
	上牧町自治連合会	0	3,565	3,597	3,584		
		0	3,565	3,571	3,554		
	合 計	700	3,565	3,597	3,584	5年間累計	11,446
		700	3,565	3,571	3,554	5年間累計	11,390
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
新規地域活動団体設立数	団体	—	1	2	—	2

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①			
	独自の指標②			
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 自治会連合会に対しての防犯活動の援助及び助成金の交付等を実施したことで、住民の方の地域活動への機会の創出ができました。そして、北葛城郡幹部研修において、同志社大学新川教授を講師に招き「圏域マネジメント論とこれからの地方自治」という演題で講義を行っていただいたことで、町民参画による協働のまちづくりに関する職員の見識を深められたと考えています。 まちづくり協議会設立に向けた支援策の検討は行えませんでした。自治連合会（政策調整課員3名）で滋賀県甲賀市油日自治振興会を訪問し、まちづくり協議会設立に向けた支援策等の説明を受け、意見交換会を実施したことで、課員の見識を深めることができましたので、概ね目標とする成果が得られたと考えています。			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 高齢化等の問題により、住民自治の維持が困難になっていく中で、地域活動の支援を求めるニーズは今後ますます高まると考えます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 地域活動の支援については今後も継続しますが、高齢化の進行に伴い、担い手も減少している状況においては、支援のあり方や次世代の担い手となる人材の掘り起こし等が必要と考えます。今後は、「まちづくり協議会」の設立の支援等についても検討していく必要があると考えます。「まちづくり協議会」の設立については、あくまで主体となる町民の意思が尊重されるものとなりますが、住民意識の醸成を待つのではなく町職員全員がこの問題について認識し、担い手となる町民とともに一体となって取り組む必要があります。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 2015年度（H27） ～ 2019年度（R01） <input type="checkbox"/> 未実施 → 取組状況 見通し	
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除	
	位置づけ	基本目標	③ 地域がつながり、魅力ある安全・安心なまちをつくる
		基本的方向	② 地域住民との協働によるまちづくりの推進
		施策	① 地域活動の支援・促進
	KPI	取組内容	② 地域活動団体の設立及び活動支援
成果指標名		新規地域活動団体年間設立数	
目標値		9団体	
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		令和2年度も引き続き、町民参画による協働のまちづくりを推進していくため、町民の地域活動支援として上牧町自治連合会や各地域の自治会に補助や助成、地域活動の紹介、各種団体設立支援、自治会設立支援等を行います。 また、まちづくり協議会の設立に向けて、自治連合会（定例会または臨時会、役員会）において必要性等に関する説明と各地区での準備会の設立に関する提案を行うとともに、各地区での会議・検討の支援をしながらニーズの把握を行います。	
		指標（予定） KPI 新規地域活動団体年間設立数 9団体 — —	

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	政策調整課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	67ページ
担当係	政策調整係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		③ 広域連携・地域連携による地域力の向上を推進する	
	基本的方向		③ 地域活動・NPO活動の促進及び地域住民の活躍の場の創出	
	施策		② 地域活動・NPO活動への参加機会の創出	
	取組内容	55	② 地域活動の情報発信	
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）	
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）	
	説明 （⑤その他の場合）			
実施内容	①広報かんまきにおいて、町民向けに地域活動の紹介を行います。 ②2000年会館においては、正面ホールにて地域活動の紹介を行います。 ③中央公民館、ペガサスホール、中央図書館に設置されている掲示板にて地域活動の紹介を行います。 ④SNSや報道機関等で地域活動の紹介について検討します。			
独自の指標	指標①		目標（値）	
	指標②		目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費								
合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
		（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した						
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）							

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
新規地域活動団体設立数	団体	—	1	2	—	2

55. 地域活動の情報発信

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった																		
	独自の指標①			実績（値）																
	独自の指標②			実績（値）																
	●事業の分析（評価の根拠・理由） ①広報かんまきでは55件の地域活動の紹介を行いました。 ②2000年会館において、正面ホールにブースと掲示板を設置し、ボランティア活動や団体活動を紹介するなど情報発信が図られています。 ③中央公民館、ペガサスホール、中央図書館では団体を紹介している掲示板が4枚あり、多様な取組を紹介しています。 ④SNSで11件、ホームページでは10件の地域活動を紹介しました。 ⑤米山台自治会の折りたたみ式ゴミ箱の製作・設置/カーブミラー支柱の犬のおしっこによる腐食のための対策が令和元年7月31日に奈良テレビ放送で取り上げられました。																			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。																			
地域活動の情報発信数 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広報かんまき</td> <td>13件</td> <td>46件</td> <td>55件</td> </tr> <tr> <td>SNS</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>11件</td> </tr> <tr> <td>ホームページ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>10件</td> </tr> </tbody> </table>						平成29年度	平成30年度	令和元年度	広報かんまき	13件	46件	55件	SNS	—	—	11件	ホームページ	—	—	10件
	平成29年度	平成30年度	令和元年度																	
広報かんまき	13件	46件	55件																	
SNS	—	—	11件																	
ホームページ	—	—	10件																	
ニーズの方向性	評価	<input type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある																		
	評価の根拠及び理由 まちづくりへの参画機会の情報を求めている住民のニーズは現状と変わらずあると考えます。																			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない																		
	評価の根拠及び理由 住民主体のまちづくりがさらに推進されるよう、情報発信にあたっては事例等も研究しながら積極的に取り組んでいきたいと考えます。																			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		■ 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2015年度（H27）	～	2019年度（R01）
		□ 未実施	→	取組状況			
				見通し			
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	③ 地域がつながり、魅力ある安全・安心なまちをつくる				
		基本的方向	② 地域住民との協働によるまちづくりの推進				
		施策	① 地域活動の支援・促進				
	KPI	取組内容	② 地域活動団体の設立及び活動支援				
		成果指標名	新規地域活動団体年間設立数				
目標値		9団体					
2020年度（R02） 実施予定		※「54. 地域活動支援」で記載					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載		指標（予定）	KPI	指標名入力		予定（値）入力	
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載			KPI	指標名入力		予定（値）入力	
			独自	指標名入力		予定（値）入力	
			独自	指標名入力		予定（値）入力	

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	政策調整課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	67ページ
担当係	政策調整係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		③ 広域連携・地域連携による地域力の向上を推進する	
	基本的方向		③ 地域活動・NPO活動の促進及び地域住民の活躍の場の創出	
	施策		② 地域活動・NPO活動への参加機会の創出	
	取組内容	56	③ 新規NPOの立ち上げ支援	
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）	
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）	
	説明 （⑤その他の場合）			
実施内容	相談等によるNPOの立ち上げ支援を行うことで、新規の地域活動団体の設立を目指します。 また、団体設立のサポートをするためのマニュアル作成を行います。			
独自の指標	指標①		目標（値）	
	指標②		目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費									
	合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
			（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した							
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）								

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
新規地域活動団体設立数	団体	—	1	2	—	2

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①		実績（値）	
	独自の指標②		実績（値）	
	●事業の分析（評価の根拠・理由）			
	団体設立を検討されている方をサポートできるよう、設立手続きにおける流れや要件等の把握、他市町村の手引きを調査し入手するなど団体設立の相談があった場合に迅速に対応できるよう情報を収集し資料としてまとめましたが、NPO団体の立ち上げに関する相談はありませんでした。			
●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。				
ニーズの方向性	評価	<input type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 現状においても住民による地域活動は活発に行われており、今後もニーズは変わらないと考えます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 NPO団体の設立支援の実績がないので、スムーズに支援できるような体制の構築と、啓発方法について工夫していく必要があると考えます。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		■ 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2017年度（H29）	～	2019年度（R01）
		□ 未実施	→	取組状況			
				見通し			
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	③ 地域がつながり、魅力ある安全・安心なまちをつくる				
		基本的方向	② 地域住民との協働によるまちづくりの推進				
		施策	① 地域活動の支援・促進				
	KPI	取組内容	② 地域活動団体の設立及び活動支援				
		成果指標名	新規地域活動団体年間設立数				
目標値		9団体					
2020年度（R02） 実施予定		※「54. 地域活動支援」で記載					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		指標（予定）	KPI	指標名入力			予定（値）入力
			KPI	指標名入力			予定（値）入力
			独自	指標名入力			予定（値）入力
			独自	指標名入力			予定（値）入力

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	政策調整課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	67ページ
担当係	政策調整係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		③ 広域連携・地域連携による地域力の向上を推進する		
	基本的方向		③ 地域活動・NPO活動の促進及び地域住民の活躍の場の創出		
	施策		② 地域活動・NPO活動への参加機会の創出		
	取組内容	57	④ ボランティアの育成・団体立ち上げ支援		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	上牧町協働のまちづくり公募型補助金の申請を検討されている方からボランティア団体設立についての相談があった場合にサポートを行うとともに、様々な相談に対応できる連携体制の構築を図ります。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費								
	合 計	（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
		（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
	2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
		説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
新規地域活動団体設立数	団体	—	1	2	—	2

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①		実績（値）	
	独自の指標②		実績（値）	
	●事業の分析（評価の根拠・理由）			
	ボランティア団体の立ち上げに関する相談はありませんでした。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 高齢化の進行に伴い、これまで培ってきた経験や知識を生かしたボランティア活動を通じて、人とのつながりや生きがいを求めるニーズは高まると考えます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 ボランティア団体の立ち上げ、育成においては公募型補助金の活用の中で推進していきたいと考えます。また、町民ニーズに対応するため、公募型補助金にとらわれず、相談を通じて様々な提案ができる体制の構築を図ります。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み →	計画期間中の実施年度 2017年度（H29） ～ 2019年度（R01）		
		<input type="checkbox"/> 未実施 →	取組状況 見通し		
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除			
	位置づけ	基本目標	③ 地域がつながり、魅力ある安全・安心なまちをつくる		
		基本的方向	② 地域住民との協働によるまちづくりの推進		
		施策	① 地域活動の支援・促進		
		取組内容	② 地域活動団体の設立及び活動支援		
	KPI	成果指標名	新規地域活動団体年間設立数		
目標値		9団体			
2020年度（R02） 実施予定		※「54. 地域活動支援」で記載			
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		指標（予定）	KPI	指標名入力	予定（値）入力
			KPI	指標名入力	予定（値）入力
			独自	指標名入力	予定（値）入力
			独自	指標名入力	予定（値）入力

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	政策調整課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	67ページ
担当係	政策調整係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		③ 広域連携・地域連携による地域力の向上を推進する	
	基本的方向		③ 地域活動・NPO活動の促進及び地域住民の活躍の場の創出	
	施策		② 地域活動・NPO活動への参加機会の創出	
	取組内容	58	⑤ 自治会設立支援	
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）	
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）	
	説明 （⑤その他の場合）			
実施内容	現在、2ヶ所ある自治会空白地をはじめ、新規自治会の設立を希望する地域へ、自治会の設立の手引きや自治会会則例等を提示して支援を行います。			
独自の指標	指標①		目標（値）	
	指標②		目標（値）	

2. 実施結果「D0（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費								
	合 計	（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
		（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
	2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
		説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
新規地域活動団体設立数	団体	—	1	2	—	2

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①		実績（値）	
	独自の指標②		実績（値）	
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 支援体制については継続して整えておりましたが、新規の問い合わせや設立の申し出はありませんでした。また、下牧1丁目1番地については、現地を訪問し、地域住民の方とお話させていただきましたが、自治会設立には至りませんでした。			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 急にニーズが増えるとは考えにくいですが、新興住宅地の開発に伴い、ニーズが発生する可能性がありますので、要望に対し適切にサポートできる体制を維持していきたいと考えます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 自治会の設立には、地域住民の意思形成に関すること等、中心となる担い手が必要であり、自治会空白期間が長くなっている地域において、自治会の必要性について、理解を浸透させることに時間を要しています。また、将来的には自治会の設立における手続きの簡素化等を検討していく必要があると考えます。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		■ 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2015年度（H27）	～	2019年度（R01）
		□ 未実施	→	取組状況			
				見通し			
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除					
	位置づけ	基本目標	③ 地域がつながり、魅力ある安全・安心なまちをつくる				
		基本的方向	② 地域住民との協働によるまちづくりの推進				
		施策	① 地域活動の支援・促進				
		取組内容	② 地域活動団体の設立及び活動支援				
	KPI	成果指標名	新規地域活動団体年間設立数				
目標値		9団体					
2020年度（R02） 実施予定		※「54. 地域活動支援」で記載					
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		指標 （予定）	KPI	指標名入力			予定（値）入力
			KPI	指標名入力			予定（値）入力
			独自	指標名入力			予定（値）入力
			独自	指標名入力			予定（値）入力

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	総務課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	67ページ
担当係	安全安心係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		③ 広域連携・地域連携による地域力の向上を推進する		
	基本的方向		③ 地域活動・NPO活動の促進及び地域住民の活躍の場の創出		
	施策		③ 防災活動支援・促進		
	取組内容	59	① 防災訓練の定期的な実施支援		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	上牧町総合防災訓練〔会場：上牧町健民運動場〕 災害対策基本法及び上牧町地域防災計画に基づき、大規模地震の発生を想定して上牧町の防災組織を動員するとともに、各防災関係機関及び町民の参加協力のもとに防災訓練や避難所運営ゲーム（HUG）を実施することにより、災害応急対策活動の円滑化及び迅速かつ効果的な協力体制の確立を図り、町民の防災意識の高揚と防災体制の万全を期することを目的とするものです。				
独自の指標	指標①	防災訓練参加人数		目標（値）	500人
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	需用費	132	83	105	255		
		132	83	105	119		
	委託料	0	0	0	434		
		0	0	0	77		
	合 計	132	83	105	689	5年間累計	1,009
		132	83	105	196	5年間累計	516
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
防災訓練参加団体数	団体	20	39	40	44	30

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった			
	独自の指標①	防災訓練参加人数		実績（値）	620人
	独自の指標②			実績（値）	
	●事業の分析（評価の根拠・理由）				
	令和元年度は、上牧町全体の被害を想定した防災訓練を実施し、住民・関係者合わせて約620名が参加しました。多くの住民が参加され、避難訓練や避難所開設訓練、初期消火訓練、避難所運営ゲーム（HUG）、非常食の炊き出し訓練等を行い、概ね初期の目的が達成できたと考えています。 今回の訓練を通じ、住民一人ひとりが、自分の身は自分の努力によって守る「自助」・地域や近隣の人々が協力し合いながら防災活動に組織的に取り組む重要性「共助」を理解してもらうとともに、会場において防災に関する様々な体験をしてもらうことで、町民の防災意識の向上につながったと考えています。				
ニーズの方向性	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。				
	上牧町総合防災訓練参加人数 平成28年度 上小校区 約400名 平成29年度 三小校区 約400名 平成30年度 二小校区 約610名 令和元年度 町内全域 約620名				
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある			
	評価の根拠及び理由				
	近年、大規模災害等が発生している中、災害発生時の初期対応については日頃からの訓練が重要と考えられています。住民の防災意識も高まっており、防災訓練への関心が強くなっています。				
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない			
	評価の根拠及び理由				
	平成28年度から小学校校区を順番に防災訓練を実施し、回数を重ねる毎に参加団体が増加しました。今後は感染症対策を講じた避難所運営のガイドラインを作成し、各地域ごとの避難所運営訓練を実施したいと考えます。				

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 2017年度（H29） ~ 2019年度（R01）		
		<input type="checkbox"/> 未実施 → 取組状況 見通し		
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除		
	位置づけ	基本目標	③ 地域がつながり、魅力ある安全・安心なまちをつくる	
		基本的方向	② 地域住民との協働によるまちづくりの推進	
		施策	② 防災・防犯活動の支援・促進	
	KPI	取組内容	① 防災訓練の実施支援及び近隣自治体との広域連携	
		成果指標名	地域防災訓練の年間支援回数	
		目標値	3回	
成果指標名		広域防災訓練開催に向けた検討会議の年間開催数		
2020年度（R02） 実施予定	目標値	1回		
	避難所運営ゲーム（HUG）を小規模で開催します。 防災士資格取得の支援や防災かまどベンチの作成のための材料支援等も継続して行い、地域防災力の向上を目指し、防災士資格を取得されている方には、防災訓練への参加を要請し、防災士育成も図っていきます。 広域防災訓練開催に向けた検討会議を開催します。 大規模災害の発生を想定した広域防災訓練開催に向け、各市町村の懸念すべき等について近隣市町村との検討会議を開催します。			
	指標（予定）	KPI	地域防災訓練の年間支援回数	3回
		KPI	広域防災訓練開催に向けた検討会議の年間開催数	1回
—				

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	総務課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	67ページ
担当係	安全安心係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		③ 広域連携・地域連携による地域力の向上を推進する		
	基本的方向		③ 地域活動・NPO活動の促進及び地域住民の活躍の場の創出		
	施策		③ 防災活動支援・促進		
	取組内容	60	② 近隣自治体との合同防災訓練の実施		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		④未実施		
	2019年度（R01）実施予定		②実施する（開始）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	北葛城郡4町の防災担当者と協議検討を行います。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費									
	合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
			（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した							
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）								

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①		実績（値）	
	独自の指標②		実績（値）	
	●事業の分析（評価の根拠・理由）			
	北葛城郡の課長で1回、消防主任者で2回協議を行ったが、具体的な進展がなかったため。			
●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。				
ニーズの方向性	評価	<input type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 大規模な災害発生時において、近隣市町村との連携が大事であるため。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 訓練を行うにあたり、想定する問題や合同で行う必要性を再度検討する必要があります。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		■ 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2019年度（R01）	～	2019年度（R01）	
		□ 未実施	→	取組状況				
				見通し				
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除						
	位置づけ	基本目標	③ 地域がつながり、魅力ある安全・安心なまちをつくる					
		基本的方向	② 地域住民との協働によるまちづくりの推進					
		施策	② 防災・防犯活動の支援・促進					
		取組内容	① 防災訓練の実施支援及び近隣自治体との広域連携					
	KPI	成果指標名	地域防災訓練の年間支援回数					
		目標値	3回					
		成果指標名	広域防災訓練開催に向けた検討会議の年間開催数					
目標値		1回						
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		※「59. 防災訓練の定期的な実施支援」で記載						
		指標（予定）	KPI	指標名入力			予定（値）入力	
			KPI	指標名入力			予定（値）入力	
			独自	指標名入力			予定（値）入力	

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	総務課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	67ページ
担当係	安全安心係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標	③ 広域連携・地域連携による地域力の向上を推進する			
	基本的方向	③ 地域活動・NPO活動の促進及び地域住民の活躍の場の創出			
	施策	③ 防災活動支援・促進			
	取組内容	61	③ 子供向け防災教室の拡充		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	教育委員会を通して、町内小中学校で奈良県シェイクアウト訓練参加の周知促進を実施します。 また西和消防署の協力のもと、ペガサスフェスタ2019にて子ども用防災体験コーナーを開催します。				
独自の指標	指標①	ペガサスフェスタ防災体験コーナー参加者数		目標（値）	100人
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費								
合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
		（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した						
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）							

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】

61. 子供向け防災教室の拡充

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①	ベガサスフェスタ防災体験コーナー参加者数	実績（値）	120人
	独自の指標②		実績（値）	
	●事業の分析（評価の根拠・理由）			
	小中学校のシェイクアウト訓練参加周知は実施でき、訓練にも参加していただきました。 また、集客の高いイベント「ベガサスフェスタ」において、親子で体験できる救命救急講習会は盛況で、多くの子どもたちに参加してもらうことができ、参加者数は目標値を上回りました。			
●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。				
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 災害に強いひとづくりとして、防災に対する正しい知識と対処方法を認識していただくことが重要であり、子供向け防災教室の充実や次世代の担い手育成の醸成が求められています。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 ベガサスフェスタでは、子どもの防災意識を高める体験コーナーを設けて啓発を行っています。また、総合防災訓練を現在実施していますが、今後は学校、幼稚園、保育所と連携した子ども向けの防災訓練を取り入れていく必要があると考えています。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		■ 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2017年度（H29）	～	2019年度（R01）	
		□ 未実施	→	取組状況				
			見通し					
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除						
	位置づけ	基本目標	③ 地域がつながり、魅力ある安全・安心なまちをつくる					
		基本的方向	② 地域住民との協働によるまちづくりの推進					
		施策	② 防災・防犯活動の支援・促進					
		取組内容	② 子ども防災意識の向上及び防災物資の備蓄					
	KPI	成果指標名	子ども防災意識の向上教室の年間開催数					
		目標値	1回					
		成果指標名	子ども用災害物資の備蓄品数					
目標値		22種類						
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		※「12. 乳幼児子ども防災意識向上事業の実施」で記載						
		指標 （予定）	KPI	指標名入力			予定（値）入力	
			KPI	指標名入力			予定（値）入力	
			独自	指標名入力			予定（値）入力	

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	政策調整課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	68ページ
担当係	政策調整係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		③ 広域連携・地域連携による地域力の向上を推進する		
	基本的方向		③ 地域活動・NPO活動の促進及び地域住民の活躍の場の創出		
	施策		④ 公募型補助金の活用促進		
	取組内容	62	① 上牧町協働のまちづくり公募型補助金事業		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		②実施済み（継続）		
	2019年度（R01）実施予定		①実施する（継続）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	事業補助を希望する団体の公募を行い、補助金を交付することにより、町の活性化に資する公益的活動を行う団体の育成を図り、町民参画の観点を重視した町民と行政との協働のまちづくりを推進するため事業補助を実施します。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費	上牧町協働のまちづくり公募型補助金	363	342	561	810		
		363	342	561	382		
	合 計	363	342	561	810	5年間累計	2,076
		363	342	561	382	5年間累計	1,648
2019年度（R01）実施結果	実施状況	①計画通りに実施した					
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
申請団体数	団体	2	5	6	3	5

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった																						
	独自の指標①				実績（値）																			
	独自の指標②				実績（値）																			
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 令和元年度においては、申請3件であり目標値には届かなかったことから目標とする成果が得られなかったと考えています。（補助対象事業として採択された事業は下記の3件で補助金交付総額は351,582円です。） ①地域の住民の方々が地元で交流できる花火イベントの創造事業（補助金交付額150,000円） ②KANMAKI GARDEN（補助金交付額145,929円） ③KBF2 in かえっこパズール（補助金交付額55,653円） ※KBF2 in かえっこパズールについては、令和2年3月の開催に向け準備を進められていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響でイベントが実施できなかったため、準備段階で支出した金額を交付しています。																							
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。																							
上牧町協働のまちづくり公募型補助金申請件数・補助金交付額推移																								
<table><tr><td></td><td>平成27年度</td><td>平成28年度</td><td>平成29年度</td><td>平成30年度</td><td>令和元年度</td></tr><tr><td>申請件数</td><td>2件</td><td>4件</td><td>4件</td><td>5件</td><td>3件</td></tr><tr><td>補助金交付額</td><td>393,335円</td><td>332,393円</td><td>296,765円</td><td>530,569円</td><td>351,582円</td></tr></table>								平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	申請件数	2件	4件	4件	5件	3件	補助金交付額	393,335円	332,393円	296,765円	530,569円	351,582円
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																			
申請件数	2件	4件	4件	5件	3件																			
補助金交付額	393,335円	332,393円	296,765円	530,569円	351,582円																			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある																						
	評価の根拠及び理由 申請まで至っていない相談、問い合わせが多数あります。公募型補助金制度の設立から現在までの活用実績に伴い、認知度が高まることで、ニーズは今後さらに増えてくるとともに多様化してくるものと考えます。																							
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない																						
	評価の根拠及び理由 平成28年度の制度改正により、弾力化が図られたことで活用実績は増加傾向にありますが、今後、さらに補助金を利用していただくためには、申請される町民（団体）の金銭的負担を軽減することだと考えますので、補助金を限度額まで最大限活用していただけるように上牧町協働のまちづくり公募型補助金交付要綱の改正を行います。																							

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 2015年度（H27） ~ 2019年度（R01）										
		<input type="checkbox"/> 未実施 → 取組状況 見通し										
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除										
	位置づけ	基本目標	③ 地域がつながり、魅力ある安全・安心なまちをつくる									
		基本的方向	② 地域住民との協働によるまちづくりの推進									
		施策	① 地域活動の支援・促進									
		取組内容	③ 上牧町協働のまちづくり公募型補助金事業									
KPI	成果指標名	年間申請団体数										
	目標値	5団体										
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		令和2年度も引き続き、町の活性化に資する公益的活動を行う団体の育成と町民参画の観点重視した町民と行政との協働のまちづくりを推進するため、当該事業を実施します。また、活用促進の一環として、上牧町協働のまちづくり公募型補助金交付要綱の改正も行います。										
		<table><tr><td rowspan="3">指標（予定）</td><td>KPI</td><td>年間申請団体数</td><td>5団体</td></tr><tr><td>—</td><td></td><td></td></tr><tr><td>—</td><td></td><td></td></tr></table>	指標（予定）	KPI	年間申請団体数	5団体	—			—		
指標（予定）	KPI	年間申請団体数		5団体								
	—											
	—											

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	まちづくり創生課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	69ページ
担当係	まちづくり推進係	関連部局	政策調整課		

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		④ 上牧町で働き続けられる環境をつくる		
	基本的方向		① 地域資源を活用した雇用支援		
	施策		① 空き家を活用した雇用創出		
	取組内容	63	① 空き家への事業者入居及び町民雇用の促進		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		④未実施		
	2019年度（R01）実施予定		⑤その他		
	説明 （⑤その他の場合）		事業実施に向けた取組の推進		
実施内容	上牧町空き家・空き地バンクを全国版空き家・空き地バンクのプラットフォームを用いて開設します。 特定非営利活動法人 空き家コンシェルジュと共同で「空き家セミナー・相談会」を開催します。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考	
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）		
事業費								
合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
		（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した						
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）							

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
空き家への事業者入居数	事業者	—	—	—	—	2

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①		実績（値）	
	独自の指標②		実績（値）	
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 上牧町空き家・空き地バンク設置要綱（平成31年3月29日施行）の制定とともに、全国版空き家・空き地バンクを開設し、4件の物件登録を行いました。 特定非営利活動法人 空き家コンシェルジュと共同で「空き家セミナー・相談会」の開催や「上牧町空き家等及び空き地の適切な管理に関する条例」（平成30年12月20日 条例第31号）第8条に基づき、上牧町空き家等対策協議会を開催しました。令和元年度に開催した空き家等対策協議会の協議内容は、空き家への事業者入居及び町民雇用の促進につながるものでありませんでしたが、今後は空き家問題全般について協議していく予定です。			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 少子高齢化の進展に伴い、今後も空き家件数は増加していくことが見込まれるため、住居用の空き家だけでなく店舗用の空き家についても増加すると考えられます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 空き家バンクの登録件数の増加のための取組は必要ですが、空き家バンク運営のみにとらわれず、多方面に渡る空き家問題に対し、包括的に取り組む必要があります。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 ~		
		<input checked="" type="checkbox"/> 未実施 → 取組状況 事業の実施に向けた調整・協議を行った 見通し 2020年度（R02）において事業実施予定		
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除		
	位置づけ	基本目標	② 上牧町への新しい人の流れをつくる	
		基本的方向	① 既存ストックの利活用促進	
		施策	① 空き家活用プロジェクト	
		取組内容	① 空き家利活用の推進	
KPI	成果指標名	空き家・空き地バンク登録件数（累計）		
	目標値	15件		
2020年度（R02） 実施予定		※「34. 空き家バンク登録物件の説明会の開催」で記載		
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載				
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載				
指標 （予定）	KPI	指標名入力	予定（値）入力	
	KPI	指標名入力	予定（値）入力	
	独自	指標名入力	予定（値）入力	
	独自	指標名入力	予定（値）入力	

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	まちづくり創生課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	69ページ
担当係	まちづくり推進係	関連部局	政策調整課		

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		④ 上牧町で働き続けられる環境をつくる		
	基本的方向		① 地域資源を活用した雇用支援		
	施策		① 空き家を活用した雇用創出		
	取組内容	64	② 町内事業所勤務者の入居促進		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		④未実施		
	2019年度（R01）実施予定		⑤その他		
	説明 （⑤その他の場合）		事業実施に向けた取組の推進		
実施内容	上牧町空き家・空き地バンクを全国版空き家・空き地バンクのプラットフォームを用いて開設します。 特定非営利活動法人 空き家コンシェルジュと共同で「空き家セミナー・相談会」を開催します。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費									
	合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
			（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した							
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）								

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
空き家への事業者入居数	事業者	—	—	—	—	2

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①		実績（値）	
	独自の指標②		実績（値）	
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 上牧町空き家・空き地バンク設置要綱（平成31年3月29日施行）の制定とともに、全国版空き家・空き地バンクを開設し、4件の物件登録を行いました。 特定非営利活動法人 空き家コンシェルジュと共同で「空き家セミナー・相談会」の開催や「上牧町空き家等及び空き地の適切な管理に関する条例」（平成30年12月20日 条例第31号）第8条に基づき、上牧町空き家等対策協議会を開催しました。令和元年度に開催した空き家等対策協議会の協議内容は、直接町内事業所勤務者の入居促進につながるものではありませんでしたが、今後は空き家問題全般について協議していく予定です。			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 少子高齢化の進展に伴い、今後も空き家件数は増加していくことが見込まれるため、空き家の利活用の一環として、町内事業所勤務者用住居としての利用に対する要望も増加すると考えられます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 空き家バンクの登録件数の増加のための取組は必要ですが、空き家バンク運営のみにとらわれず、多方面に渡る空き家問題に対し、包括的に取り組む必要があります。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input type="checkbox"/> 実施済み → 計画期間中の実施年度 ~			
		<input checked="" type="checkbox"/> 未実施 → 取組状況 事業の実施に向けた調整・協議を行った 見通し 2020年度（R02）において事業実施予定			
総合戦略（改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除			
	位置づけ	基本目標	② 上牧町への新しい人の流れをつくる		
		基本的方向	① 既存ストックの利活用促進		
		施策	① 空き家活用プロジェクト		
		取組内容	① 空き家利活用の推進		
KPI	成果指標名	空き家・空き地バンク登録件数（累計）			
	目標値	15件			
2020年度（R02） 実施予定		※「34. 空き家バンク登録物件の説明会の開催」で記載			
※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載		指標（予定）	KPI	指標名入力	予定（値）入力
※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載			KPI	指標名入力	予定（値）入力
			独自	指標名入力	予定（値）入力
			独自	指標名入力	予定（値）入力

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	政策調整課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	69ページ
担当係	政策調整係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		④ 上牧町で働き続けられる環境をつくる		
	基本的方向		① 地域資源を活用した雇用支援		
	施策		② 就職情報発信及び就職支援		
	取組内容	65	① 就職情報発信		
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		④未実施		
	2019年度（R01）実施予定		②実施する（開始）		
	説明 （⑤その他の場合）				
実施内容	求職者に対する就労支援と企業や事業者の人材確保に対する支援を行うために、ハローワークが実施している求人情報のオンライン提供サービスを導入し、役場庁舎内において求人情報の閲覧を開始します。				
独自の指標	指標①			目標（値）	
	指標②			目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点		2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点		2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費									
	合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
			（R02時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	①計画通りに実施した							
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）								

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
就職準備セミナーの年間開催数	回	—	—	1	—	1

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①		実績（値）	
	独自の指標②		実績（値）	
	●事業の分析（評価の根拠・理由） 政策調整課窓口において求人情報閲覧用のPC端末を設置し、ハローワークのシステムと連携することで、役場庁舎内において求人情報を閲覧できる環境を構築することができましたので、就職支援を必要としている人に対する利便性の向上を図ることができたと考えます。求人情報のオンライン提供サービスの利用については令和元年7月2日から開始しており、利用実績は6名となっています。			
	●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。			
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 出産後に再就職を希望する女性やシングルマザー等、ライフスタイルは多様化しており、様々な働き方の実現が求められる中で、就職情報を積極的に発信していくなどの就職支援の取組についてのニーズは増加傾向にあると考えます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input checked="" type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 役場庁舎内における求人情報の閲覧については、広報で周知を行いました。取組に対する認知度が十分とは言えませんが、ホームページやSNSを活用し、認知度を向上させていく必要があると考えます。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		■ 実施済み	→	計画期間中の実施年度	2019年度（R01）	～	2019年度（R01）	
		□ 未実施	→	取組状況				
				見通し				
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除						
	位置づけ	基本目標	④ 誰もが働きやすい環境をつくる					
		基本的方向	① 子育て世帯を中心としたあらゆる世代への就労支援					
		施策	① ネットワークを活用した就職支援					
		取組内容	① ハローワーク等と連携した就職支援					
	KPI	成果指標名	就職情報提供端末年間利用者数（延べ人数）					
		目標値	20人					
		成果指標名	就職準備セミナー等への年間参加者数（延べ人数）					
目標値		25人						
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		就職支援として、役場庁舎内における求人情報の閲覧についての取組を継続するとともに、利用環境の整備（レイアウト変更）を行うほか、取組に対する認知度を向上させるために、ホームページやSNS等を活用し、積極的な情報発信を行っていく予定です。 また、ハローワークと連携した就職準備セミナー（マザーズセミナー）の開催を予定していますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を見ながら実施の判断を行います。						
		指標 （予定）	KPI	就職情報提供端末年間利用者数（延べ人数）			20人	
			KPI	就職準備セミナー等への年間参加者数（延べ人数）			25人	
			—					

上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	政策調整課	事業年度	令和元年度	総合戦略掲載ページ	69ページ
担当係	政策調整係	関連部局			

1. 事業概要「PLAN（計画）」

総合戦略上の 位置づけ	基本目標		④ 上牧町で働き続けられる環境をつくる	
	基本的方向		① 地域資源を活用した雇用支援	
	施策		② 就職情報発信及び就職支援	
	取組内容	66	② 就職準備セミナーの開催	
実施の予定・計画	2018年度（H30）終了時点		④未実施	
	2019年度（R01）実施予定		②実施する（開始）	
	説明 （⑤その他の場合）			
実施内容	ハローワークと連携し、就職準備セミナーまたはマザーズセミナーを開催します。			
独自の指標	指標①		目標（値）	
	指標②		目標（値）	

2. 実施結果「DO（実施）」

（単位：千円）

項目/年度	2019年度（R01）時点	2016年度（H28）	2017年度（H29）	2018年度（H30）	2019年度（R01）	備考		
	2020年度（R02）時点	2016年度（H28）（決算）	2017年度（H29）（決算）	2018年度（H30）（決算）	2019年度（R01）（決算見込み）			
事業費								
合 計		（R01時点）	0	0	0	0	5年間累計	0
		（R02時点）	0	0	0	0	0	5年間累計
2019年度（R01） 実施結果	実施状況	②計画通りに実施できなかった						
	説明 （①以外を選択した場合、理由や取組内容について記載）	ハローワークとの調整を行い、3月にマザーズセミナーの開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和元年度の開催は見送りとなりました。						

※検証時点では決算見込み

●KPIの状況

成果指標名	単位	2015年度（H27）	2018年度（H30）	2019年度（R01）		2020年度（R02）
		基準値	実績値	目標値	実績値	【最終目標値】
就職準備セミナーの年間開催数	回	—	—	1	—	1

66. 就職準備セミナーの開催

3. 事業の分析「CHECK（評価）」

達成度	評価	<input type="checkbox"/> A. 目標よりも大きな成果が得られた <input type="checkbox"/> B. 概ね目標の成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> C. 目標とする成果は得られなかった		
	独自の指標①		実績（値）	
	独自の指標②		実績（値）	
	●事業の分析（評価の根拠・理由）			
	ハローワークと連携し、ペガサスフェスタにおいて就職支援出張窓口として出展していただくことができましたが、3月開催予定であったマザーズセミナーについては、新型コロナウイルス感染症の影響で令和元年度中の開催を見送ることとなったため、目標とする成果が得られなかったと考えます。			
●事業の分析（データ：表・グラフ等）※根拠を示すものや内容を補足するものがあれば貼り付けてください。				
ニーズの方向性	評価	<input checked="" type="checkbox"/> A. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> B. 現状と変わらない <input type="checkbox"/> C. 減少する傾向にある		
	評価の根拠及び理由 出産後に再就職を希望する女性やシングルマザー等、ライフスタイルは多様化しており、就職活動に対する不安を抱えている方を支援するための就職準備セミナーやマザーズセミナーの開催等の取組についてのニーズは増加傾向にあると考えます。			
事業の見直し余地（改善点）	評価	<input type="checkbox"/> A. 見直す余地がありすぐに実施 <input type="checkbox"/> B. 見直す余地があるが時間が必要 <input checked="" type="checkbox"/> C. 見直す余地がほとんどない		
	評価の根拠及び理由 マザーズセミナーの開催に向けて準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催が見送りとなったため、令和2年度以降の開催に向けて、再度ハローワークとの調整を行っていきます。			

4. 今後の方向性「ACTION（改善）」

2019年度（R01） 終了時点の実施状況		<input type="checkbox"/> 実施済み	→	計画期間中の実施年度	～
		<input checked="" type="checkbox"/> 未実施	→	取組状況	事業の実施に向けた調整・協議を行った
				見通し	2020年度（R02）において事業実施予定
総合戦略 （改訂版）	移行状況	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 継続（名称変更） <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 削除			
	位置づけ	基本目標	④ 誰もが働きやすい環境をつくる		
		基本的方向	① 子育て世帯を中心としたあらゆる世代への就労支援		
		施策	① ネットワークを活用した就職支援		
		取組内容	① ハローワーク等と連携した就職支援		
	KPI	成果指標名	就職情報提供端末年間利用者数（延べ人数）		
		目標値	20人		
		成果指標名	就職準備セミナー等への年間参加者数（延べ人数）		
目標値		25人			
2020年度（R02） 実施予定 ※「移行状況」が「継続」、「継続（名称変更）」の場合に記載 ※「移行状況」が「統合」の場合は統合する項目について一番若い番号のシートで記載		※「65. 就職情報発信」で記載			
		指標（予定）	KPI	指標名入力	予定（値）入力
			KPI	指標名入力	予定（値）入力
			独自	指標名入力	予定（値）入力